

溝 26 (第 95 図)

調査区北側、C 1 グリッドの南東隅に位置する溝状遺構である。付近には西側 1 m の位置に波板状凹凸遺構が見られ、締りの強い暗灰褐色土を埋土にするなど共通する点は認められるが、波板状凹凸遺構とは連続しないことからここでは別遺構として扱った。

向きは東西方向で、長さ 58cm、幅 25cm、深さ 4 cm である。

本遺構からは出土遺物は認められなかったが、遺構の確認層位から 9 世紀ころと考えられる。

(野口)

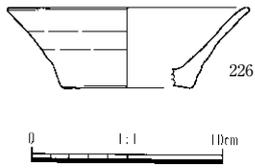
溝 27 (第 93・96 図)

C 2 グリッド北側に位置する。東西方向に走向すると思われるが、西側は試掘調査時のトレンチによって壊されている。確認された範囲では長さ 36cm、幅 30cm、深さ 4 cm と遺存状況は良くない。埋土には暗褐色土が堆積するが、試掘トレンチを挟んだ西側には同じ色調の埋土の溝 24 が位置し、一連の遺構の可能性はある。

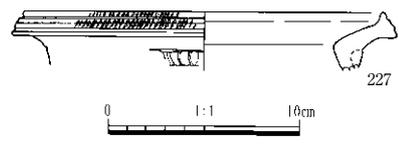
埋土中からは土師器坏 225 が出土する。底部の破片であるが、前述の溝 24 出土土師器同様、底部に糸切り痕は見られず、ヘラ切りによる切り離しであったと思われる。体部の調整は回転ナデである。

本遺構の時期は、出土土器や関連すると思われる溝 24 の年代から、9 世紀ころと考えられる。

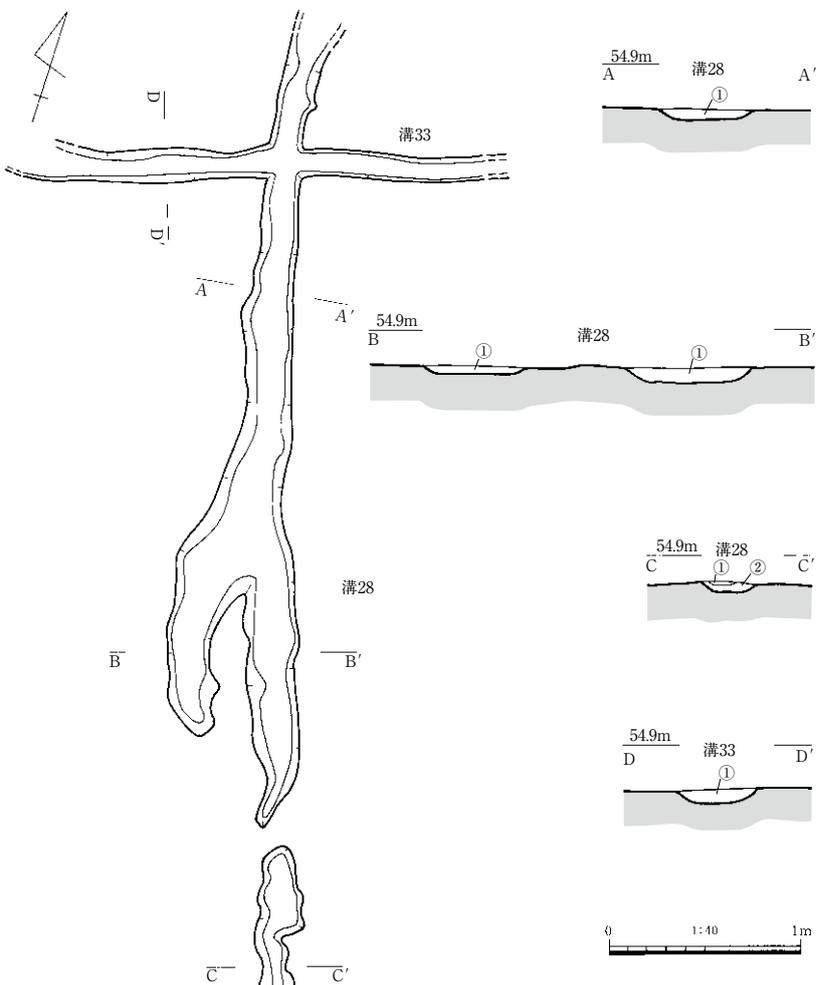
(野口)



第97図 溝28出土遺物



第98図 溝33出土遺物



- ① 黒色土(粘性中、締り中、φ3~5mmの小礫を多く含む)
- ② 黒色砂質土(粘性中、締り強い、φ5~10mmの小礫を多く含む)

溝 28・33 (第 97 ~ 99 図、図版8)

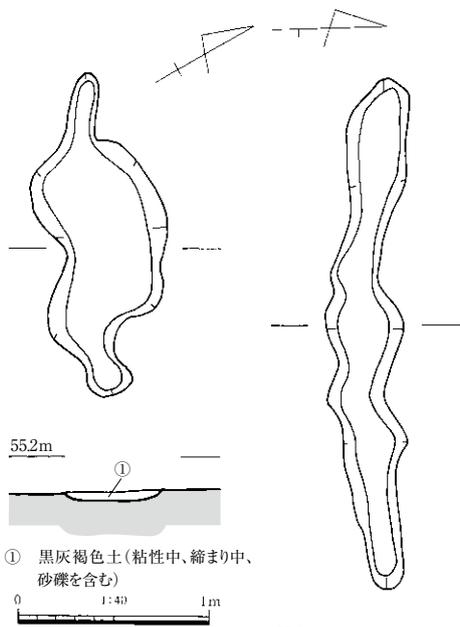
調査区東側に位置する溝状遺構である。溝28はD 1 ~ F 1 グリッドにかけて、N - 14° - W の方位で南北に走向する。北側へはさらに延長するが、E 1 グリッド調査時では認識することができなかった。また中央部付近では長さ2.5m

第99図 溝28・33

ほどの溝が西側に位置し、2条となる。溝33はD 1・2グリッドにかけて、E-14°-Nの方角で東西に走向する。溝33も東西にさらに延長するが、東側は調査区外に伸び、西側はE 2グリッド調査時では認識することはできなかった。両者はE 1グリッドで直交する。

規模は確認できた範囲で、溝 28 が長さ約 15.4 m、幅 35 ~ 73cm、深さ 7 cmを測り、中央部分に接続する溝もほぼ同規模のものである。溝 33 が長さ 6.1 m、幅 30 ~ 45cm、深さ 6 cmを測る。溝底面の標高は、溝 33 の西端が 54.60cmのほかは、溝 33 東端、溝 28 南北端が 54.56 mと西から東にかけてわずかに傾斜するもののほぼ平坦である。埋土は、溝 28・33 とも、小礫を多く含んだ黒色土の堆積であったが、部分的に黒色砂質土が堆積する。

出土遺物には、溝 33 で下層から巻き上げられた弥生土器の甕口縁部 227 が出土し、溝 28 から回転ナデによる調整が施された土師器坏 226 が出土する。底部には糸切り痕は認められないが、形態から 10 世紀ころのものと思われる。本遺構の時期も出土遺物から 10 世紀以降の時期が考えられる。(野口)

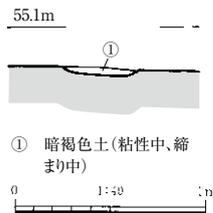


第100図 溝29

溝 29 (第 100 図、図版8)

F 2グリッド北側で位置し、北西-南東方向に走行する。平面形は両端に比べ中央部分が膨らみ不整である。確認面での規模は、長さ 1.7 m、幅 14 ~ 62cm、深さ 5 cmを測る。遺構底面両端の標高は 54.96 mと比高差は見られない。埋土は砂礫を含んだ黒灰褐色土で、2 mほど北側に位置する溝 31 と近いが、関連性については不明である。

本遺構の時期は、確認される層位から 9 世紀ころと考えられる。(野口)

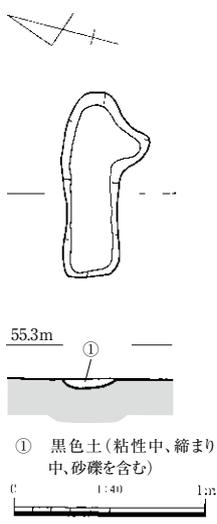


第101図 溝30

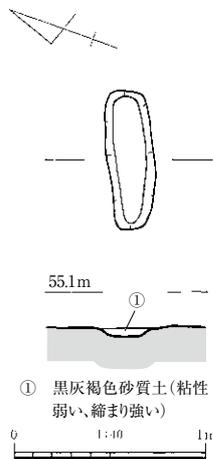
溝 30 (第 101 図、図版8)

E・F 2グリッドの境界に位置する溝状遺構で、東西方向に走向する。確認面での規模は、長さ 2.7 m、幅 19 ~ 40 cm、深さ 3 cmを測る。遺構底面西端の標高は 54.88 m、東端は 54.84 mとわずかではあるが、西に比べ東側が低い。埋土は暗褐色土が堆積するが、周辺で確認される溝 29・31 とは土質を異にする。

本遺構の時期は、確認される層位から 9 世紀ころと考えられる。(野口)



第102図 溝32



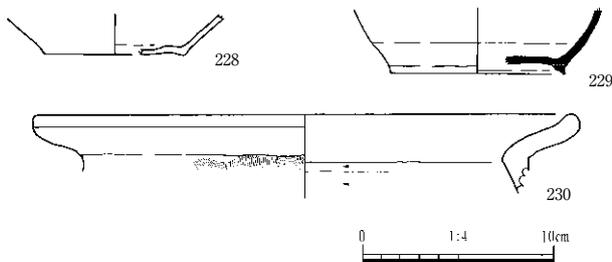
第103図 溝31

溝 31 (第 103 図、図版8)

E 2グリッド南西隅で確認された東西方向に走向する溝状遺構である。確認面での規模は、長さ 74cm、幅 26cm、深さ 4 cmと遺存状況は良くない。遺構底面両端の標高は 54.86 mと比



第104図 溝34



第105図 溝34出土遺物

溝 32 (第 102 図)

F 1 グリッド南西隅に位置する。走向は東西方向である。確認面での規模は、長さ 98cm、幅 28～44cm、深さ 4cm と遺存状況は良くない。遺構底面西端の標高は 55.10 m、東端は 55.04 m と西から東に向かい若干傾斜が見られ、砂礫を含んだ黒色土を埋土とする。

本遺構の時期は、確認される層位から 9 世紀ころと考えられる。

(野口)

溝 34 (第 104・105 図)

C 4・5 グリッドに位置する。整地層除去後、V 層上面において検出した。本遺構西側は東西方向に軸をとり、東側では北に走向する。本遺構は調査区外に延び全長は不明であるが、検出した長さは約 8.8 m である。検出面での幅は 0.45～2.44 m、検出面からの深さは西端 10cm、北端 28cm である。

底面の標高は西端 54.66 m、北端 54.46 m であり、比高差が 20cm ある。断面形は逆台形を呈す。埋土は黒色土を主体とし、灰白色シルトがラミナ状に混入する。埋土の体積状況から判断して、溝内は流水の環境下におかれていた可能性が高い。

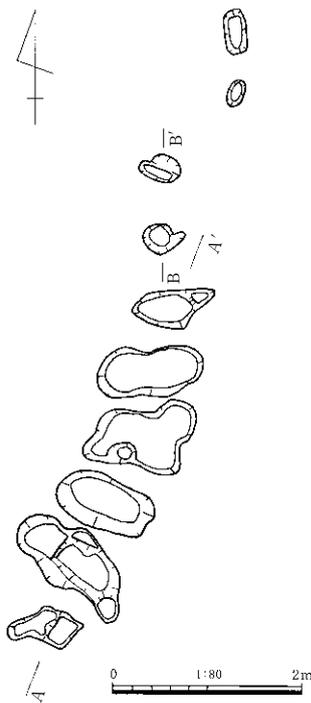
埋土中から 228 ～ 230 の土器が出土した。228 は土師器坏で、内外面回転ナデ調整、須恵器高台坏 229 は底部回転糸切りによる切り離し痕跡が認められる。

本遺構の時期は出土遺物より判断し、9 世紀後半～ 10 世紀頃と思われる。(森本)

波板状凹凸遺構 (第 106 ～ 108 図、図版 9)

調査区北側、C 1 グリッドで溝状、及びピット状の凹凸を検出した。溝・ピット状の凹凸は、その北半部で南北方向に連なり、南半部で若干西に振って連なる。凹凸は北側のものは浅く、遺存状況は良くないが、さらに北側に展開すると思われる。

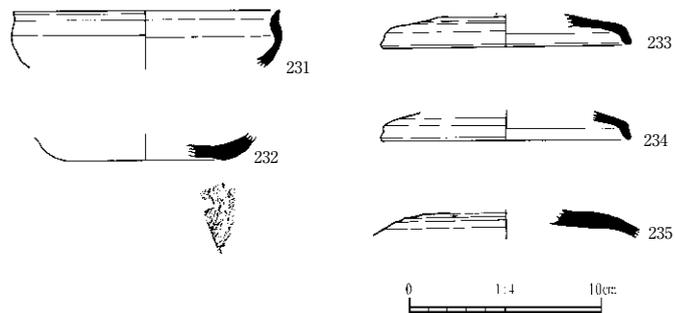
確認された範囲では、凹凸の範囲は南北に 7 m のび、幅は最大で 1.4 m を測る。深さ 4 ～ 14 cm で南半部のものが深い。埋土は、凹凸 2 つに暗褐色土が認められるほかは、小礫を含んだ暗灰褐色土が堆積する。



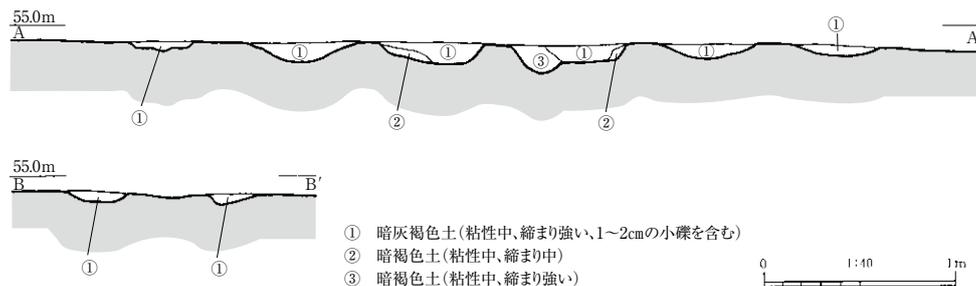
第106図 波板状凹凸遺構

波板状凹凸遺構は、従前の調査・研究では、道路遺構との関連性が指摘される。本遺構の調査では、硬化面等、道路遺構と積極的に関連付ける痕跡は認められなかったが、遺構埋土である暗灰褐色土は締まった状態であった。

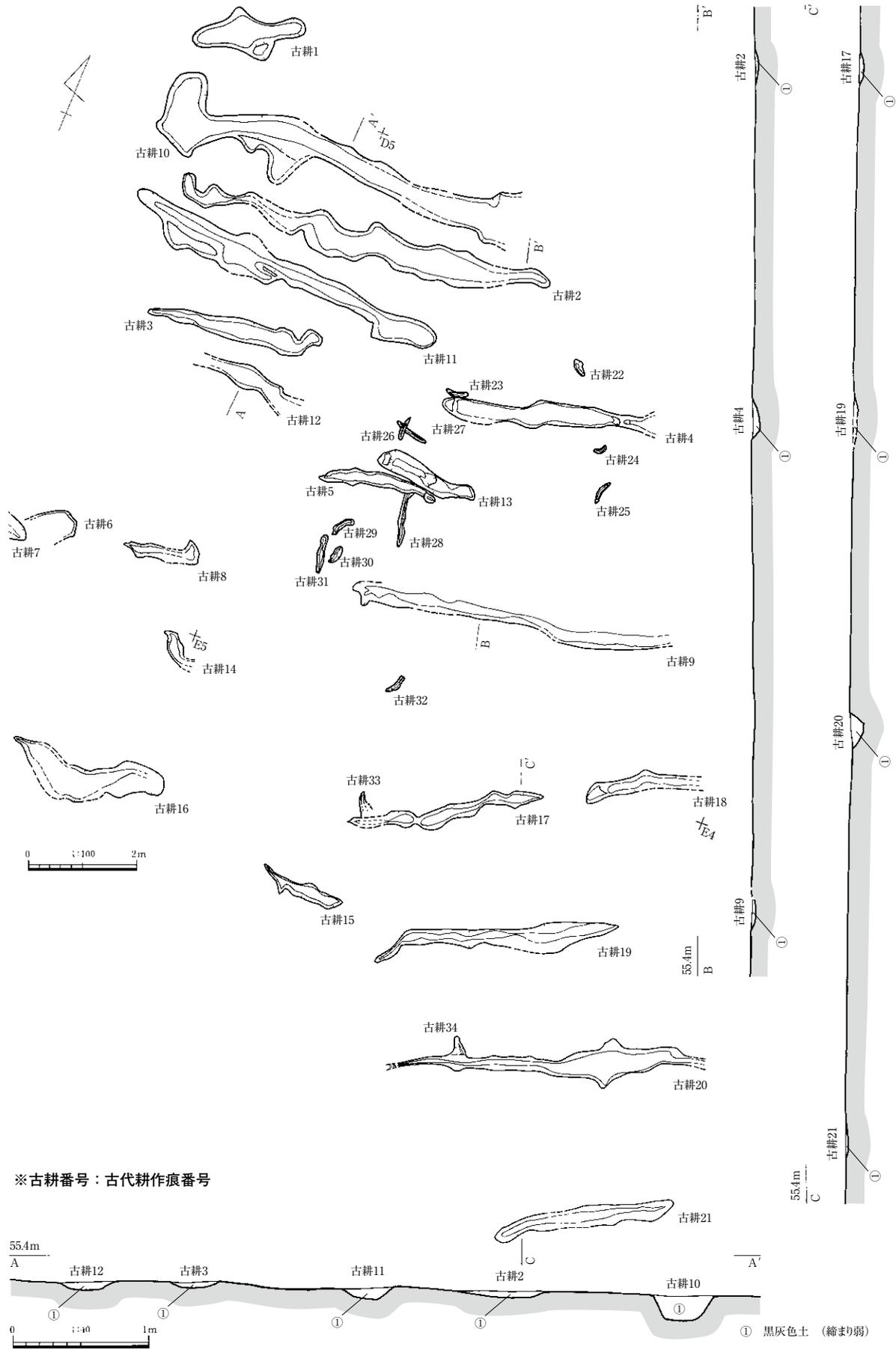
本遺構からは出土遺物に須恵器坏、蓋坏 231 ～ 235 が出土する。231 は口縁下端部をくびれさせた山陰地方にみられる形態のもので、232 も同形の底部片と思われる。さて本遺構の時期は、出土遺物はいずれも奈良時代に属する須恵器と考えられるが、遺構が確認される層位より 9 世紀ころと考えられる。(野口)



第107図 波板状凹凸遺構出土遺物

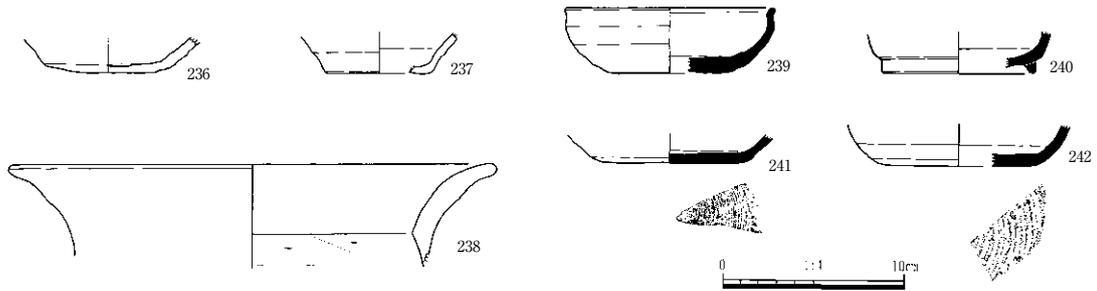


第108図 波板状凹凸遺構土層断面図



※古耕番号：古代耕作痕番号

第109図 古代耕作痕



第110図 古代耕作痕出土遺物

古代耕作痕（第 109～110 図、図版9）

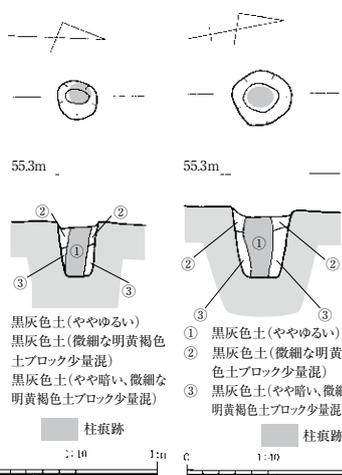
C 4～E 4 グリッドに位置する。IV層または整地層を除去した後、V層及びVI層上面において 34 条の耕作痕を検出した。VI層上面にて検出した遺構については、V層上面にて検出した遺構と筋が通るものがあること、また埋土も近似していることから、一連の遺構群であると判断した。また、これらの耕作痕は、同一面に検出した掘立柱建物 5、柵 2・3 及びピット群により一部破壊されている。

主軸は等高線に直交する東西方向、もしくは北東-南西方向にとるものが主体をなす。耕作痕の北西側には水路と思われる溝 34 が近接する。平面形は不整形であり、検出面での幅は 18～70cm、検出面からの深さは 1～19cm である。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は黒灰色土である。D 4 グリッドに検出した古代耕作痕 3・4 の筋が通り、本来は同一遺構であった可能性が高い。古代耕作痕 7～9 も同様である。また、古代耕作痕 2・3・5・8 はほぼ等間隔（2.1～2.2 m 間隔）に位置する。E 4 グリッドに検出した古代耕作痕 17・18 も筋が通り、古代耕作痕 18～21 はほぼ等間隔（2.5～2.8 m 間隔）に位置する。

埋土中より出土した土器 236～242 を図化した。236・237 は土師器坏である。237 の内面は黒色処理が施されている可能性がある。須恵器坏 239・241・242 は底部外面に回転糸切りによる切り離し痕跡がみられる。240 は須恵器高台坏である。

本遺構の時期は出土遺物より判断し、9 世紀後半ころと考えられる。（森本）

P 59（第 111 図）

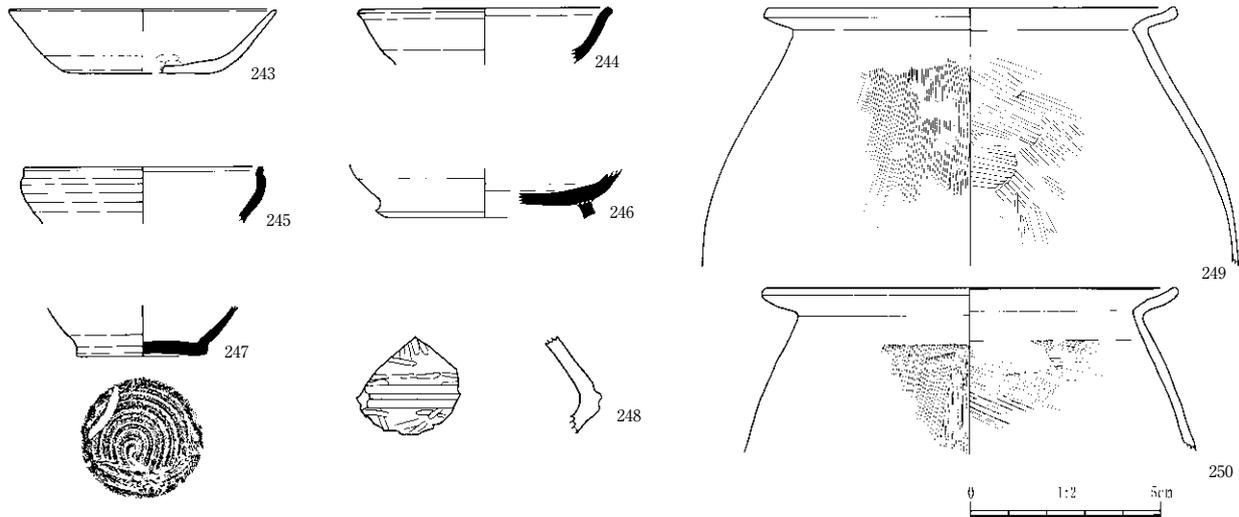


E 3 グリッドに位置する。IV層除去後、V層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は径 24cm を測る。検出面からの深さは 34cm を測り、底面の標高は 54.66 m である。断面形は逆台形状を呈す。土層断面を観察した結果、11cm 程度の柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。

本遺構は検出面より 9 世紀以降に掘削されたものと想定している。なお、同一検出面では P 59 と埋土の色調が近似するピット群を検出しているが、これらのピット群は古代耕作痕を掘削していることから、本遺構も古代耕作痕より後出する可能性が考えられる。（森本）

P 62（第 112 図）

E 4 グリッドに位置する。IV層除去後、V層上面において検出した。平面楕円形を呈し、検出面での規模は長軸 37cm、短軸 33 cm を測

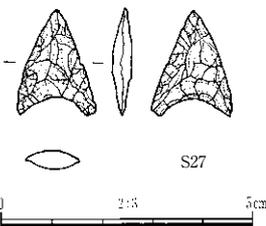
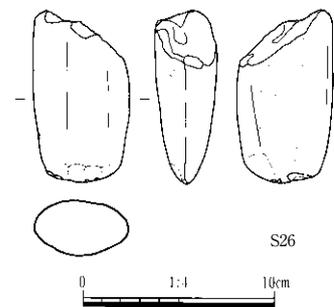


第113図 遺構外出土遺物

る。検出面からの深さは44cmを測り、底面の標高は54.65 mである。断面形は逆台形状を呈す。土層断面を観察した結果、11cm程度の柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。

本遺構は検出面より9世紀以降に掘削されたものと想定している。なお、同一検出面ではP 62と埋土の色調が近似するピット群を検出しているが、これらのピット群は古代耕作痕を掘削していることから、本遺構も古代耕作痕より後出する可能性が考えられる。

(森本)



遺構外出土遺物 (第113・114図)

本遺構面を形成する黒色土の包含遺物には、弥生、奈良・平安時代を中心とした遺物がみられる。出土遺物には土器や石器がみられるが、このうち本土層出土遺物の下限を示す遺物は243、247で、243は土師器坏で内面底部には押圧された痕跡が残る。247は須恵器坏で、底部切り離しは回転糸切り後未調整である。これらの土器は9世紀ころのものと思われることから、本土層もこの出土遺物が示す時期に堆積したものと思われる。

第114図 遺構外出土遺物

(野口)

表8 整地層上面・第5遺構面ピット一覧表 (計測単位: cm)

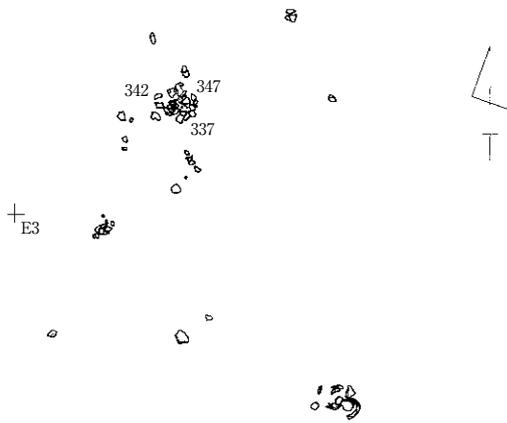
No.	長径	短径	深さ	埋土色調	No.	長径	短径	深さ	埋土色調	No.	長径	短径	深さ	埋土色調	No.	長径	短径	深さ	埋土色調
13	55	52	26	にぶい黒黄褐色土	29	23	21	42	黒灰色	43	30	24	36	黒灰色	59	26	23	34	黒灰色
14	60	48	35	にぶい黒黄褐色土	30	26	25	36	黒灰色	44	24	22	39	黒灰色	60	38	32	21	黒灰色
15	45	38	15	にぶい黒黄褐色土	31	28	24	33	黒灰色	45	28	24	41	黒灰色	61	28	26	19	黒灰色
16	30	29	11	にぶい黒黄褐色土	32	26	21	16	暗褐色	46	26	25	38	黒灰色	62	34	33	44	黒灰色
17	36	20	30	にぶい黒黄褐色土					黒褐色	47	30	26	43	黒灰色	63	22	20	32	黒灰色
18	26	22	12	にぶい黒黄褐色土	33	18	16	25	黒灰色	48	24	20	19	黒灰色	64	28	24	41	黒灰色
19	36	32	14	にぶい黒黄褐色土	34	37	24	30	黒灰色	49	18	15	29	黒灰色	65	30	29	16	黒灰褐色
20	60	56	58	-	35	27	23	32	黒灰色	50	24	23	21	黒灰色	66	34	32	23	黒灰褐色
21	38	36	14	にぶい黒黄褐色土	36	19	18	17	黒灰色	51	31	29	31	黒灰色	67	30	20	24	暗灰褐色
22	54	52	23	にぶい黒黄褐色土	37	37	34	35	黒灰色	52	31	30	39	黒灰色	68	78	34	25	黒灰褐色
23	60	45	19	にぶい黒黄褐色土	38	28	24	11	黒灰色	53	15	13	24	黒灰色	69	42	32	16	黒色土
24	58	50	49	-	39	26	22	42	黒灰色	54	24	23	39	黒灰色	70	51	42	57	黒灰褐色
25	30	20	12	にぶい黒黄褐色土	40	21	18	8	黒灰色	55	22	21	34	黒灰色	71	30	25	26	黒灰褐色
26	42	36	59	にぶい黒黄褐色土	41	27	20	49	黒灰色	56	34	30	34	黒灰色	72	30	25	16	黒灰褐色
27	40	30	9	黒灰色土	42	27	22	29	黒灰色	57	28	24	36	黒灰色	73	18	14	21	黒灰色
28	31	22	19	黒灰色						58	27	24	41	黒灰色					

第7節 第6遺構面の調査

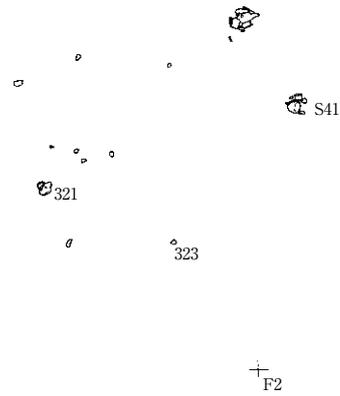
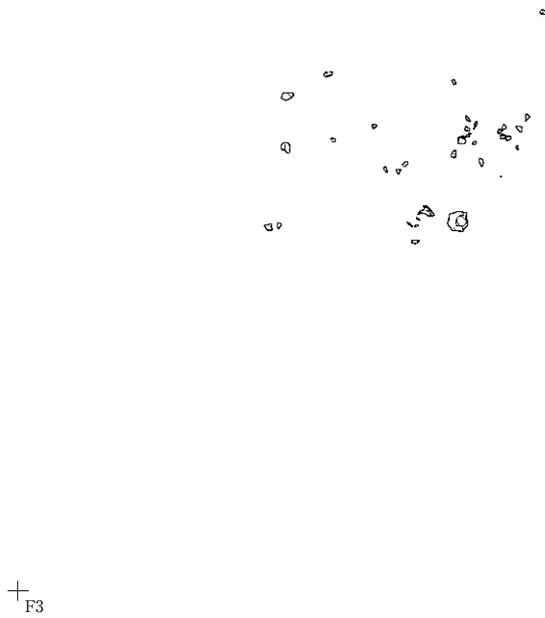
本遺構面は、調査区南側の一部において、現代の耕作による削平を受けるが、ほぼ調査区の全体に堆積する黒色土上面を検出面とする。現況範囲での高低差は、東西でおよそ3mと西から東に向かい、



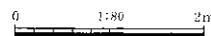
第115図 4区第6遺構面遺構配置図



VI層上面土器出土状況



VI層上面土器出土状況



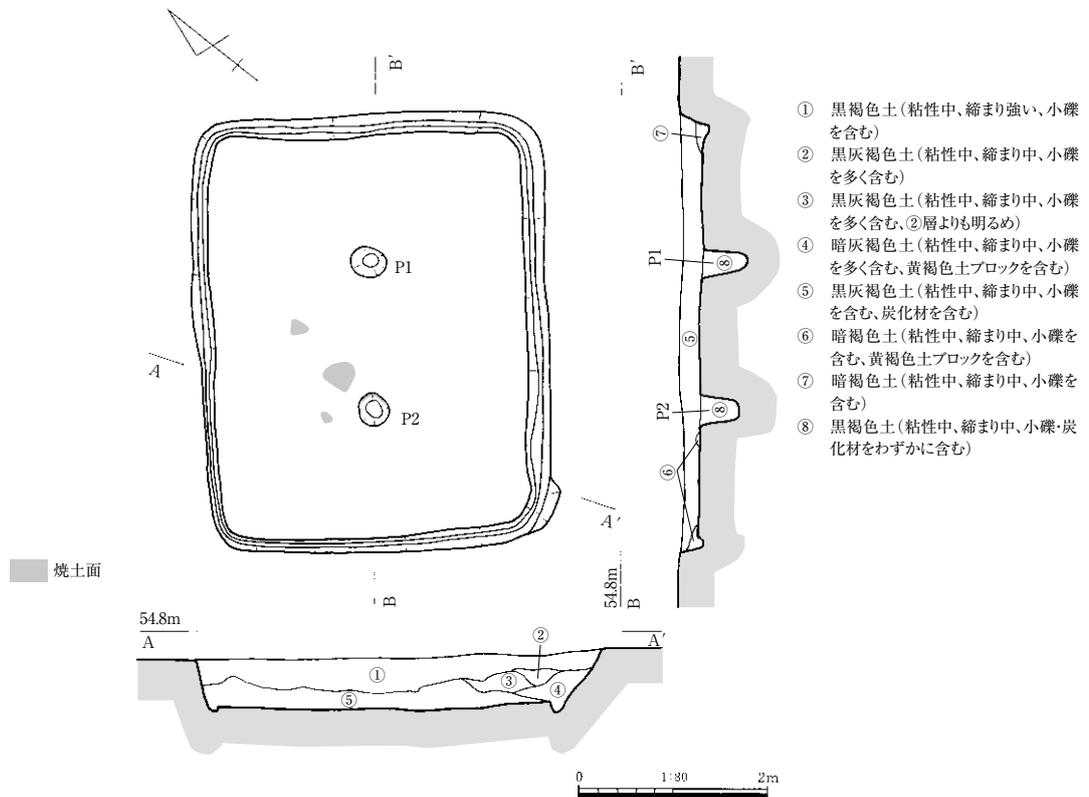
第116図 VI層上面土器出土状況図

傾斜した地形であるが、他の遺構面に比べその傾斜はやや急なものである。本土層の堆積はその包含遺物から弥生時代中期中葉～後葉ころと思われ、部分的にはあるが本土層上面で弥生時代中期中葉～後葉ころの土器が面的に出土する箇所も見られる。本土層上面からは竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝などが確認され、これらは弥生～古墳時代のものが主となるが、上層にV層などが堆積していない範囲では、新しい時期の遺構も検出される。(野口)

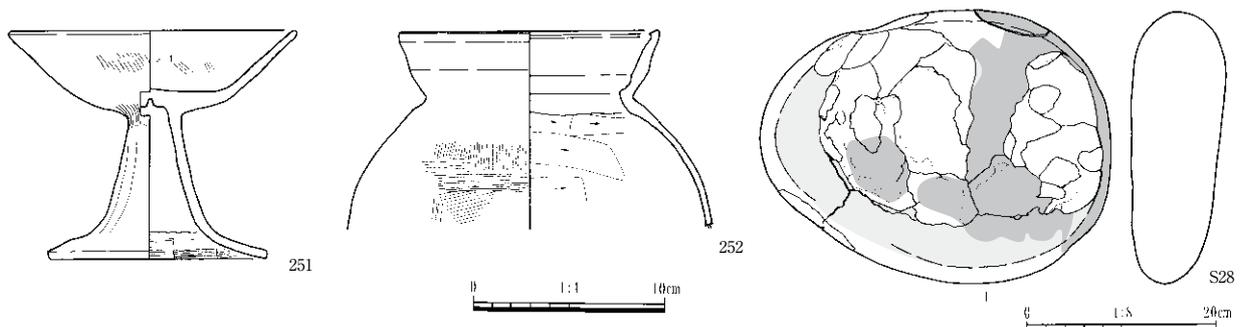
竪穴住居1 (第117～119図、図版10)

調査区の東側、E1グリッドに位置する、主軸を北東—南西方向とする平面長方形の竪穴住居である。本住居は、確認段階では西側の一部が調査区内に位置するのみで、その大半が調査区外とした4区、5区の区界に伸びていた為、調査区を一部拡張し調査を行った。また本住居は、その確認面を地山上面(第7遺構面上面)としたが、確認段階での調査区東壁面の土層断面(D-D'セクション)では、1層上に位置するVI層からの掘り込みが確認された。

本住居跡の規模は、長軸4.7m、短軸3.8m、深さ56cmを測る。掘り込み面から床面までの埋土は

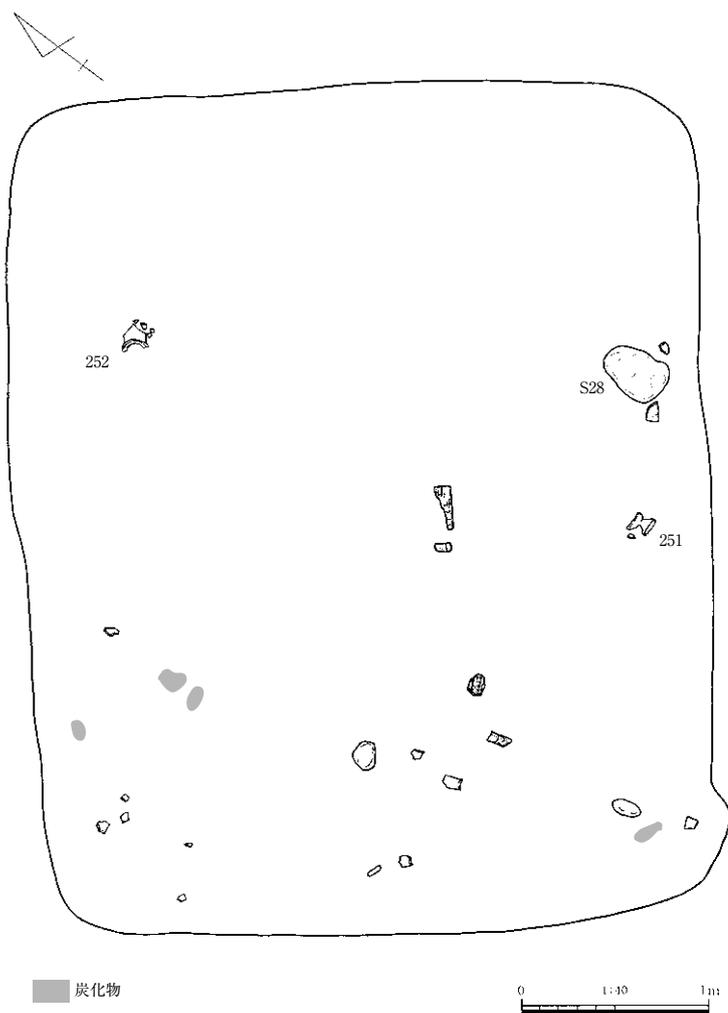


第117図 竪穴住居1



第118図 竪穴住居1出土遺物

7層に分けられるが、主として下層には6～24cmの炭化材、5～10mmの炭化物を多く含んだ黒灰褐色土（⑤層）、上層には掘り込み面であるⅥ層に由来する土と思われる黒褐色土（①層）が堆積する。また上記⑤層のほか、④層にも炭化物が認められることや、柱穴壁面の一部が焼けていることから、本住居跡は焼失住居と考えられる。炭化材の遺存状況が良くないことから、これら炭化材が住居のどの部材として利用されていたかは明らかにできないが、中央付近で確認された炭化材は、住居の主軸と方向を一にする。床面では周壁溝、柱穴、焼土面が検出された。周壁溝は幅10～20cm、深さおよそ10cmのものが全周する。柱穴は住居主軸と同じく、北東—南西方向にP1、P2が並ぶ、2本柱である。焼土面は4ヶ所で認められたが、いずれも住居中央からやや西側に点在する。うち1ヶ所の柱穴の壁面上部で確認された焼土面に関しては、住居焼失に伴う焼土面と考えられる。



第119図 竪穴住居1遺物出土状況図

出土遺物には高坏251、甕252、台石S28が床面直上から出土している。251はやや浅めの坏部を持つ高坏で、坏底部から体部にかけての屈曲は鈍い。252は布留系の球胴の甕で、口縁部は中位でやや肥厚する。調整は外面に縦、横方向のハケの後、ナデを施すが、ハケ目は残される。S28は焼失時の被熱により、剥離した破片が周辺に認められる。

本遺構の時期は、高坏251坏部が浅めであることなどの特徴から、天神川編年のⅣ期、古墳時代前期末ごろと考えられる。(野口)

竪穴住居2（第120～122図、図版11）

調査区南側、G1グリッドに位置する竪穴住居跡である。近世の耕作土であるⅠ層除去後に検出したが、北側の一部は近世の耕作、及び攪乱により破壊される状況である。規模は、西側にやや張り出すが径4.8mほどで、平面円形、深さは検出面から10cmを測る。

床面までの埋土の状況は、色調から4層に分けられるが、主として黒褐色土（②層）が堆積し、長さ1mほどの炭化材が含まれる。また、確認できた住居壁面沿いの埋土中には広い範囲で焼土が認められた。

このような状況から、本住居跡は焼失住居と考えられる。確認された炭化材の大半は、主軸や木目

方向を住居中央に向けていることから、垂木材であったと考えられるが、P4-5間では付近の他の炭化材とは主軸を直行させる材も認められた。

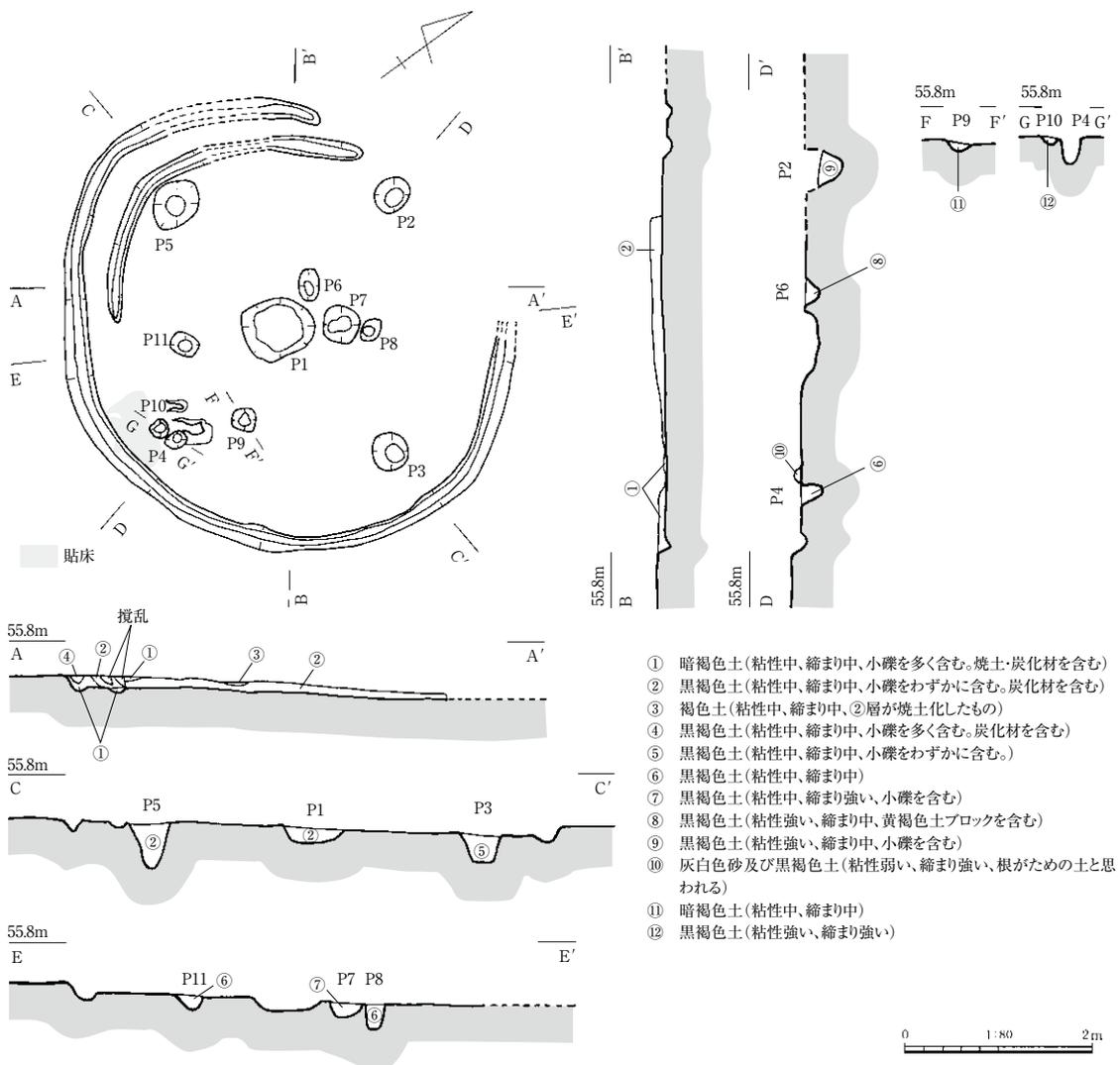
床面は、住居南側の一部で検出面のVI層に類似する、黒褐色土の貼床が施されており、周壁溝、柱穴、中央ピットが認められる。攪乱を受ける北側部分是不明であるが、周壁溝は、幅15~25cm、深さおよそ10cmのものが全周する。柱穴はP2~5で、住居の四隅に配されており、P4には根固めの土であろうか、黒灰褐色土に灰白色砂を混ぜた土が隆起して認められる。中央ピットは長軸38cm、短軸32cm、深さ9cmを測る。

また、床面西側部分では、周壁溝と相似した溝がめぐる。これに建替え前の住居の周壁溝の可能性を考えるならば、中央ピットを挟んで対峙するP8と11が柱穴であったとも思われ、2本柱建物から4本柱建物への建替えの可能性が考えられる。

出土遺物には甕底部の破片253が見られたが、出土量はわずかであった。

なお、本住居の出土炭化材は樹種同定、および年代測定分析を行っている(第5章参照)。樹種同定は出土試料3点の分析を行い、サクラ属1点、アカガシ垂属2点の分析結果を得られた。また年代測定では出土試料1点を分析し、実年代でおよそ2,200前、紀元前3世紀代の分析結果を得ている。

本住居は、253の形態や周辺で確認される遺構の年代から弥生時代中期中葉~後葉と考えられるが、



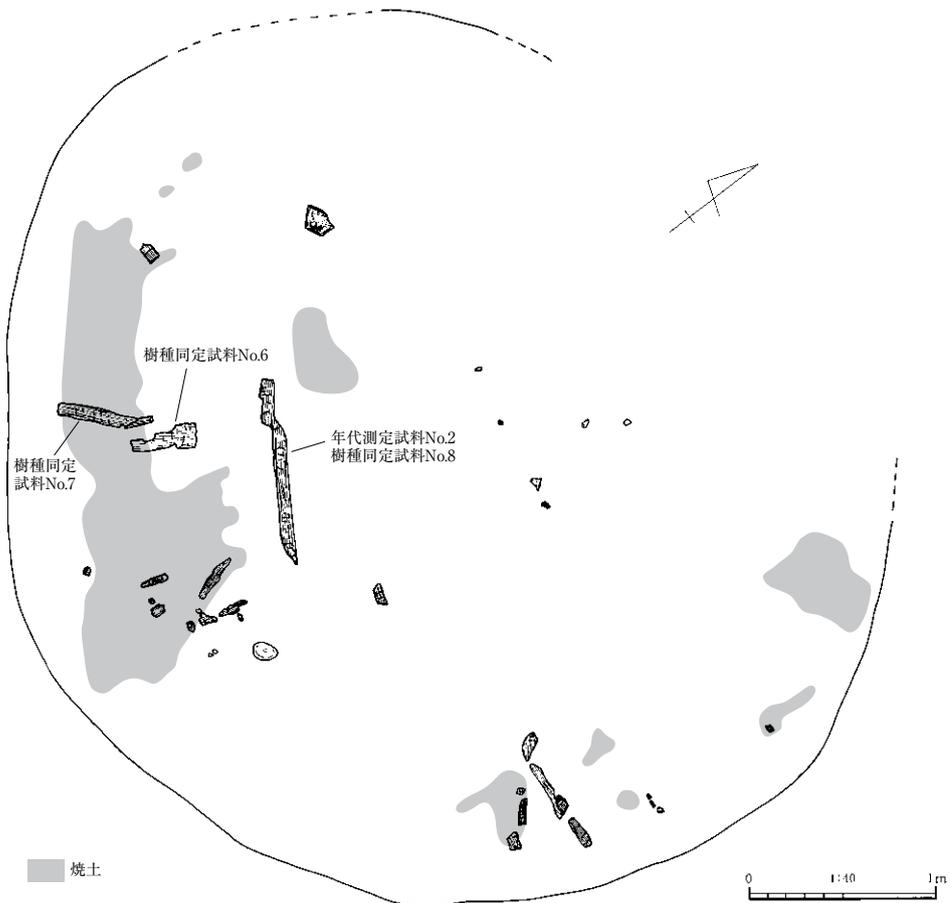
第120図 竪穴住居2

実年代は上記のとおりである。(野口)

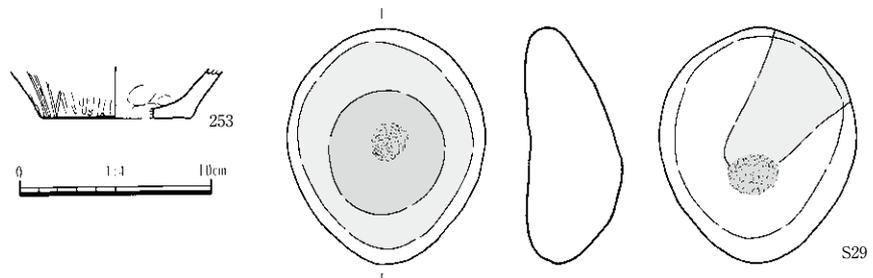
掘立柱建物6 (第123図、表9、図版11)

G3グリッドに位置する桁行3間、梁行2間の掘立柱建物で、主軸をN-45°-Wにする。VI層上面に位置する遺構であるが、確認される地点は現代の耕作がVII層上面まで達し、本遺構を構成するピットの大半はVII層上面での確認となった。

規模は、桁行4.4m、梁行2.8mである。桁行、梁行の柱穴間は表9のとおりで、南側P7がやや東に寄るものの、対称的な位置に柱穴が配置される。柱穴掘り方の形状は、平面円、もしくは楕円形で、20～30cm程度の大きさである。



第121図 竪穴住居2 遺物出土状況図



第122図 竪穴住居2 出土遺物

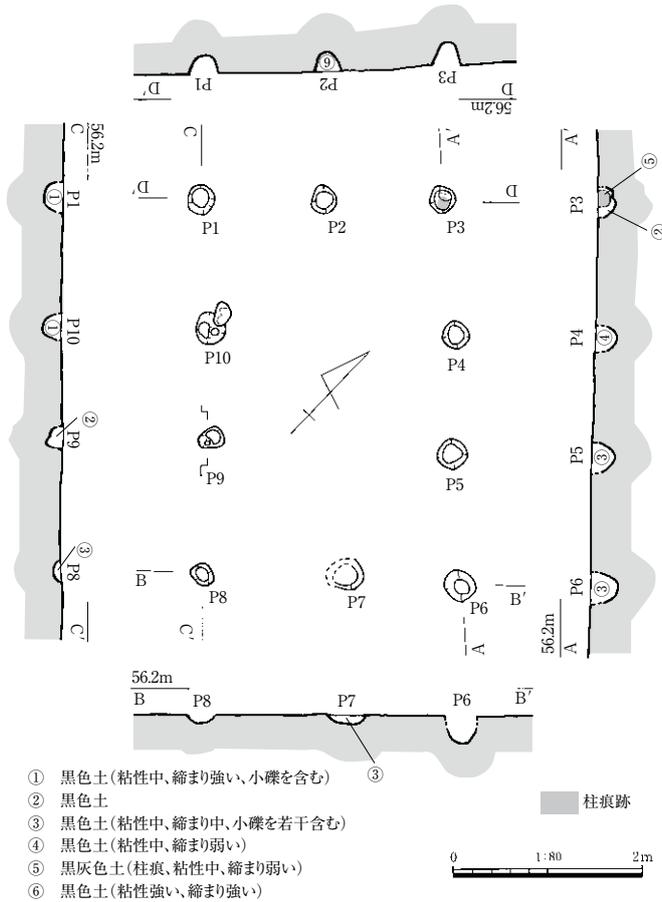
深さは東側の柱穴底面の標高が約54.6m、西側が54.8mと東側のものが深く掘られる。埋土は粘性や締り具合に違いは見られるものの、黒色土が堆積する。うち北隅のP3では柱痕が確認される。

本遺構の時期は、確認される層位より、弥生時代中期～古墳時代と考えられる。(野口)

土坑8 (第124・125図、図版12)

F5グリッド南側に位置する。長径1.2m、短径86cm、深さ16cmを測る平面楕円形、断面形レンズ状の土坑である。暗褐色土を埋土とするが、上面には部分的に砂礫が広がる範囲も確認される。出土遺物には底部に回転糸切り痕を残す土師器坏254が見られる。

本遺構は、弥生中期から古墳時代の遺構面であるVI層を確認面とするものの、出土遺物は10世紀以降のものであり、さらに埋土には、遺構上層に位置する室町時代後半のⅢ層に由来すると思われる土が堆積することから、室町時代後半の時期が考えられる。(野口)

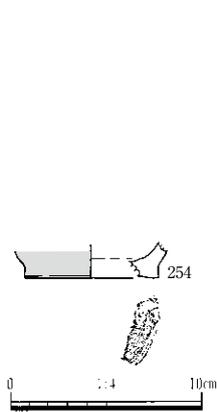


第123図 掘立柱建物6

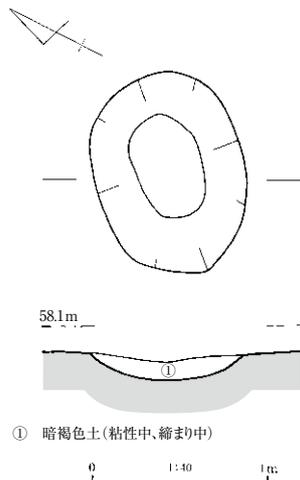
土坑10 (第127図、図版12)

D4グリッドに位置する。V層除去後、VI層上面において検出した。検出面の平面形は楕円形を呈す。検出面での規模は長軸1.0m、短軸58cm、検出面からの深さは18cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面の規模は長軸50cm、短軸残存10cmを測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。地山である明黄褐色土の小ブロックが混入するものの極少量であり、混入物はほとんどみられない。遺物は出土していない。

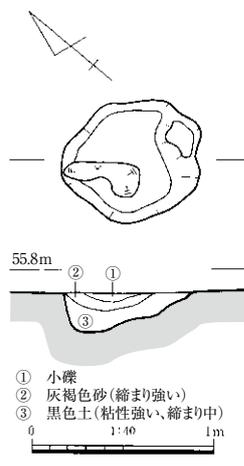
本遺構は同一検出面の土坑11～14・16に近接し、埋土の色調も近似することから弥生時代中期後半に思われる。(森本)



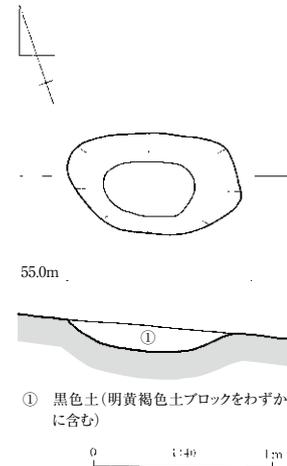
第124図
土坑8出土遺物



第125図 土坑8



第126図 土坑9



第127図 土坑10

表9 掘立柱建物6柱間距離(心々)

ピット	距離 (m)
P1-P2	1.4
P2-P3	1.4
P3-P4	1.6
P4-P5	1.2
P5-P6	1.6
P6-P7	1.24
P7-P8	1.5
P8-P9	1.6
P9-P10	1.2
P10-P1	1.6

土坑9 (第126図)

E4グリッド南西隅に位置する平面不整な円形の土坑で、長径74cm、短径6.7cm、深さ22cmを測る。埋土は3層に分けられ、上層には小礫層、砂層、下層には黒色土が堆積する。

本遺構の時期は、細片のため図化はしていないが10世紀代と思われる須恵器高台杯の破片が出土することから10世紀以降、平安時代後半ころが考えられる。(野口)

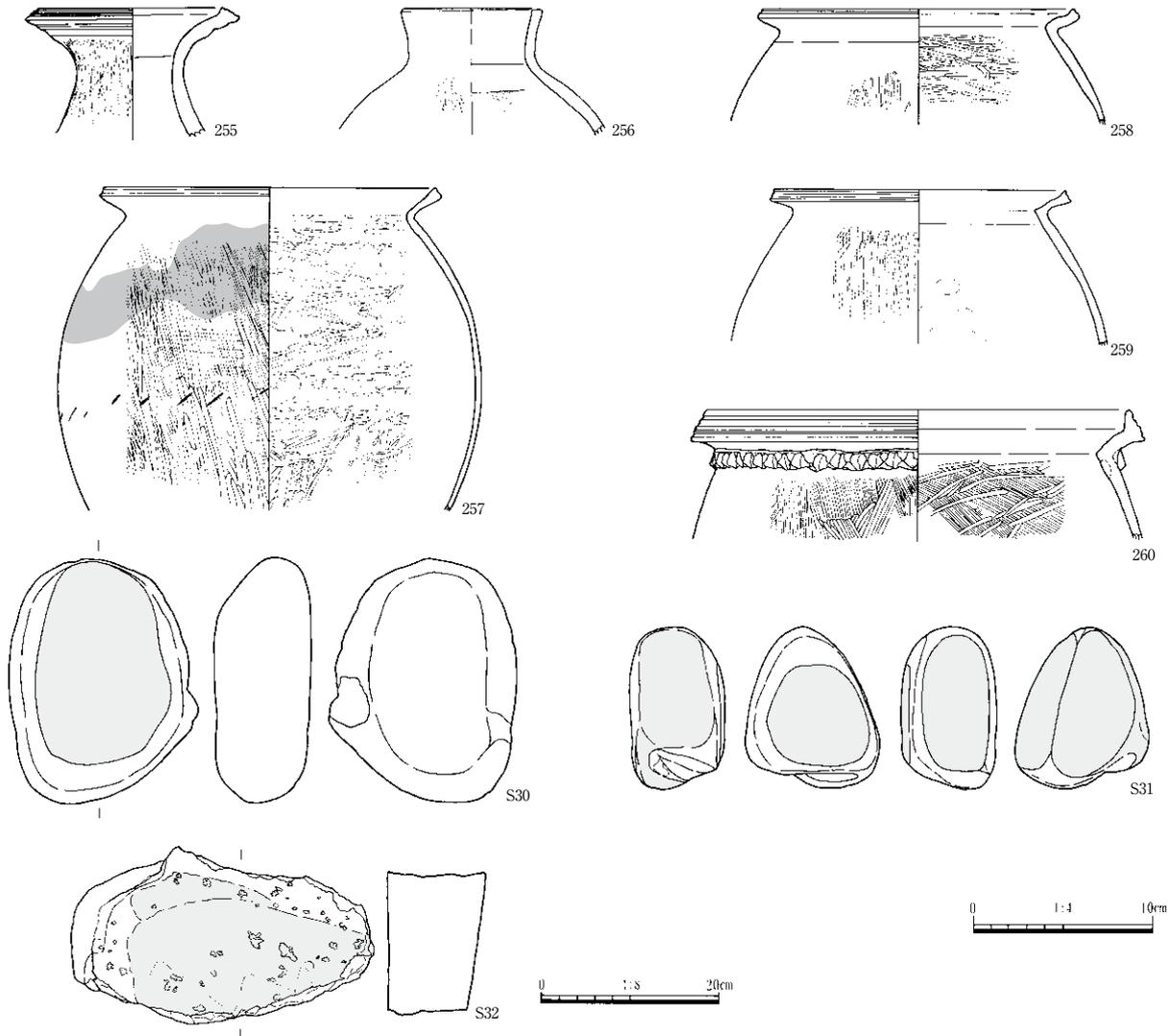
土坑 11 (第 128・129 図、図版 12)

D・E 4 グリッドに位置する。V 層除去後、VI 層上面において検出した。検出面は西から東にかけてやや傾斜し、東側のコーナー部分は削平されている。平面形は不整な隅丸方形を呈す。検出面の規模は長軸約 3.9 m、短軸約 3.2 m を測る。検出面からの深さは最深部で 15 cm である。断面形は浅い皿状を呈し、底面の規模は長軸約 3.4 m、短軸約 2.9 m を測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。明黄褐色土の小ブロックが混入するものの極少量であり、混入物はほとんどみられない。

埋土中より、弥生土器及び石器が出土している。土器は一定のまとまりをもった出土状況を示す個体は少なく、小片が散乱したような出土状況を示す。これらの遺物は、埋土が単層であることから、一括性が高いと思われる。



第128図 土坑11



第129図 土坑11出土遺物

255～260、S 30～32を図化した。255は壺口縁部である。口縁端面に3条の凹線をひき、頸部外面はハケ調整した後ナデを施している。256は無頸壺である。口縁端部はやや丸みをおび、風化が著しいものの、口縁部外面はナデ、胴部はハケ調整の痕跡が認められる。257～260は甕口縁部である。260は口縁端面に3条の凹線をひき、頸部に指頭圧痕貼付突帯を施し装飾する。器面調整は、内外面ともハケ調整を行った後、ミガキを施す。S 30・31は磨石、S 32は台石とみられる。

出土した土器はⅣ-1～2様式に並行すると思われる、遺構廃絶時期は弥生時代中期後葉と考えられる。なお、259は遺構外の遺物である。本遺構と同一面の近接した位置に出土し、まとまりをもった状態で出土した。甕の口縁から胴部にかけての破片で、口縁端部は2条の凹線を施す。(森本)

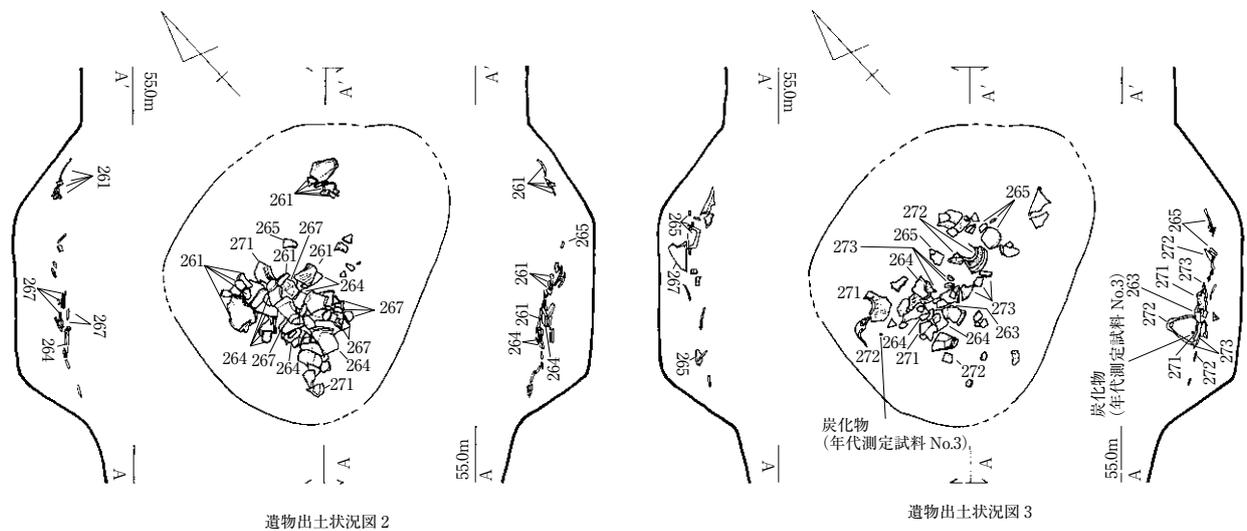
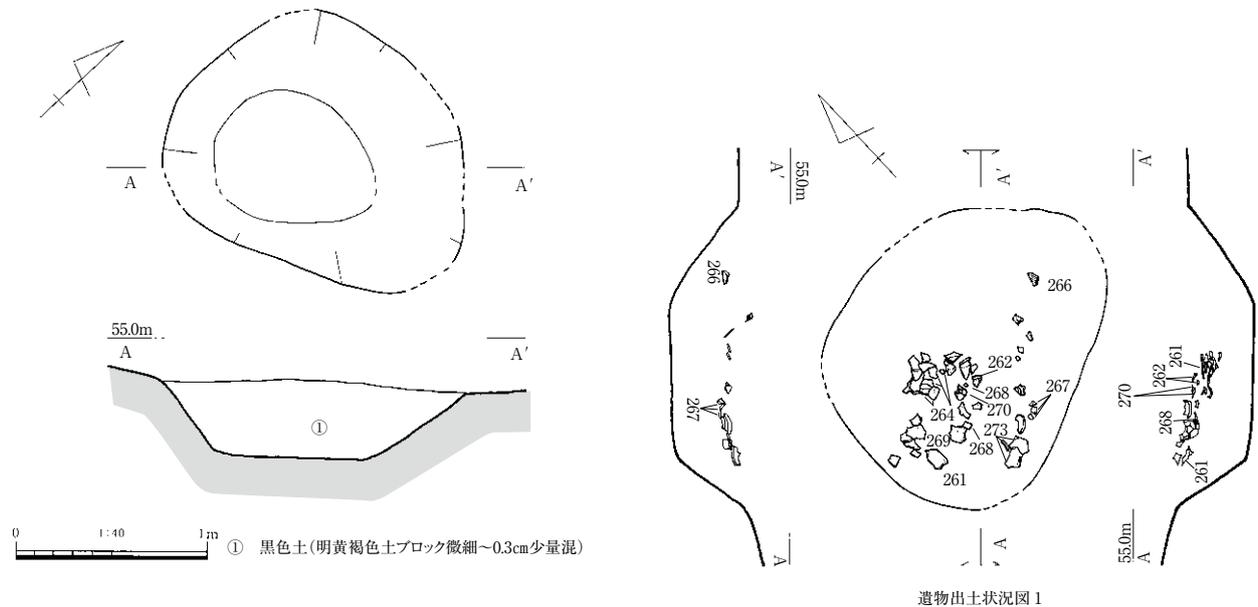
土坑12 (第130～132図、図版13)

D4グリッドに位置する。Ⅴ層除去後、Ⅵ層上面において検出した。本遺構北側は掘立柱建物5P1により破壊され、西側の上部は土坑11により破壊される。平面は不整な楕円形を呈し、検出面での規模は長軸約1.6m、短軸約1.4m、検出面からの深さは41cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、底面の規模は長軸83cm、短軸70cmを測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。明黄

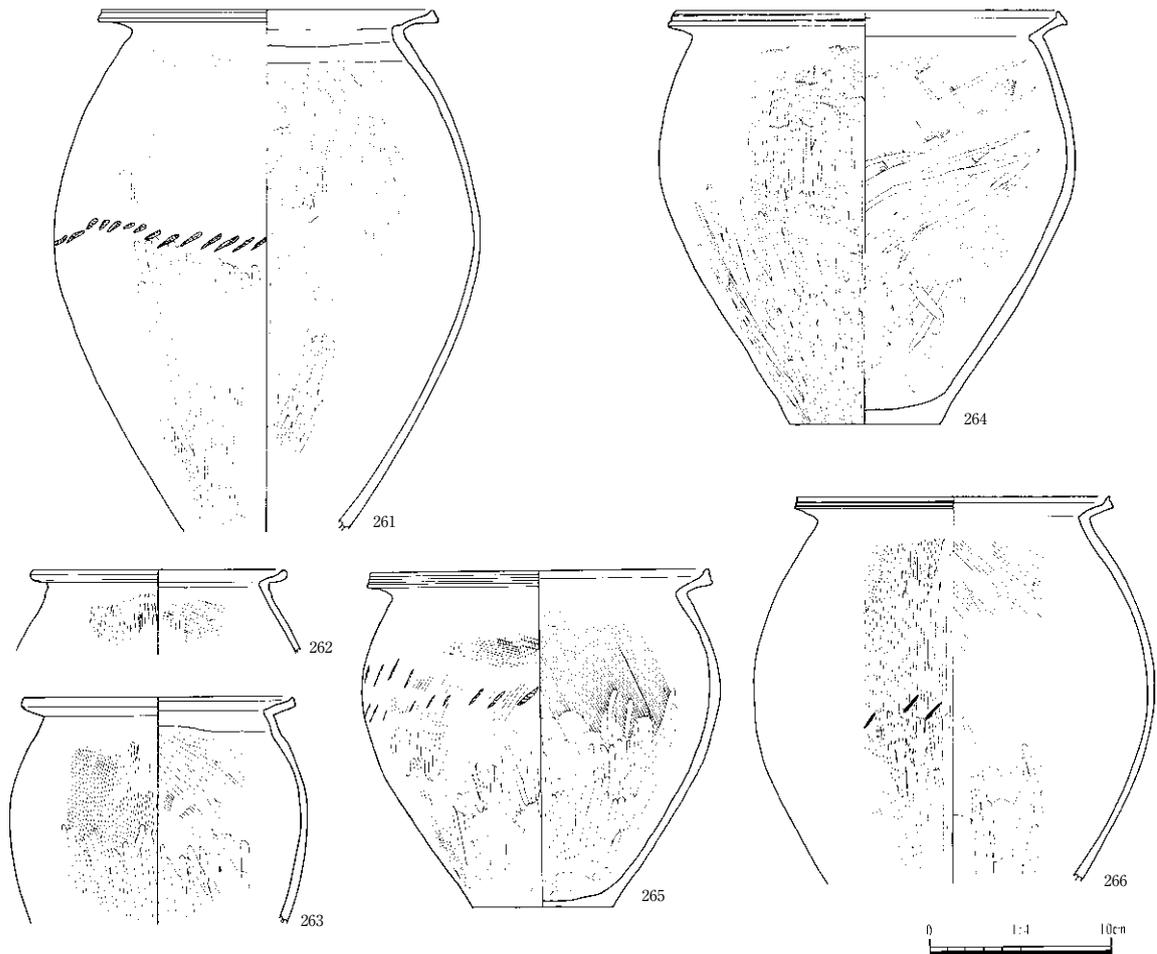
褐色土の小ブロックが混入するものの極少量であり、混入物はほとんどみられない。

埋土中より、弥生土器及び石器が出土している。遺物は主に南東側に集中し、各個体が折り重なるように出土した。遺物のレベルは土坑中央部が低くなり、レンズ状の出土状況を示す。出土レベルの高低差に関係なく接合している資料も認められる。土器は小片のみならず、比較的大きな破片もみられる。出土した土器は、埋土が単層であること、折り重なる出土状況から判断して、一括性が高いものと思われる。本遺構は遺物出土状況から判断し、廃棄土坑と想定される。

261～273、S 33を図化した。261～266は甕である。261は口縁端部をわずかにつまみ上げ、口縁端面に1条の凹線をひく。最大胴部は波状の刺突文により装飾される。265は口縁端面に2条の凹線をひき、最大胴部に2条の刺突文により装飾する。262・263はいずれも口縁端部を僅かにつまみ上げ、口縁端面は無文である。267は壺である。口縁端部は上下にやや肥厚させ、口縁端面に3条の凹線をひく。頸部には断面三角形の貼付突帯を施し、最大胴部は刺突文により施文する。271は本来広口の壺であったと思われるが、口縁部が欠損した後、欠損部を研磨し無頸壺として転用している。胴部は2条にわたって、刺突文により装飾する。S 33は両側縁部に刃部をもつスクレイパーである。



第130図 土坑12



第131図 土坑12出土遺物

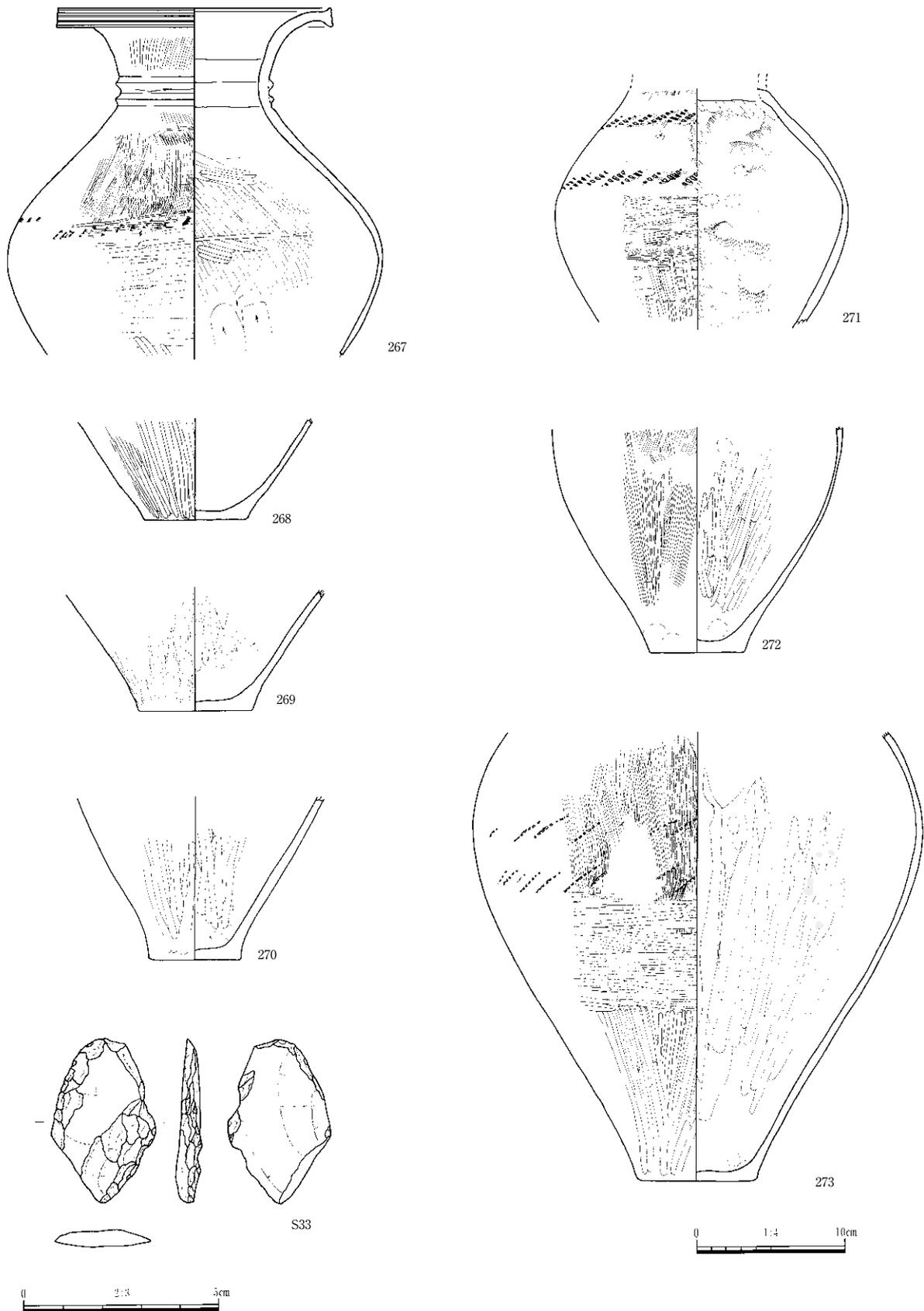
出土した土器はⅣ-1様式に並行すると思われる、遺構廃絶時期は弥生時代中期後葉と考える。なお、埋土中より出土した炭化物（分析試料No. 3）について放射性炭素年代測定を行った結果、およそ紀元前2世紀代の年代が得られた（第5章第1節参照）。（森本）

土坑 13（第 133～135 図、図版 14）

E4グリッドに位置する。Ⅴ層除去後、Ⅵ層上面において検出した。南東側は土坑14を破壊する。検出面の平面形は楕円形を呈す。検出面での規模は長軸約2.8m、短軸約2.3m、検出面からの深さは20cmを測る。断面形は浅い皿状を呈す。底面の平面形は不整な隅丸長方形を呈す。底面の規模は長軸約2.0m、短軸約1.3mを測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。明黄褐色土の小ブロックが混入するものの極少量であり、混入物はほとんどみられない。

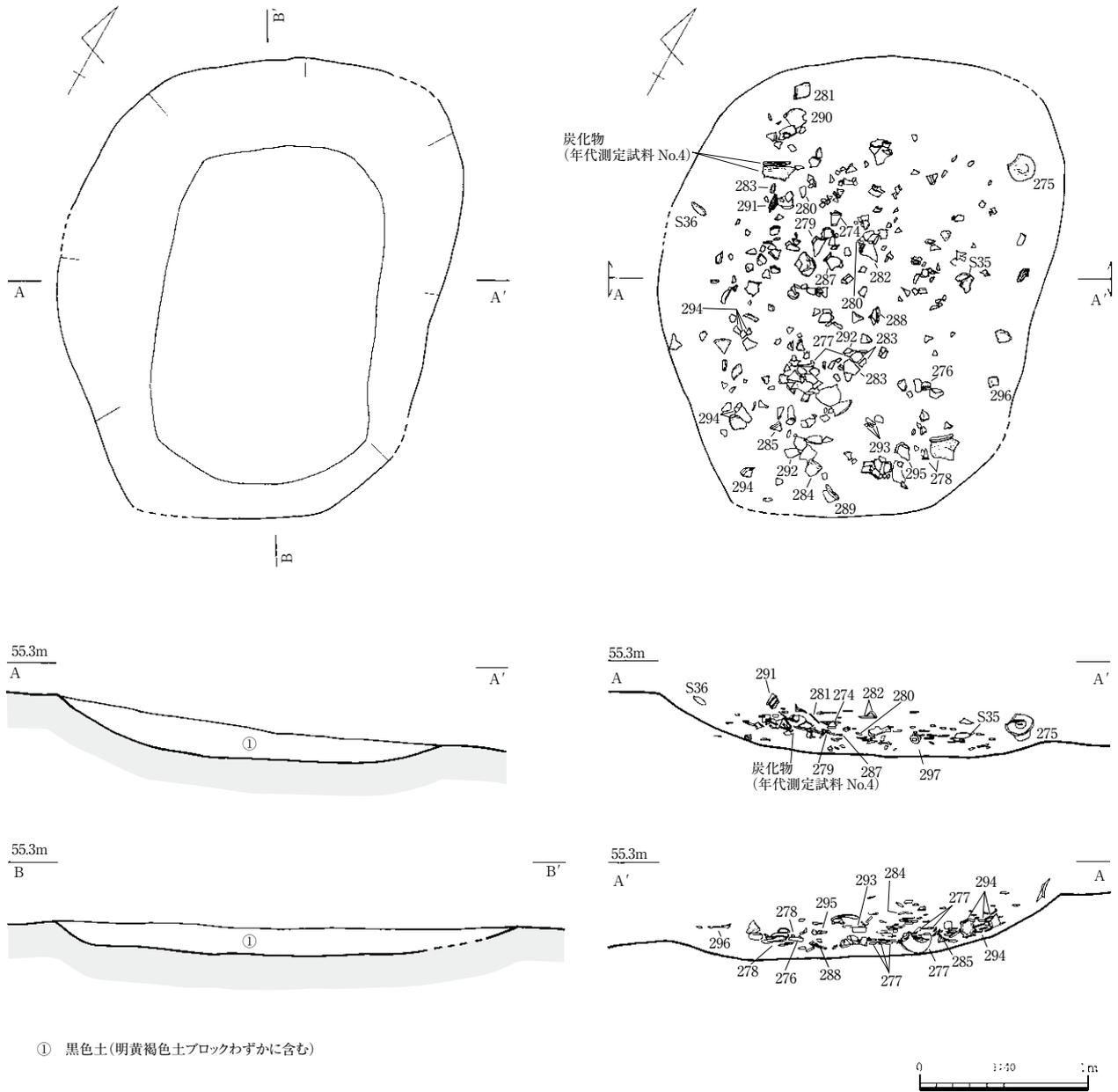
埋土中より、弥生土器及び石器が出土し、検出面から底面まで比較的密に包含している。土器は一定のまとまりをもった出土状況を示す個体は少ない。また、大きな破片の個体も少なく、土坑全体に小片が散乱するような出土状況を示す。

274～297、S34～36を図化した。274～276は壺口縁部である。274は口縁端部を上下にやや肥厚させ、2条の凹線をひいた後、刻みを入れ装飾する。頸部には断面三角形の貼付突帯を施す。275は口縁端面に刻みのみを施し、頸部は4条にわたり凹線をひく。276は口縁端部を上下に肥厚させ、口縁端面に4条の凹線をひき、刻みを施す。また、口縁内面には波状及び鋸歯状の櫛描文が施される。

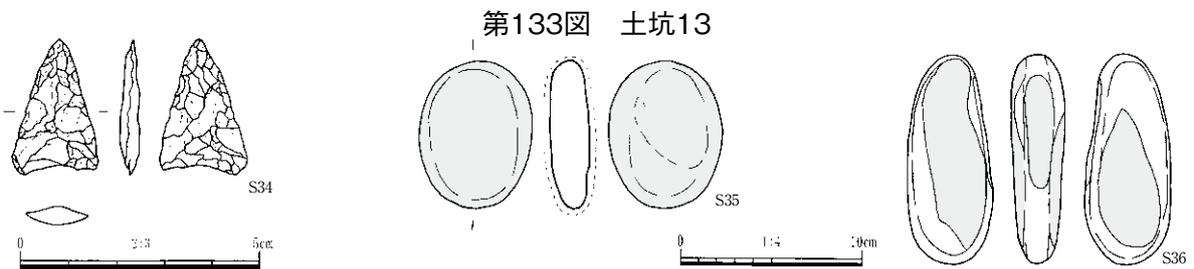


第132図 土坑12出土遺物

277～291は甕口縁部である。280・282の肩部外面には、タタキ調整の後ハケ調整を行った痕跡が観察できる。291は口縁端面に3条の凹線をひき、頸部に指頭圧痕貼付突帯を施した後突帯をナデつけている。S 34は石鏃、S 35・36は磨石である。



① 黒色土(明黄褐色土ブロックわずかに含む)

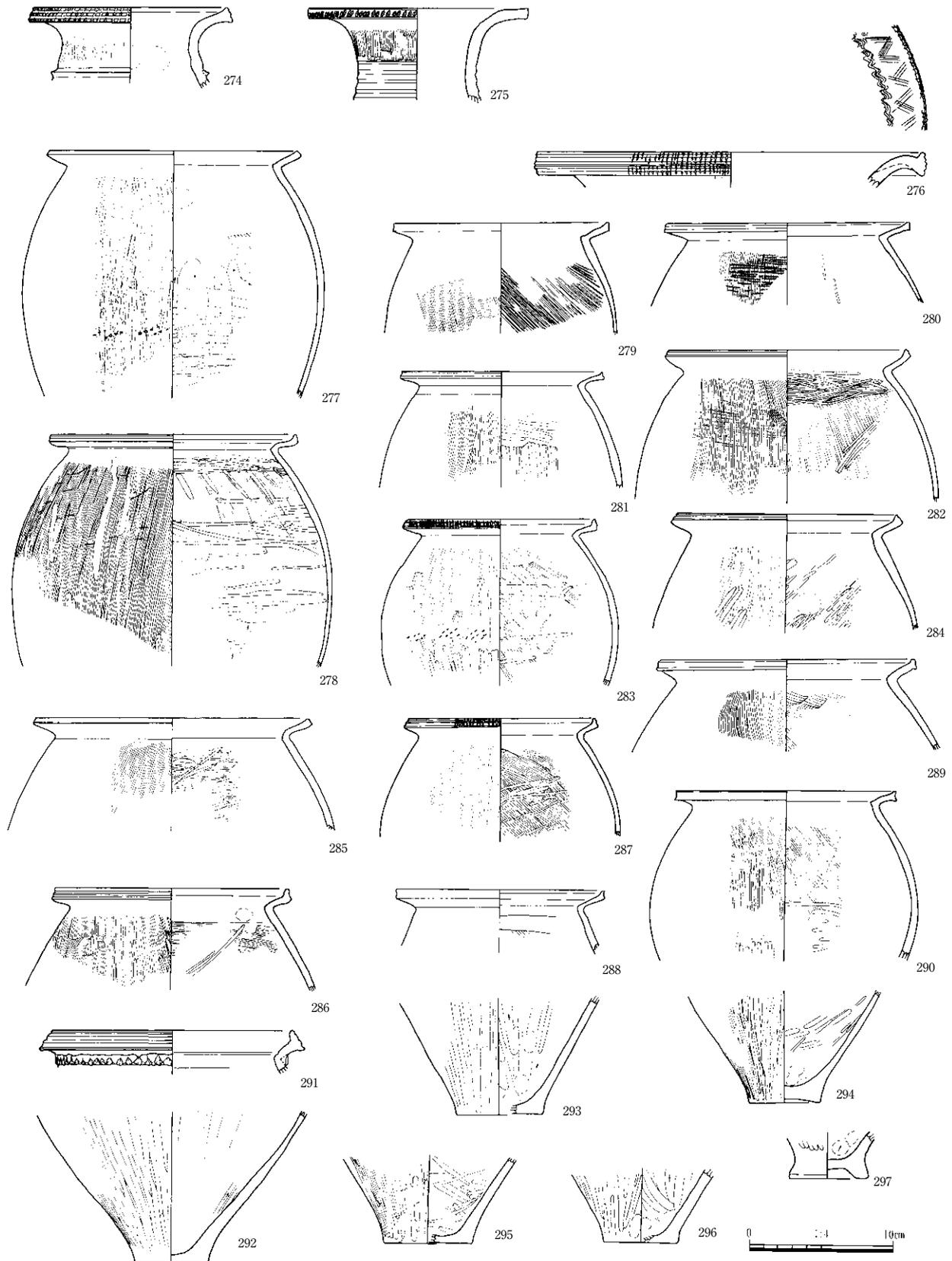


第134図 土坑13出土遺物

出土した土器はⅣ-1～2様式に並行すると思われる、遺構廃絶時期は弥生時代中期後葉と考えられる。なお、埋土中より出土した炭化物(分析試料 No. 4)について放射性炭素年代測定を行った結果、およそ紀元前3世紀代の年代が得られた(第5章第1節参照)。(森本)

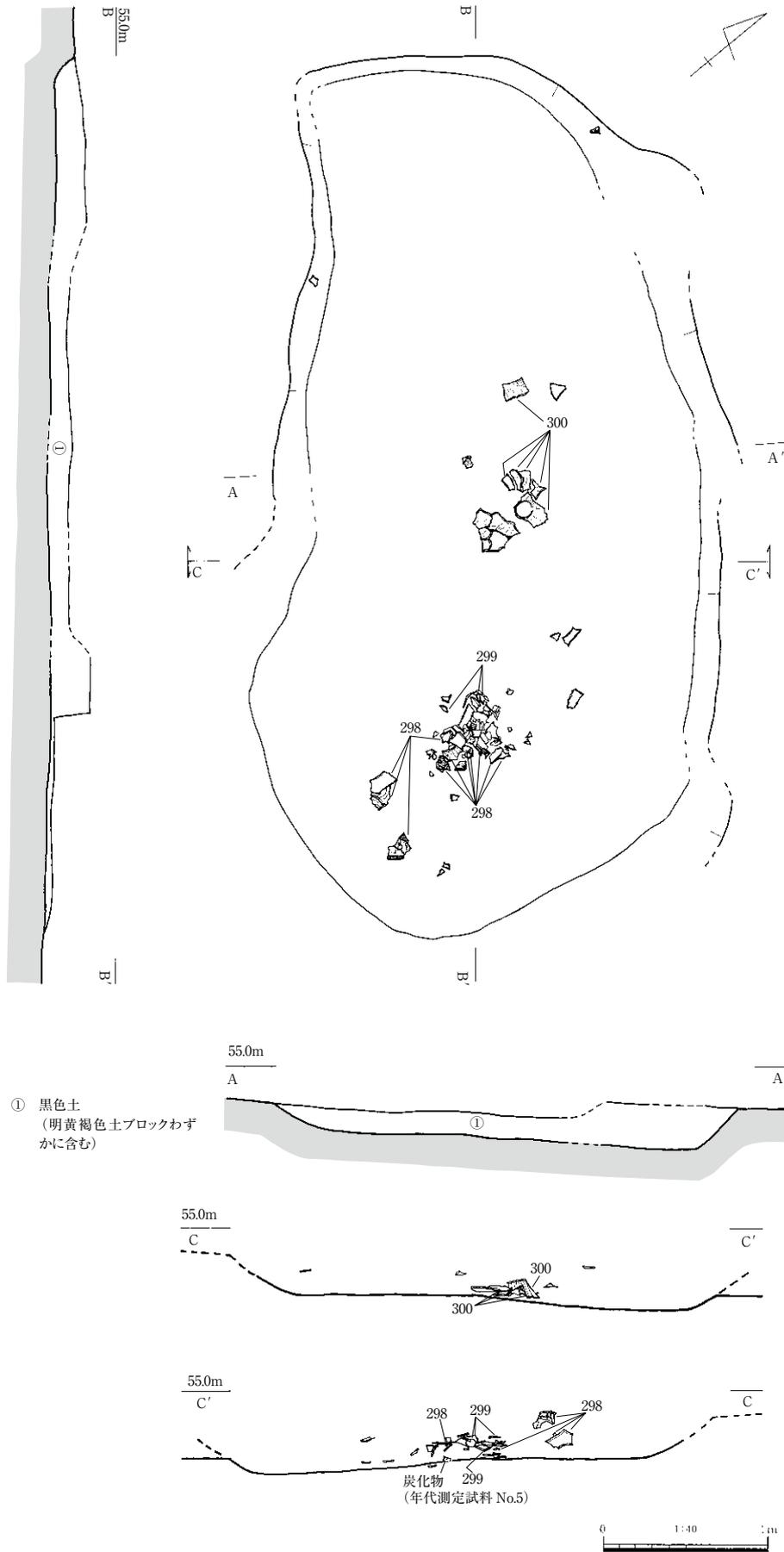
土坑 14 (第 136・137 図、図版 14)

E 3・4 グリッドに位置する。Ⅴ層除去後、Ⅵ層上面において検出した。西側上部は土坑 13 により



第135図 土坑13出土遺物

破壊される。平面は不整な楕円形を呈し、検出面での規模は長軸残存約 5.4 m、短軸約 2.9 m、検出面からの深さは最深で 26cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面の規模は長軸約 5.3 m、短軸約 2.4 mを測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。明黄褐色土の小ブロックが混入するもの



第136図 土坑14

の極少量であり、混入物はほとんどみられない。

図化した壺口縁部 298、底部 299 は出土状況と器形から判断し、同一個体である可能性が高く、北西側から南東側へ転倒したものと想定される。298 は口縁端部を僅かに上下に肥厚させ、口縁端面に 2 条の凹線をひき、刻みを施す。頸部は 6 条の凹線により施文し、最大胴部には 2 条の刺突文を施す。同様の刺突文は、299 にもみられる。300 は 299 同様大型の底部である。出土状況は逆位をとる。

遺構廃絶時期は出土遺物より、弥生時代中期中葉～後葉と思われる。なお、埋土中より出土した炭化物(分析試料 No. 5)について放射性炭素年代測定を行った結果、およそ紀元前 2 世紀代の年代が得られた(第 5 章第 1 節参照)。(森本)

土坑 15 (第 138 図、図版 15)

D 4・5 グリッドに位置する。VI 層除去中に検出したが、本来は VI 層上面より掘削された遺構と思われる。検出面の平面形は不整な隅丸方形を呈

す。検出面での規模は長軸約 3.9 m、短軸残存約 3.3 m、検出面からの深さは 33cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面の規模は長軸約 3.2 m、短軸残存約 2.4 mを測る。埋土は黒色土の単層である。遺物は出土していない。

本遺構は同一検出面の土坑 11～14・16 に近接することから弥生時代中期後半の可能性が高い。(森本)

土坑 16 (第 139・140 図、図版 15)

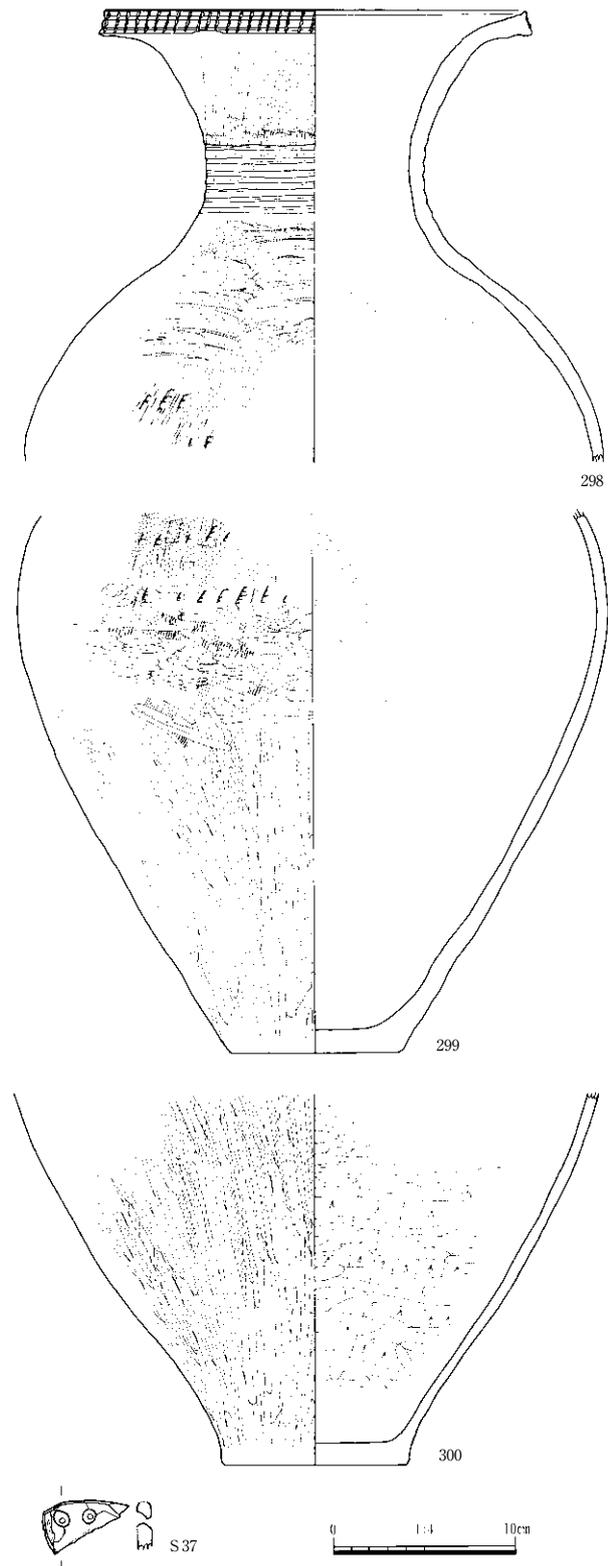
C 4 グリッドに位置する。V 層除去後、VI 層上面において検出した。遺構検出面の平面形は不整な隅丸方形を呈す。検出面での規模は長軸約 1.1 m、短軸約 1.0 m、検出面からの深さは 22cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面の平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸 98cm、短軸 68cmを測る。埋土は黒色土の単層であり、しまりはややゆるい。明黄褐色土の小ブロックが混入するものの極少量であり、混入物はほとんどみられない。検出面より、ほぼ完存する弥生土器の甕 301 が出土している。逆位をとり、押しつぶされたような出土状況を示す。口縁端部を僅かにつまみ上げ、口縁端面は無文である。

出土した土器は IV-1 様式に並行すると思われる。遺構廃絶時期は弥生時代中期後葉と考えられる。(森本)

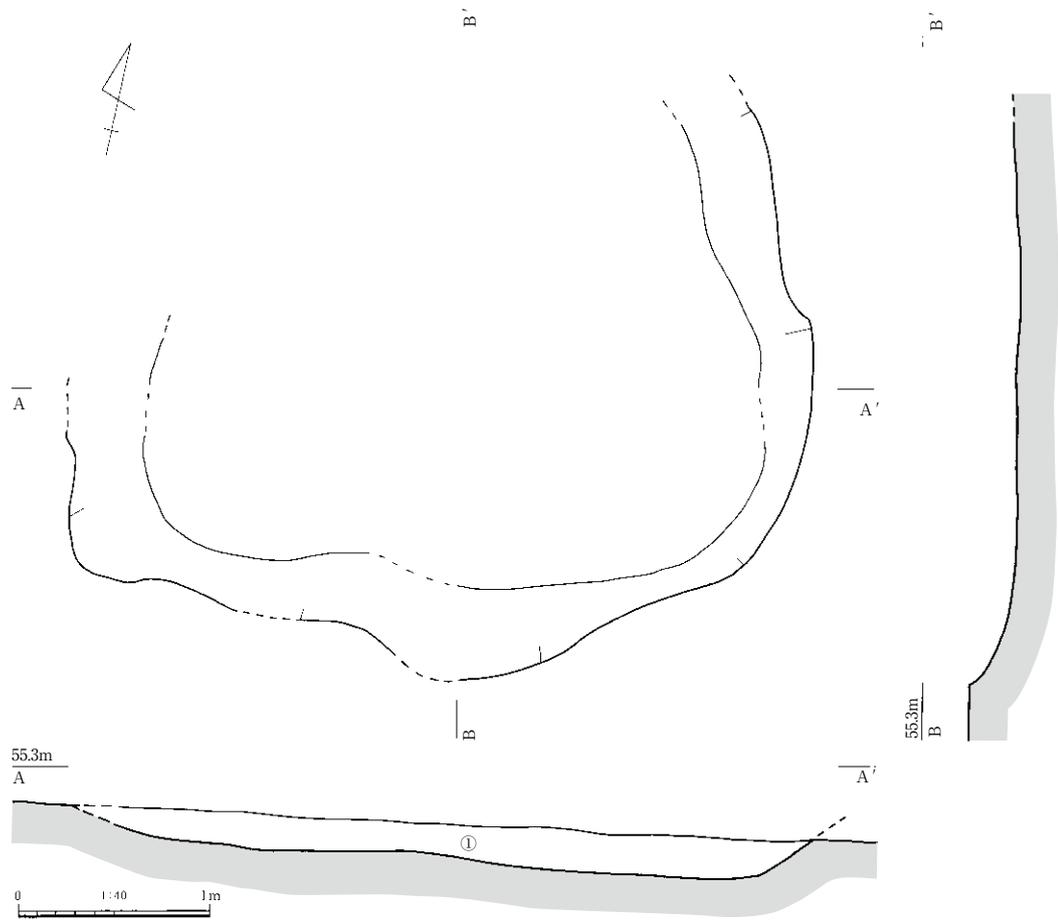
土坑 17 (第 141～143 図、図版 15)

調査区東側、D 1 グリッドに位置する。平面長方形の土坑で、南東部は調査区外に展開する。また、遺構南壁部分では VI 層上面から検出することができたが、遺構の大半は VII 層上面での確認となった。

規模は確認できる範囲で長軸約 2.5 m、短軸約 1.8 m、深さ 76cmを測る。黒褐色土を埋土とするが、下層は地山である VII 層下の黄褐色土の粒が多く含まれる。出土遺物 302、303 は弥生土器甕口縁部から胴部にかけての破片である。両者とも外面調整はハケやミガキを基調とし、内面は 302 がナデとミガキ、303 がハケとナデを施す。また 302 は口縁部に 2 条の凹線が見られる。そのほかには礫石器 S 38、S 39 が出土する。S 38 は砥石、S 39

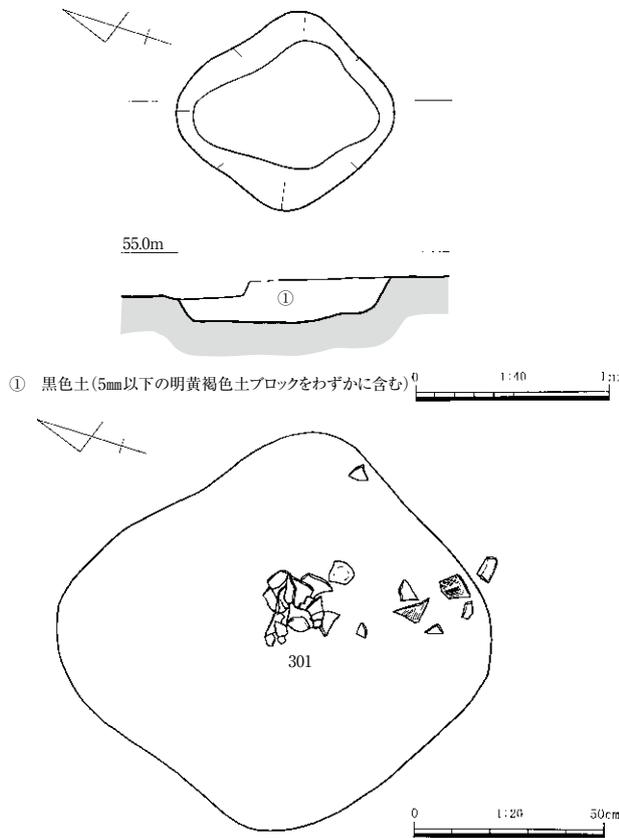


第137図 土坑14出土遺物



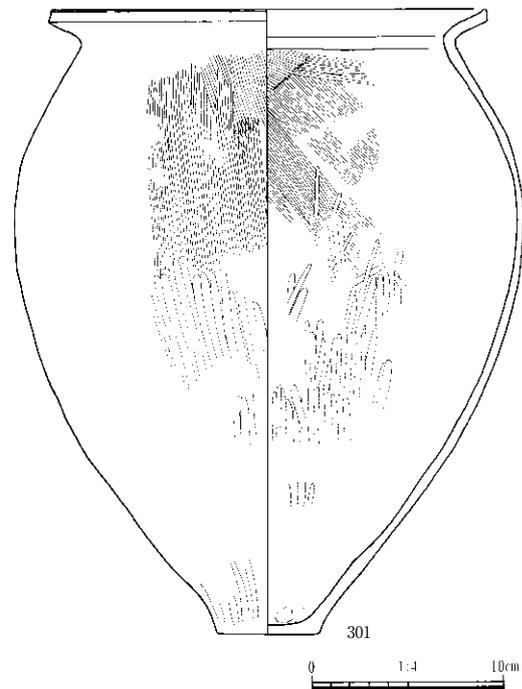
① 黒色土(微細~φ0.5cmの明黄褐色土ブロック混)

第138図 土坑15

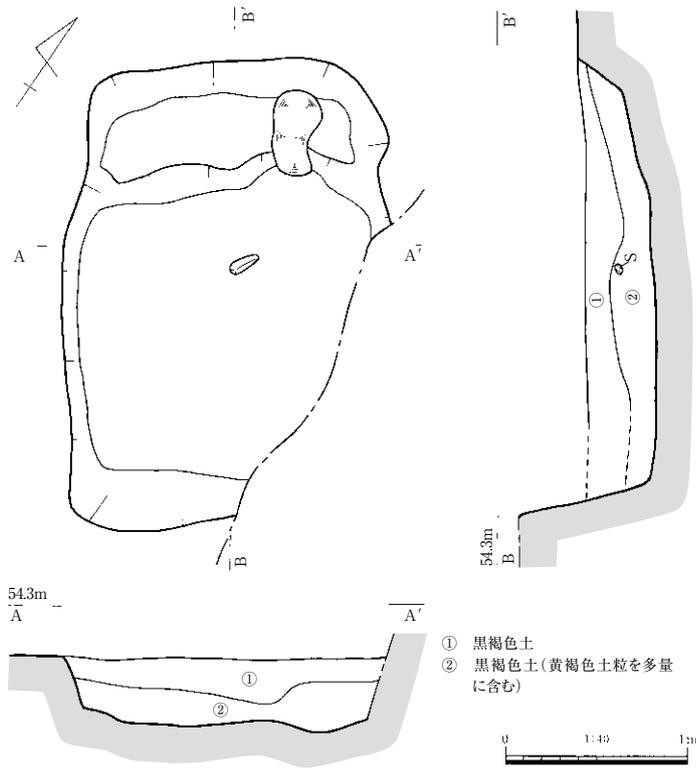


① 黒色土(5mm以下の明黄褐色土ブロックをわずかに含む)

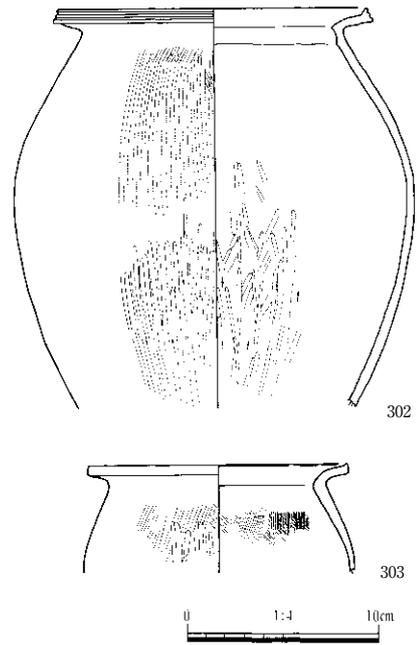
第139図 土坑16・遺物出土状況図



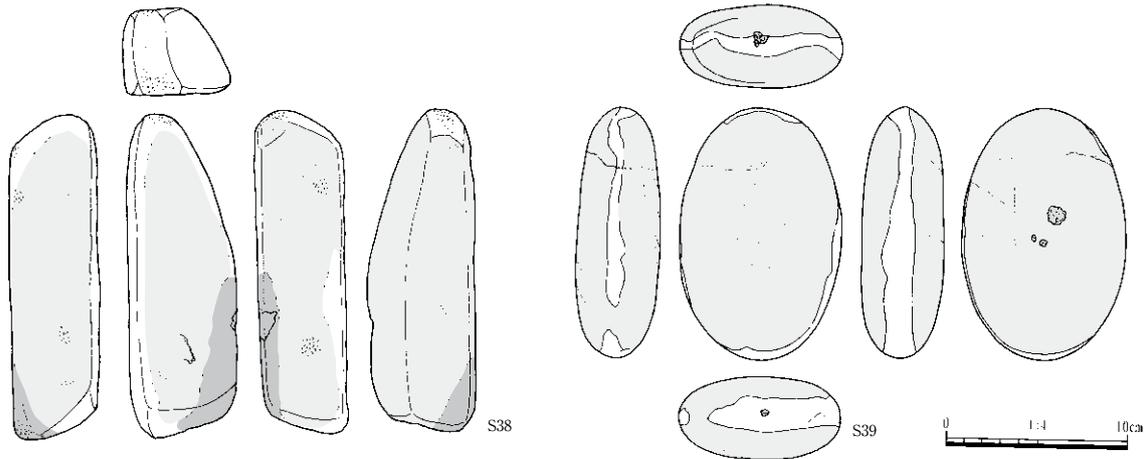
第140図 土坑16出土遺物



第141図 土坑17



第142図 土坑17出土遺物



第143図 土坑17出土遺物

は磨・敲石として使用されている。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代中期中葉～後葉ころと考えられる。

(野口)

土坑 18 (第 144 図、図版 15)

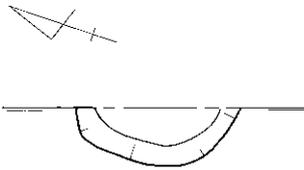
調査区東側、D 1 グリッド北西隅で確認した土坑で、遺構全体の半分強が調査区外に位置する。また、平面での検出は地山である第 7 遺構面での確認となったが、調査区東壁の断面では第 6 遺構面である VI 層からの掘り込みが確認された。

規模は南北 95cm、深さは 48cm を測る。埋土には黒褐色土が堆積するが、含まれる小礫の多寡から 2 層に分けられる。

本遺構の時期は、VI 層を検出面とすることから、弥生時代中期～古墳時代と考えられる。(野口)

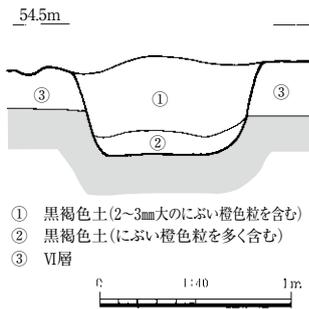
溝 35 (第 145 図、図版 15)

調査区南西隅、I 5 グリッドに位置する。東西方向に走向し、西側は攪乱によって壊される。確認された範囲では、長さ 4.9 m、幅 40 ~ 74 cm、深さは西側で 18 cm を測る。埋土には灰褐色土、暗褐色土の 2 層が堆積する。このうち灰褐色土に関しては、現代の耕作土に色調に近いことから、攪乱の可能性もあるが、近世耕作土とも判別が困難であったため、近世以降の溝として扱った。(野口)



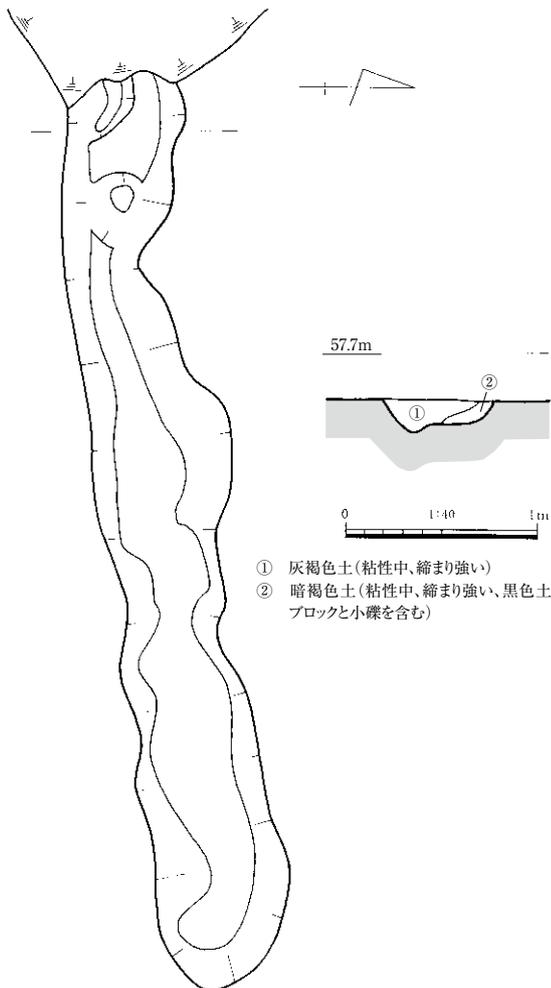
溝 36・37 (第 146 図、図版 15)

F 4 グリッドに位置する溝状遺構で、溝 36 は部分的に途切れるものの北西 - 南東に走向する。溝 37 も西半部では北西 - 南東方向に伸びるが、東半部では東西方向に屈曲し、溝 36 中央部南側に接続する。



規模は、溝 36 が長さ 6.7 m、幅 20 ~ 60 cm、深さ 1 ~ 13 cm、溝 37 が長さ 3.5 m、幅 18 ~ 52 cm、深さ 2 ~ 11 cm を測る。底面の高さは標高で、溝 36 が西側 55.48 m、東側 55.34 m、溝 37 が西側 55.56 m、東側 55.37 m と西から東に向かい傾斜する。埋土は溝 36 に暗褐色土、褐色土の 2 層、溝 37 に褐色土が堆積する。溝 36 は前述した溝 19 の延長上に位置し、埋土の特徴も類似することから、確認される層位は異にするものの、本来は同一の遺構であった可能性が高い。また、溝 37 も溝 36 に接続することから、溝 36 と同一の遺構であったと判断される。時期は、溝 19 と同一であるならば、平安時代後半ころと考えられる。(野口)

第144図 土坑18



溝 38 (第 147 図、図版 16)

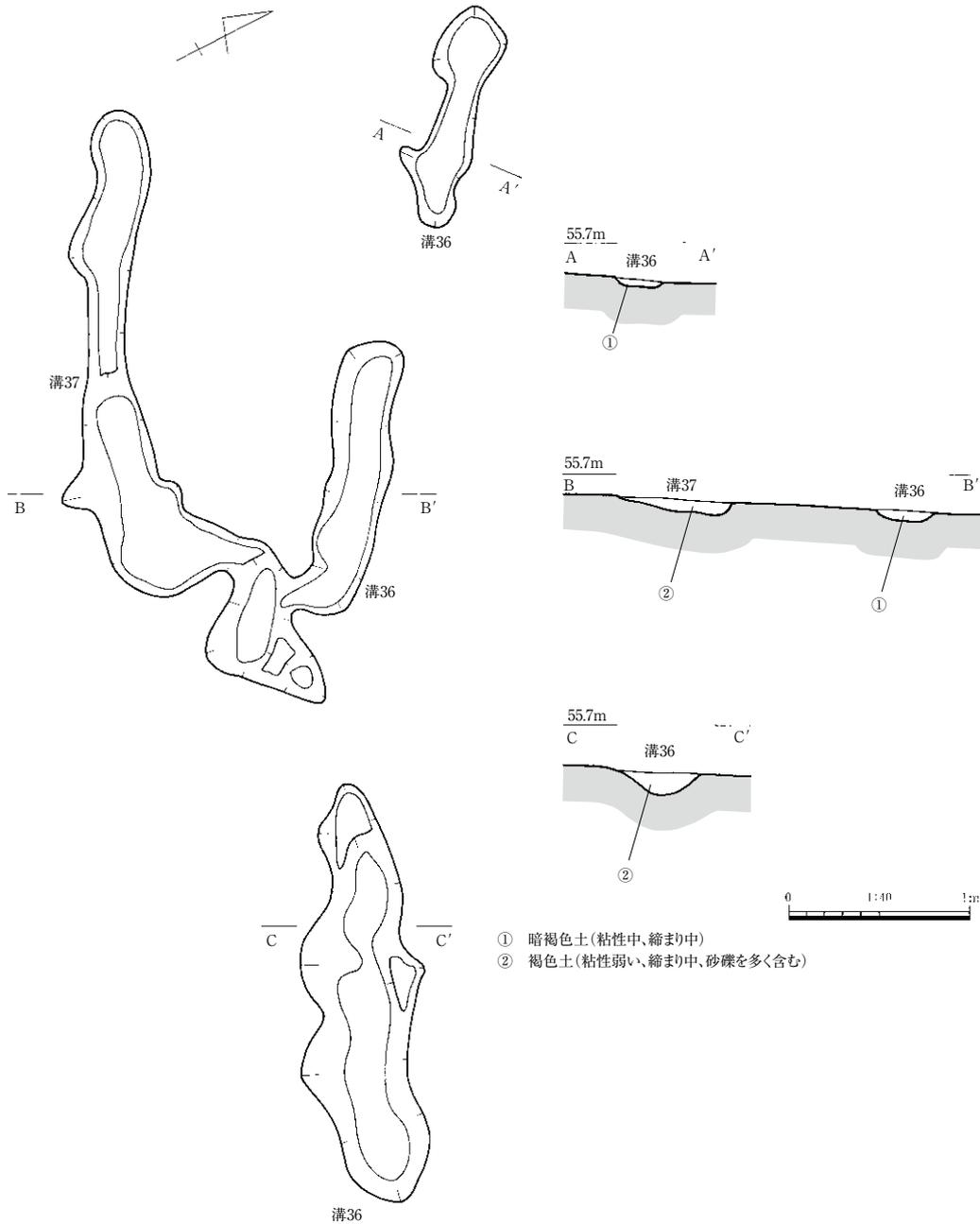
F 4 グリッド南東隅に位置する。ほぼ東西方向に走向する。長さ約 2.8 m、幅 29 ~ 50 cm、深さ 14 cm を測る。遺構底面両端の標高は、西端 55.80 m、東端 55.60 m と西から東に向かって低くなる。埋土は上層に暗褐色土、下層に砂礫層が堆積する。

本遺構は、弥生 ~ 古墳時代の遺構面である VI 層を確認面としたが、遺構埋土には暗褐色土が堆積する。III 層上面での遺構検出はできなかったことから、本遺構は III 層内に確認面があったものと思われるが、その場合、本遺構北側 6 m に位置する溝 36・37 とは走向方向を近くするなど関連した可能性がある。時期は遺構埋土より室町時代後半ころと思われる。(野口)

第145図 溝35

溝 39・P 88 (第 148 図)

D 5 グリッドに位置する。IV 層除去後、VI 層上面に

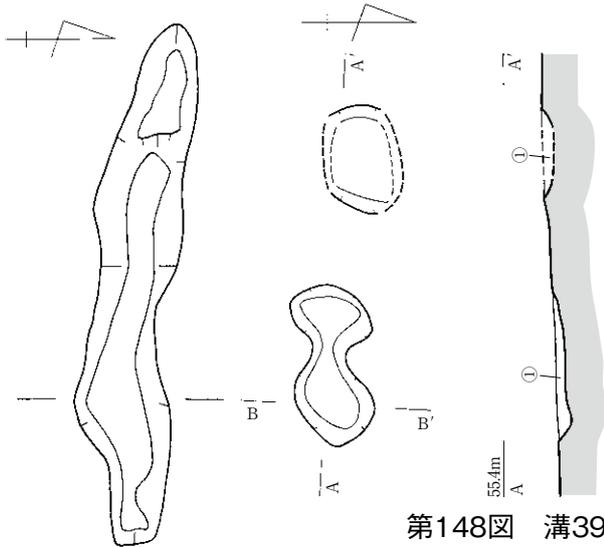


第146図 溝36・37

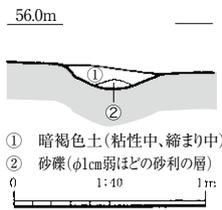
において検出した。本遺構は東西2つの落ち込みからなり、遺存状態が非常に悪い。これらの埋土は近似していることから、本来は同一遺構であり、底面が部分的に残存したものと想定している。なお、同一面に検出した古代耕作痕を切る。

平面形は東側が瓢箪状の形状をとり、西側は楕円形を呈す。東西方向を主軸とし、検出した長さは約1.8mである。検出面での幅は18～42cm、検出面からの深さは西端8cm、東端2cmを測る。底面の標高は西端55.12m、東端55.09mであり、東西の比高差は3cmである。断面形は皿状を呈し、埋土は灰褐色の砂礫が堆積する。埋土の堆積状況から判断して、遺構内は流水の環境下におかれていた可能性が高い。遺物は出土していない。

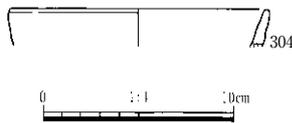
本遺構の時期は古代耕作痕を掘削していることから、9世紀後半以降と考えられる。(森本)



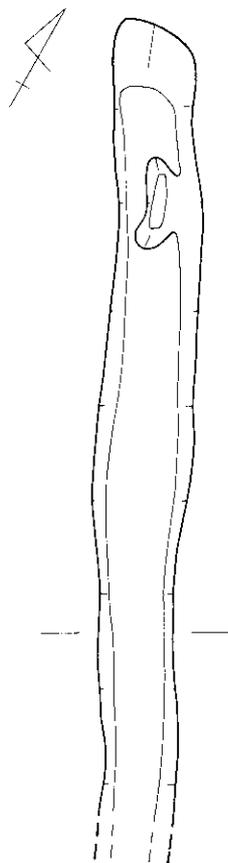
第148図 溝39・P 88



第147図 溝38



第149図
溝40出土遺物



第150図 溝40

溝40 (第149・150図、図版16)

調査区南東隅、G 0 グリッドに位置する溝である。溝 7 調査中に確認された。N - 30° - W の方位で南北に走向し、南側は調査区外に展開する。規模は長さ 4.3m、幅は 40cm である。深さは 20cm 程度で、遺構底面の標高は南側で 55.06 m、北端で 54.76 m と南から北に向かい傾斜する。埋土には黒灰褐色土、灰褐色土の 2 層が堆積する。埋

土中からは土師器坏 304 が出土した。細片のためその特徴は明らかでないが、回転ナデによる調整と思われる。

本遺構の時期は、弥生～古墳時代の土層である VI 層上面の検出であったが、出土遺物から平安時代以降の時期が考えられる。(野口)

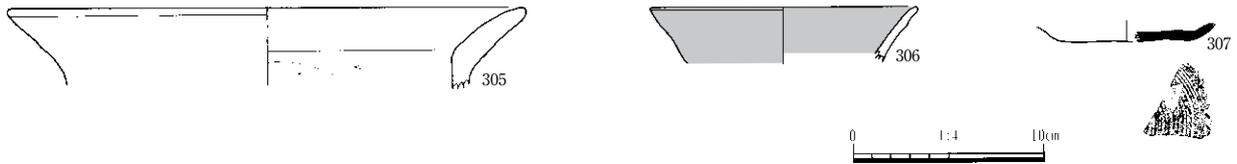
P 97 (第 152 図)

D 4 グリッドに位置する。IV 層除去後、VI 層上面において検出した。平面形はやや不整な楕円形状を呈す。検出面での規模は長軸約 46cm、短軸約 45cm を測る。検出面からの深さは約 44cm を測り、底面の標高は約 54.74 m である。断面形は逆台形状を呈す。土層断面を観察した結果、12cm 程度の柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。P 97 周辺には 9 世紀後半～10 世紀後半と考えられるピット群を検出している。P 97 はこれらのピット群と埋土の色調が近似することから、同時期の遺構と想定している。(森本)

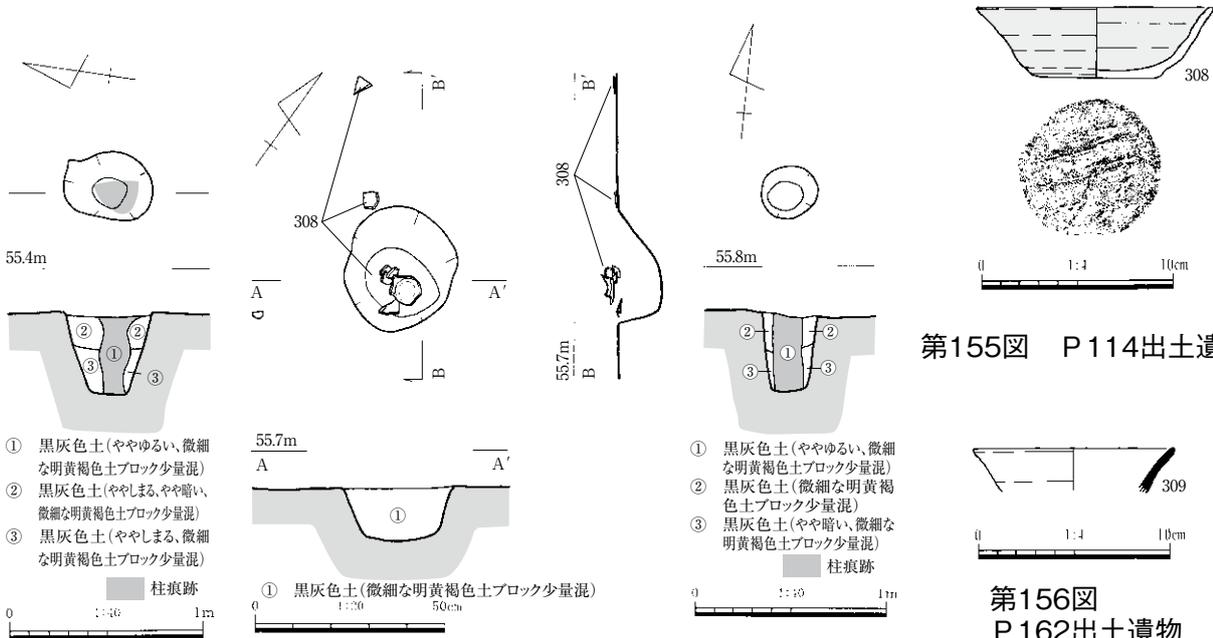
P 114 (第 153・155 図)

E 5 グリッドに位置する。IV 層除去後、VI 層上面において検出した。平面楕円形を呈し、検出面での規模は長軸約 65cm、短軸約 56cm を測る。検出面からの深さは約 13cm を測り、底面の標高は約 55.46 m である。断面形は逆台形状を呈す。埋土は黒色土の単層である。

P 114 上面より土師器坏 308 が出土している。比較的まとまりをもった状態で出土し、ほぼ完存する。内外面



第151図 VI層上面検出ピット出土遺物



第155図 P114出土遺物

第152図 P97

第153図 P114

第154図 P115



第156図
P162出土遺物

とも赤色塗彩が施される。

本遺構の廃絶時期は出土遺物より、9世紀後半ころと思われる。

(森本)

P 115 (第 154 図)

E 5 グリッドに位置する。IV層除去後、VI層上面において検出した。平面円形を呈し、検出面での規模は長軸約 39cm、短軸約 28cmを測る。検出面からの深さは約 43cmを測り、底面の標高は約 55.15 mである。断面形は逆台形状を呈す。土層断面を観察した結果、15cm程度の柱痕跡が認められる。遺物は出土していない。

P 115 周辺には9世紀後半～10世紀後半と考えられるピット群を検出している。P 115 はこれらのピット群と埋土の色調が近似することから、同時期の遺構と想定している。

(森本)

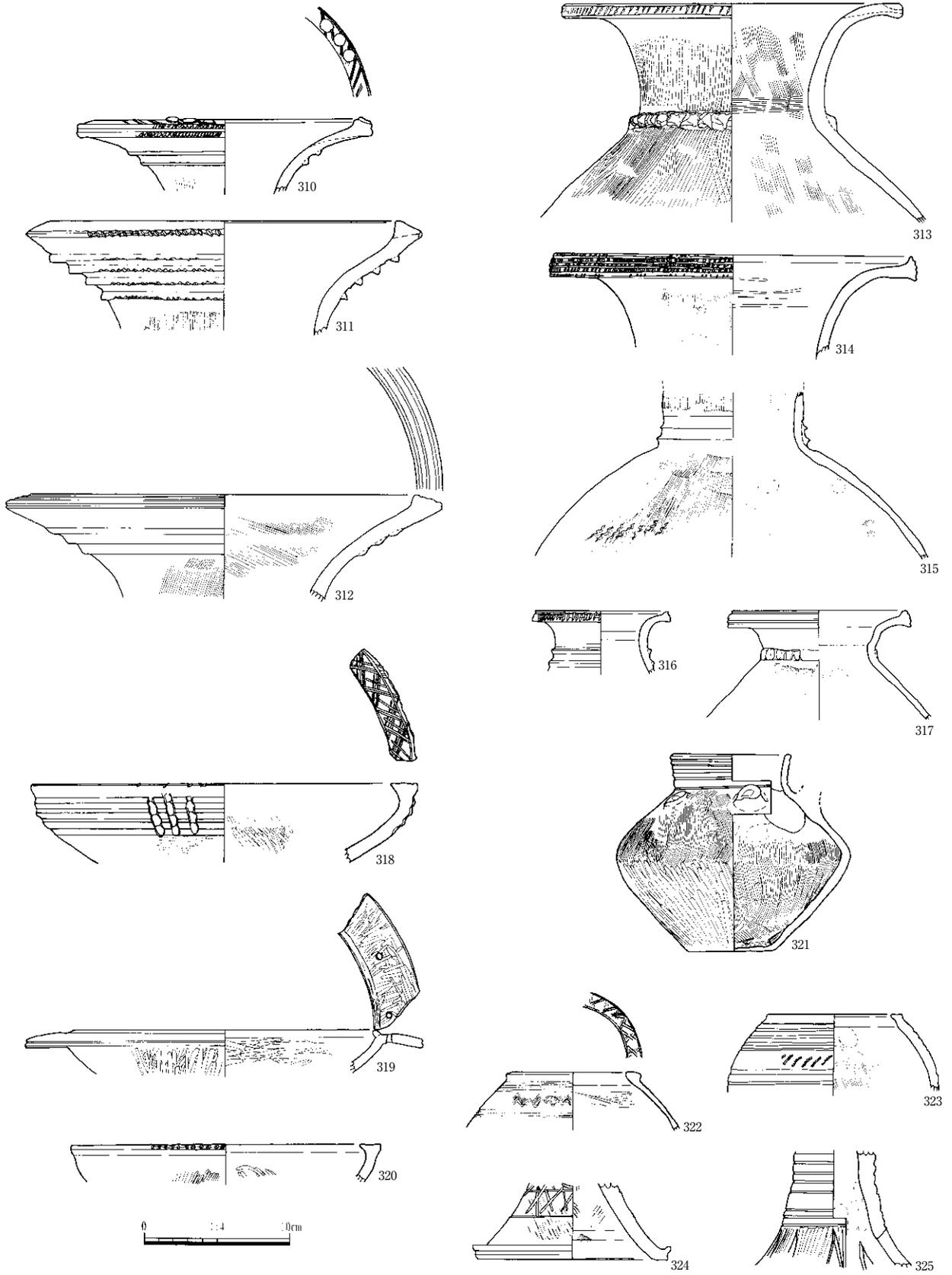
VI層上面検出ピット出土遺物 (第 151 図)

VI層上面にて検出したピット群より出土した遺物を掲載した。土師器 305・306 は P 82 出土である。坏 306 は内外面とも黒色処理を施された可能性がある。須恵器坏 307 は P 84 より出土し、底部外面には回転糸切りによる切り離し痕跡がみられる。

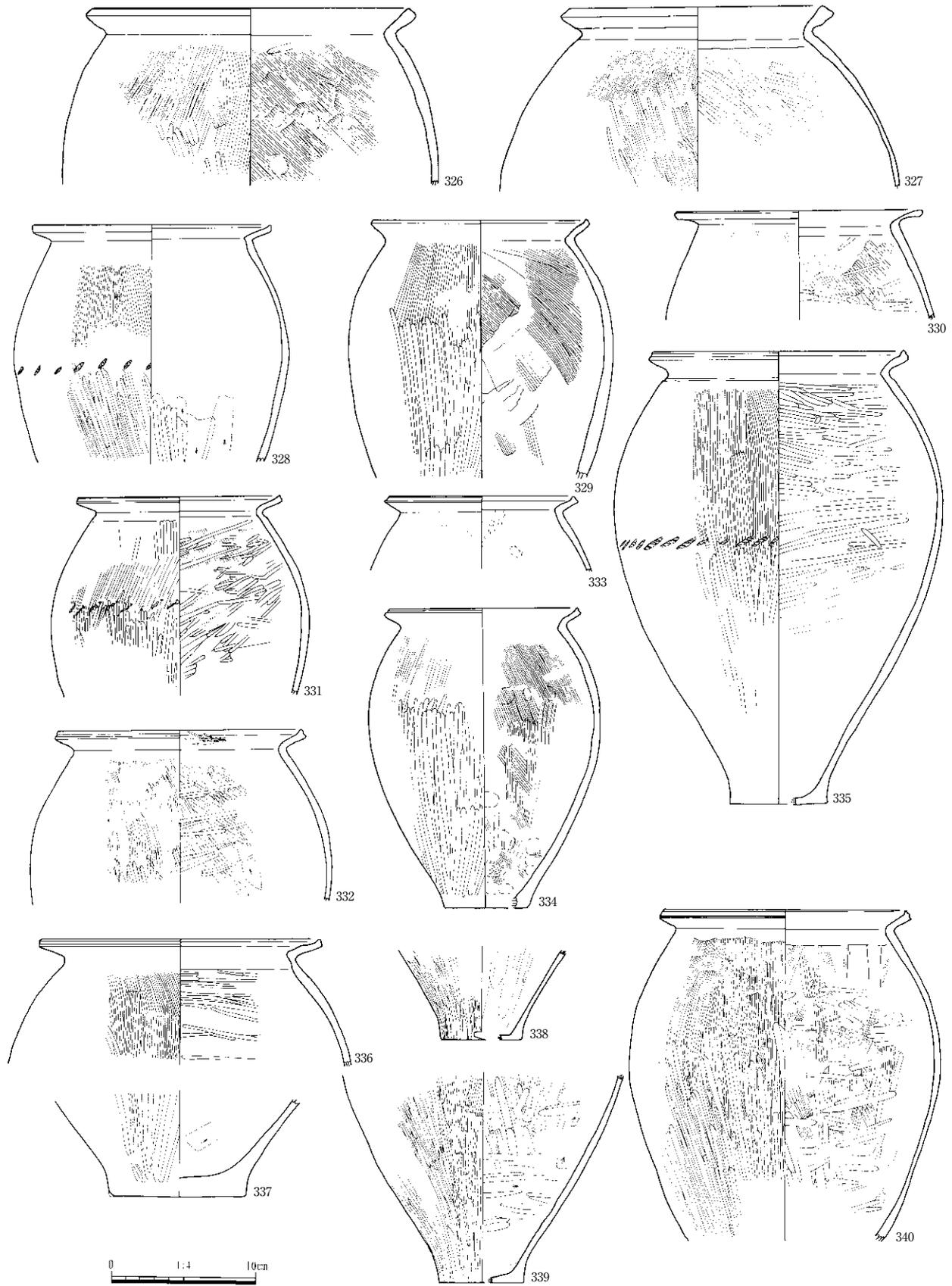
(森本)

遺構外出土遺物 (第 157 ～ 162 図)

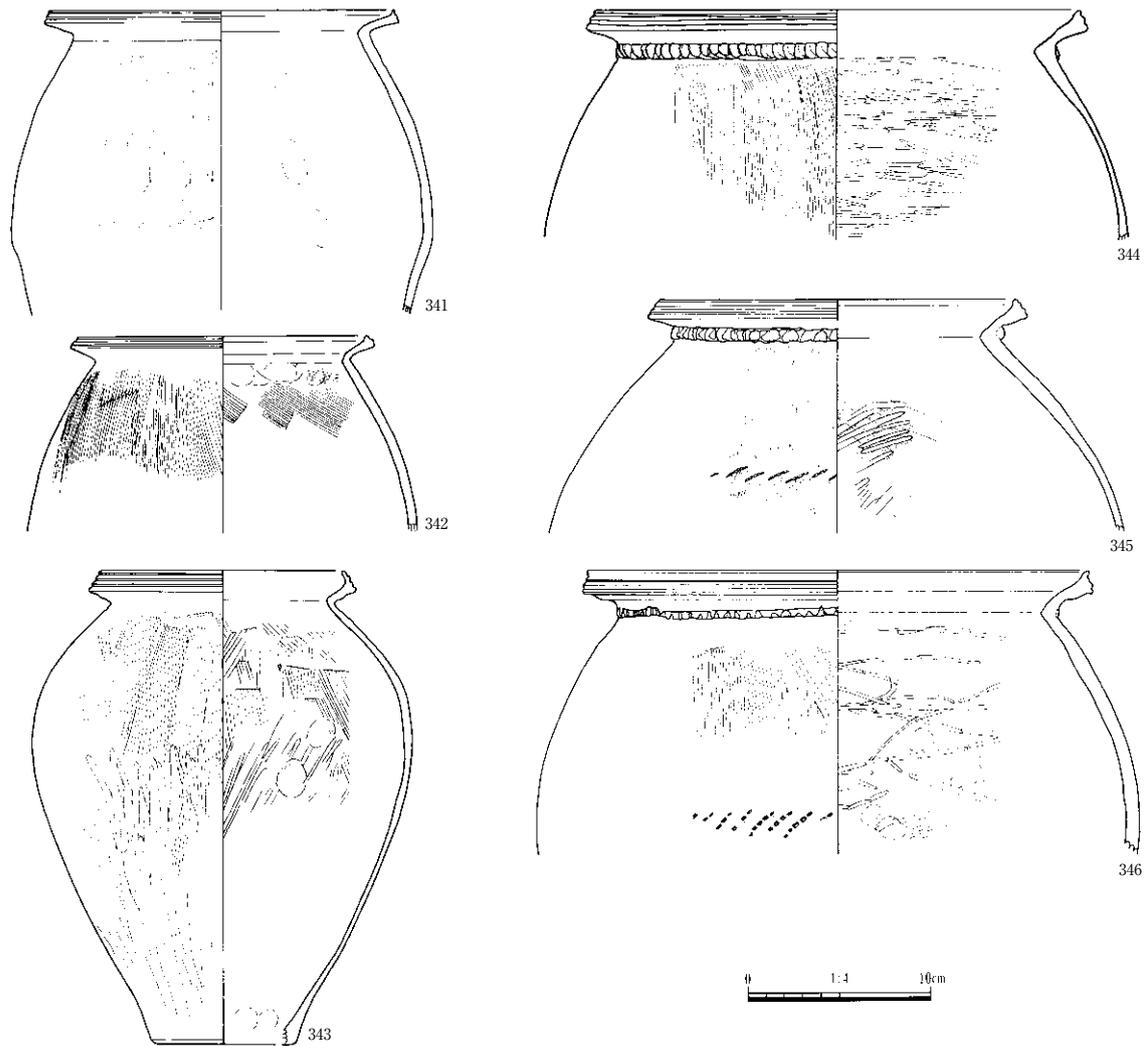
ここでは、VI層上面およびVI層中より出土した遺物を掲載した。310～350、S 40～46 を図化し、



第157図 遺構外出土遺物



第158図 遺構外出土遺物



第159図 遺構外出土遺物

そのうち 317・321・323・327・337・342・347、S 40・41 はVI層上面より出土した遺物である。

310～317は壺である。310は口縁端面に沈線文と円形浮文を施し、口縁端部にはキザミをいれ、1条の凹線をひく。口縁外面は断面三角の貼付突帯により装飾している。311は口縁部に断面三角の貼付突帯を施し、口縁端部と突帯にキザミをいれている。312は口縁端面に3条の凹線をひき、口縁部に断面三角の貼付突帯を施す。313は口縁端面にキザミをいれ、頸部には指頭圧痕貼付突帯を施す。314は口縁端部を上下にやや肥厚させている。口縁端面には4条の凹線をひき、キザミを施す。315は頸部から胴部にかけての破片である。頸部に断面三角の貼付突帯を2条施し、胴部には波状の刺突文がみられる。316は小型のもので、頸部には断面三角の貼付突帯を2条施す。317は口縁端面に3条の凹線をひき、頸部は指頭圧痕貼付突帯を施す。

321はいわゆる水差し形の土器である。把手部分は欠損しているものの、ほぼ完存する。器高は低く、胴部が算盤玉状を呈す。口縁部は5条の凹線をひき、胴部外面上半はハケ、下半はミガキによる調整痕跡が認められる。県内では、水差し形土器の出土は因幡に集中しており、西伯耆における貴重な資料となった。322・323は小型の無頸壺である。322は口縁端面に格子文、肩部には直線と波状の沈線文を施す。323は赤色塗彩され、胴部は凹線と刺突文を施す。

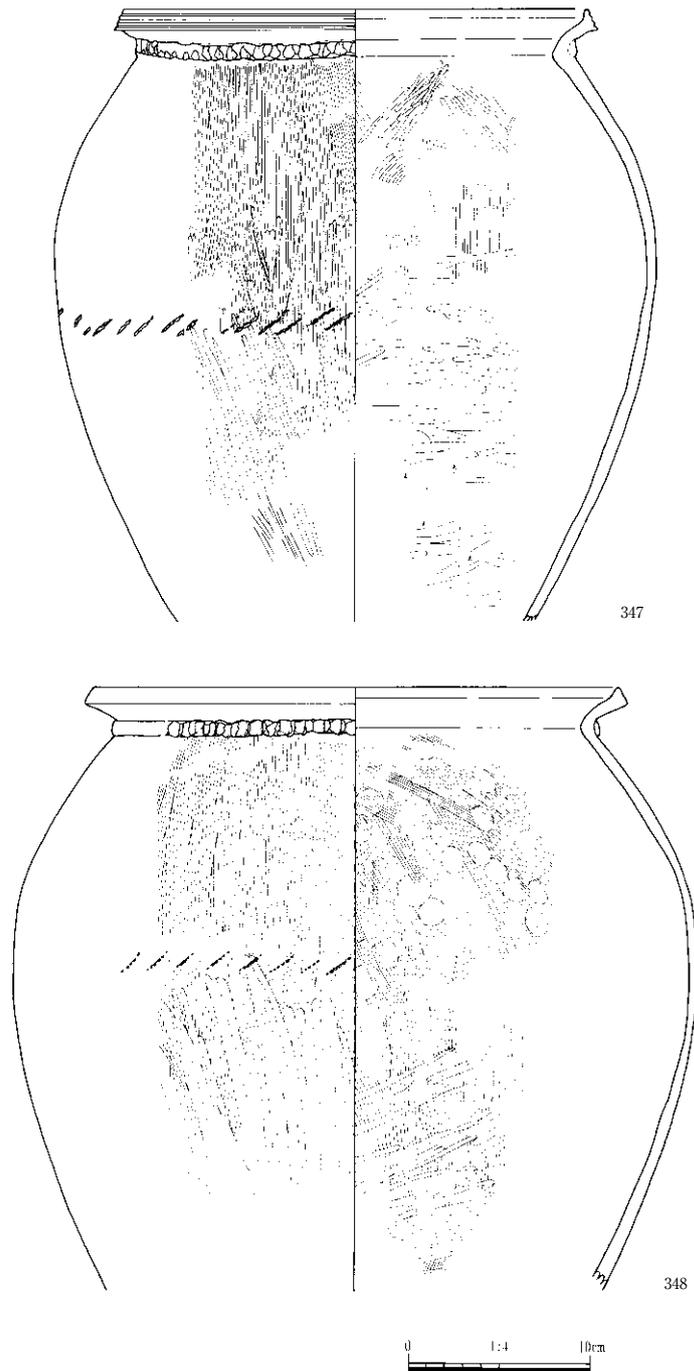
318は高坏と思われる。坏部は内湾して立ち上がり、口縁端部は左右に肥厚させている。口縁端部

は格子文、坏部外面には3条の棒状浮文を施す。319は水平口縁の高坏である。内外面ともミガキが顕著にみられ、口縁端面には2孔一対とみられる穿孔が穿たれる。320は鉢あるいは高坏であろうか。口縁端部にはキザミを施す。324・325はいずれも透しをもつ脚部である。324は直線及び格子目状の沈線文を施し、脚部端面には凹線状に窪む。325外面には凹線が多条にめぐる。

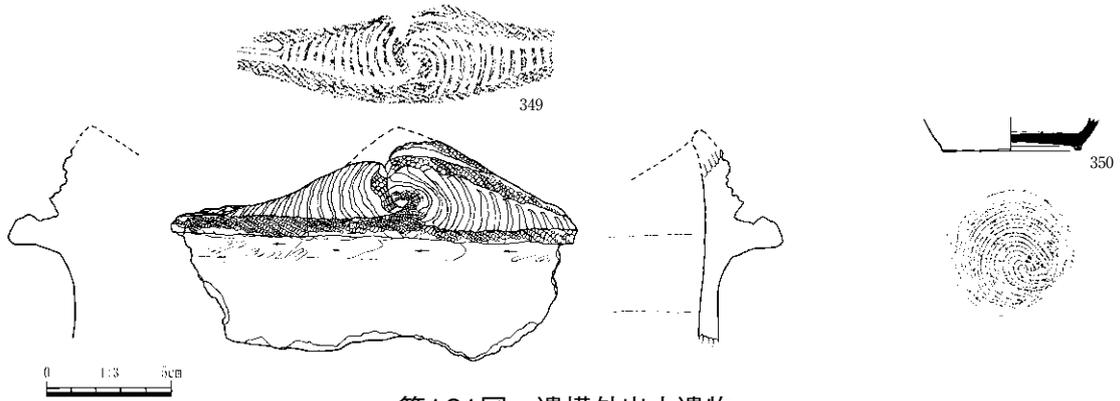
326～348は甕である。胴部外面上半はハケ、下半はミガキ調整されたものが主である。326～330・348は口縁端面が無文のものである。328は最大胴部に貝殻腹縁によるとみられる刺突文が施される。348は頸部に指頭圧痕貼付突帯が施される。圧痕は明瞭に残る。最大胴部は刺突文により装飾される。331～335は口縁端部が僅かに上方につまみ上げられ、口縁端面に1条の凹線がひかれる。335は頸部にも1条の凹線をひき、最大胴部には刺突文を施す。工具は貝殻腹縁であろうか。340～347は口縁端面に2または3条の凹線が引かれる個体である。340～342は口縁端部の肥厚は僅かだ

が、343は上方にかなり肥厚する。339・340は出土位置が近く、器形、調整が近似することから同一個体である可能性が高い。344～347は頸部に指頭圧痕貼付突帯が施される。344・345は圧痕が明瞭に残るが、346・347は貼付突帯に圧痕が施された後、ナデつけられている。345～347は最大胴部に刺突文が施される。349は縄文土器深鉢片。後期前葉の縁帯文土器で、波状口縁の波頂部を含む口縁部から頸部にかけての破片である。350は須恵器高台杯の底部片。底部に回転糸切り痕が残る。

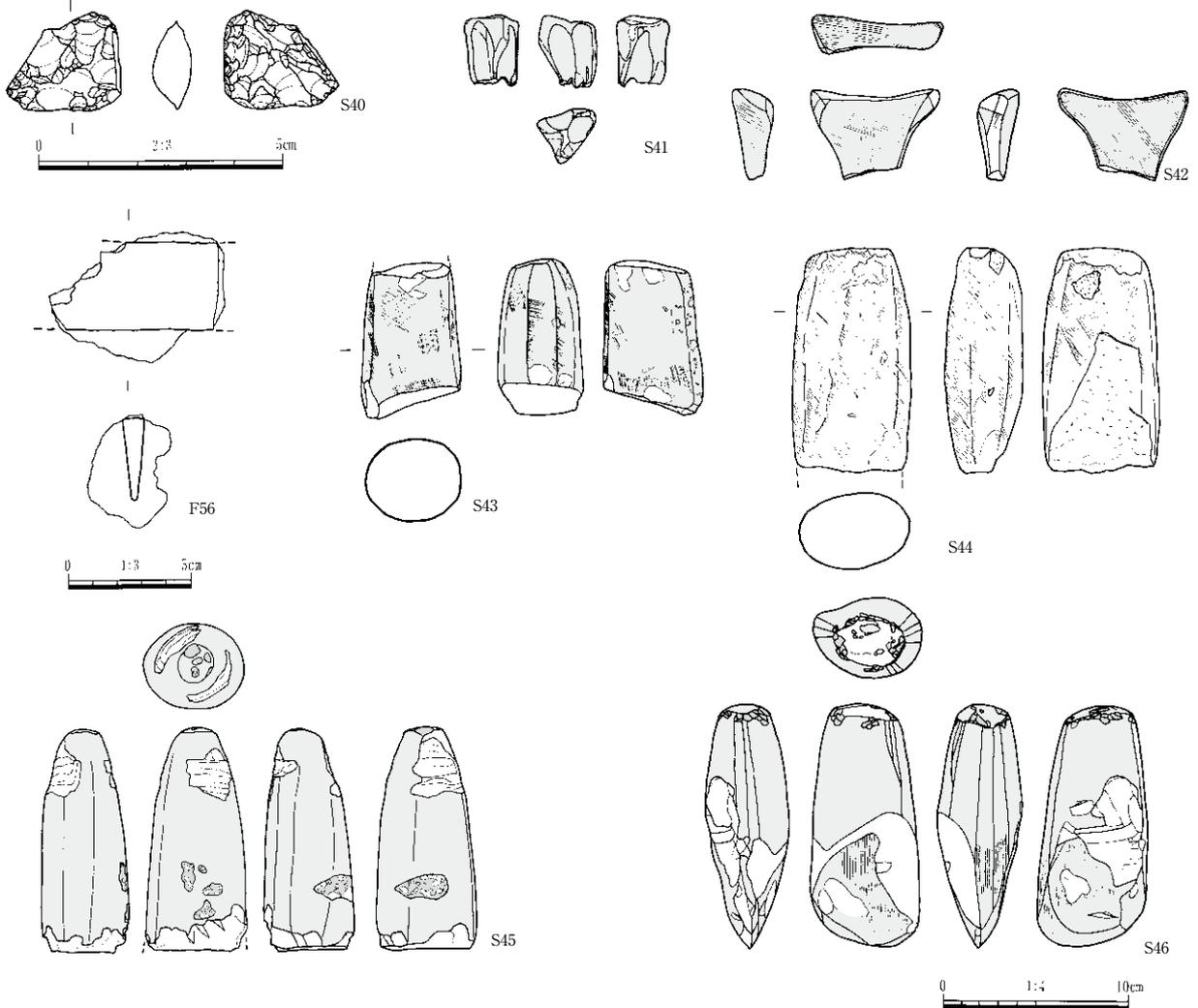
S40は黒曜石製の楔形石器。表裏とも全面に二次調整が加わり、周縁に使用に伴う潰れが見られる。S41・S42は砂岩製の砥石。いずれも全面が砥面となり、S42には細かい線条痕が多数観察できる。S43～S46は安山岩製の磨製石斧。刃部を欠損したものがほとんどであるが、いずれも断面楕円形の



第160図 遺構外出土遺物



第161図 遺構外出土遺物



第162図 遺構外出土遺物

両刃石斧と思われる。S43は刃部側が大きく欠損した後、欠損面を機能面とした磨り石に転用している。体部表面には石斧整形時の研磨痕が観察できる。S44も表面に整形に伴う研磨の痕跡が著しく見られる。S45は基部付近に装着痕の可能性のある窪みがいくつか見られる。また、基端部と表面に二次的に形成された敲打痕が見られ、刃部欠損後に敲石に転用されたものと思われる。S46は刃部付近に研磨痕が観察できる。

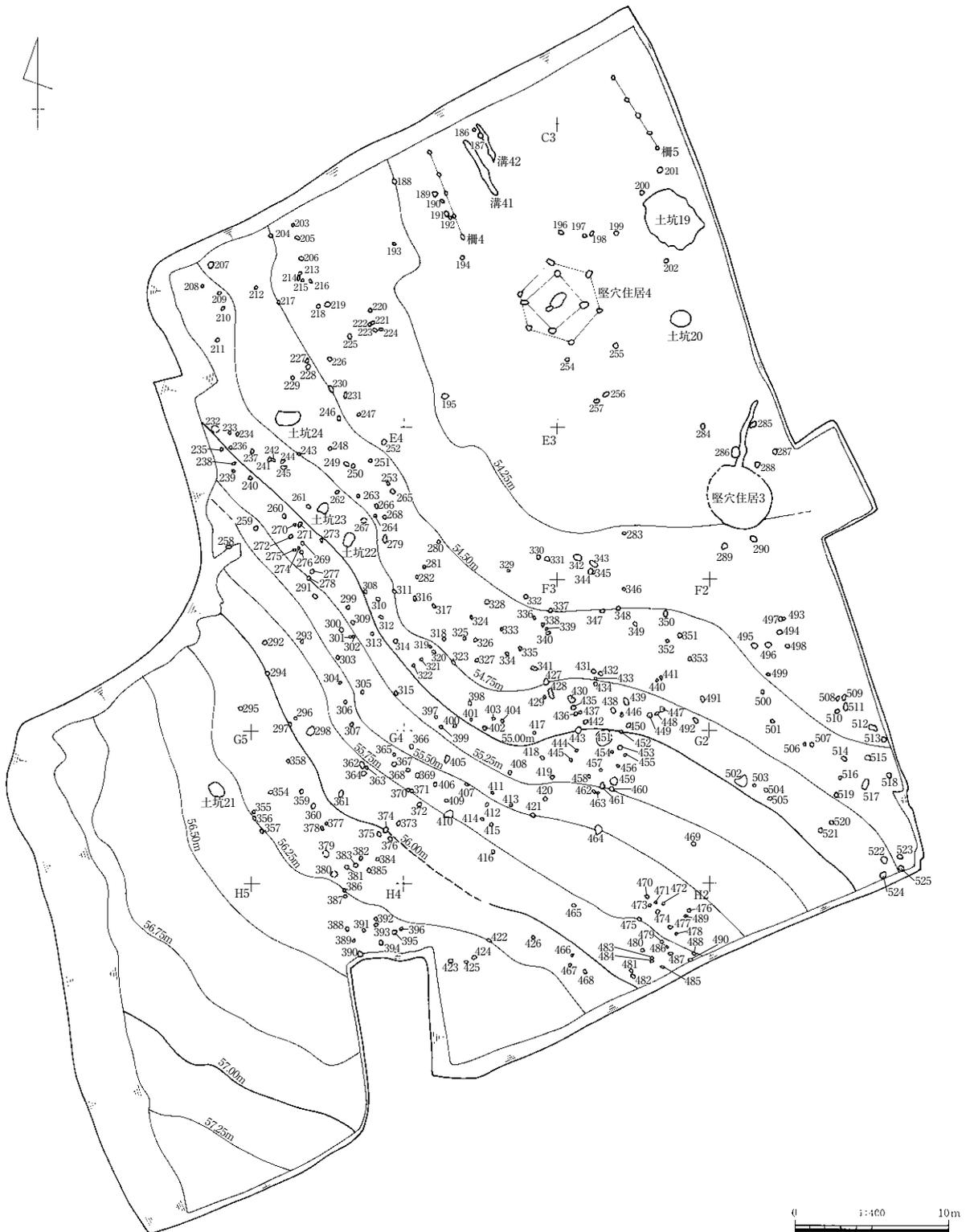
(森本)

表10 第6遺構面ピット一覧表 (計測単位: cm)

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
74	29	25	40	灰褐色
75	31	28	28	灰褐色
76	24	23	24	灰褐色
77	33	27	15	灰褐色
78	28	20	22	灰褐色
79	56	23	17	暗灰褐色
80	78	61	49	暗灰褐色
81	33	32	17	黒灰色土
82	44	42	59	黒灰色土
83	40	36	47	-
84	83	40	57	黒灰色土
85	52	40	48	黒灰色土
86	42	30	35	黒灰色土
87	46	39	13	黒灰色土
88	58	40	8	黒灰色土
89	52	39	22	黒灰褐色
90	48	42	31	黒灰色土
91	42	40	42	黒灰色土
92	50	46	43	-
93	28	24	10	淡褐色
94	36	32	7	灰褐色
95	48	42	12	暗灰褐色
96	44	38	13	黒色土
97	46	34	44	暗褐色
				暗褐色
98	56	40	34	黒灰色
99	35	32	51	黒灰色
100	40	33	33	黒灰色
101	28	28	12	黒灰色
102	30	30	32	黒灰色
103	30	26	11	灰褐色
104	21	20	14	灰褐色
105	20	18	11	灰褐色
106	27	26	31	灰褐色
107	24	22	15	灰褐色
108	22	19	15	黒灰色
109	22	17	12	黒灰色
110	18	18	11	灰褐色
111	26	19	15	灰褐色
112	22	21	12	灰褐色
113	26	24	51	黒灰色
114	32	27	13	黒灰色
115	30	29	41	黒灰色
116	30	28	45	黒灰色
117	26	24	53	黒灰色
118	18	15	18	黒灰色
119	32	30	46	黒灰色
120	42	36	45	黒灰色
121	26	25	41	黒灰色
122	34	32	30	黒灰色
123	22	18	9	黒灰色
124	20	18	18	灰褐色
125	23	20	17	灰褐色
126	20	19	11	灰褐色
127	22	20	10	灰褐色
128	51	38	13	暗灰褐色
				暗灰褐色
129	43	21	21	黒灰褐色
130	32	27	33	黒灰褐色
131	30	27	29	黒灰褐色
132	34	28	18	黒灰褐色
133	33	30	29	黒灰褐色
134	28	24	30	黒灰褐色
135	35	31	29	黒灰褐色
136	30	29	25	黒灰褐色
137	40	28	12	黒色土
138	39	25	19	暗褐色土
139	35	23	14	暗褐色土
140	58	28	25	暗褐色土
141	36	31	23	暗褐色土
142	19	18	16	黒色土
143	28	26	31	黒灰褐色
144	37	36	15	黒灰褐色
145	37	35	38	黒灰褐色
146	26	24	34	黒灰褐色
147	31	31	18	黒灰褐色
148	33	28	18	黒灰褐色
149	38	36	32	黒灰褐色
150	22	20	21	黒灰褐色
151	24	21	28	黒灰褐色
152	28	14	15	黒灰褐色
153	35	25	26	黒灰褐色
154	37	18	17	黒灰褐色
155	55	22	26	黒灰褐色
156	26	20	25	黒灰褐色
157	38	30	22	黒灰褐色
158	30	22	17	黒灰褐色
159	23	23	18	黒灰褐色
160	60	22	14	黒灰褐色
161	59	25	12	黒灰褐色
162	62	47	23	黒灰褐色
163	41	32	20	黒灰褐色
165	21	20	12	黒色土
164	28	26	36	黒灰褐色
166	49	26	12	黒灰褐色
167	36	32	25	黒灰褐色
168	35	26	31	黒灰褐色
169	30	21	5	黒色土
170	24	23	21	黒色土
171	38	35	24	黒色土
172	22	20	20	黒灰褐色
173	32	25	18	黒灰褐色
174	80	64	17	黒色土
175	41	28	24	黒灰褐色
176	43	35	34	黒褐色
177	26	24	30	黒褐色
178	39	36	35	黒褐色
179	31	30	34	黒褐色
180	19	18	40	黒色土
181	43	36	32	黒色土
182	27	24	26	黒色土
183	21	20	22	黒色土
184	28	27	26	黒色土
185	21	20	15	黒色土

第8節 第7遺構面の調査

本遺構面の高低差は、東西でおよそ3mと西から東に向かい傾斜した地形であるが、調査区西側から中央付近にかけてはやや急な傾斜をした地形を、東側では非常になだらかな地形を呈する。確認さ



第163図 4区第7遺構面遺構配置図

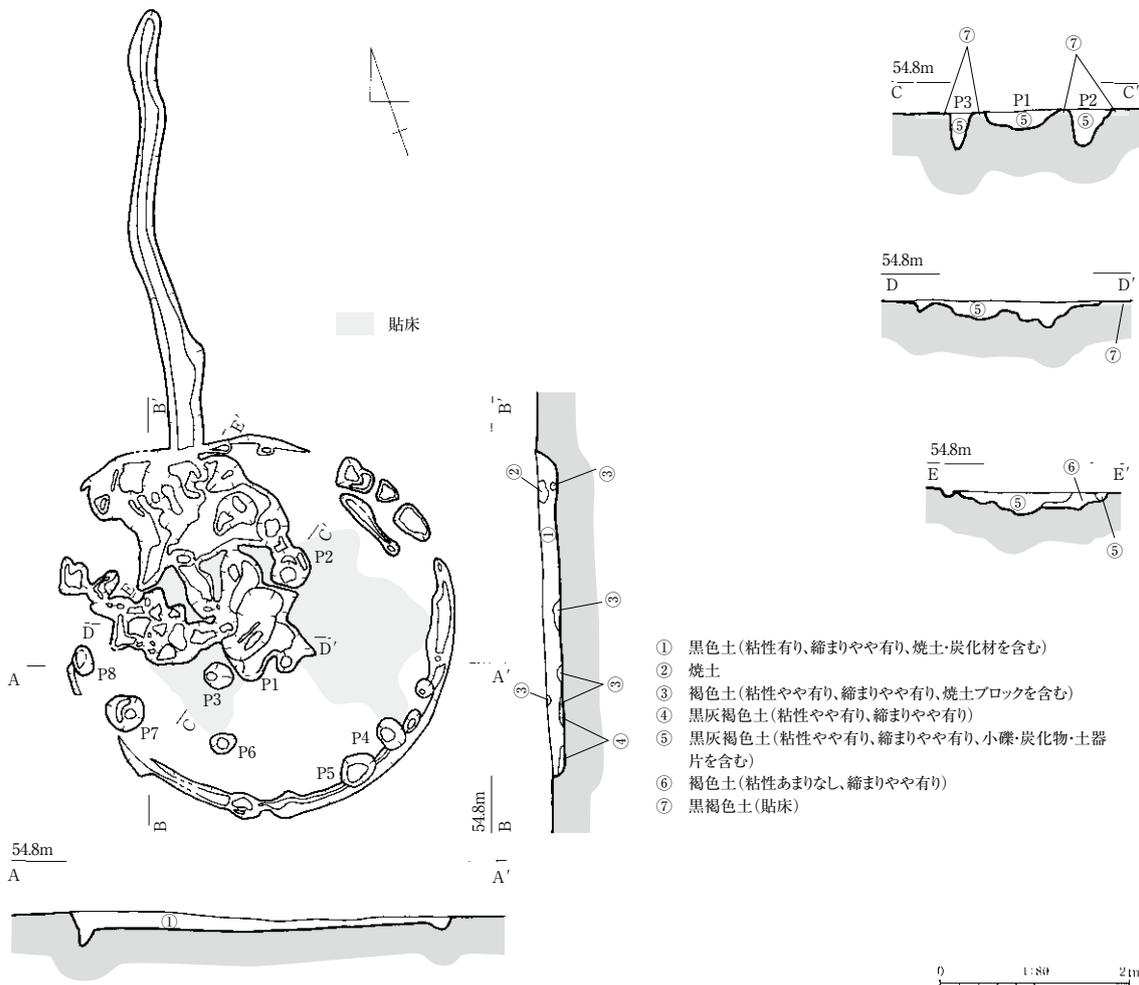
れる遺構には竪穴住居跡、土坑、溝、柵などが見られるが、いずれも埋土に黒色土が認められることなどから、その上位に位置するⅥ層での検出漏れの遺構、もしくはⅥ層中にさらに遺構面が存在したと思われる。(野口)

竪穴住居3 (第 163 ~ 166 図、図版 17)

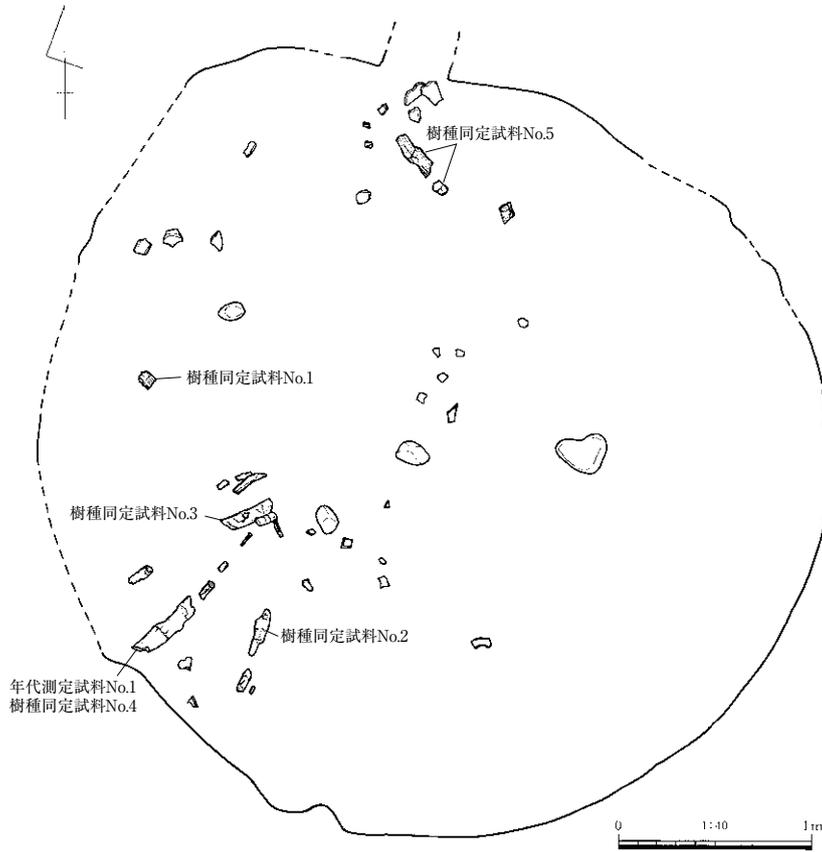
調査区東側、E 1 グリッドに位置する竪穴住居跡である。Ⅶ層上面で検出したが、後述する遺構埋土の状況、本遺跡のⅥ層上面で確認される遺構の時期等を考えるならば、本来の遺構掘り込み面は、Ⅵ層であったと思われる。

本住居跡の規模は、南北 4.1 m、東西 4.1 m、検出面からの深さ 18cm を測り、北側には確認できる範囲で長さ 4.6 m の溝が取り付けられる。検出面から床面までの埋土は 3 層に分けられるが、主として本来の確認面であったと考えられるⅥ層と類似した黒色土 (①層) が堆積する。この層には焼土、炭化物、炭化材が認められることから焼失住居であったと考えられる。認められる炭化材は 4 ~ 40 cm を測り、木目等から材の主軸がわかるものは、住居の中央方向をむき、垂木等に用いられた建築部材であったと思われる。

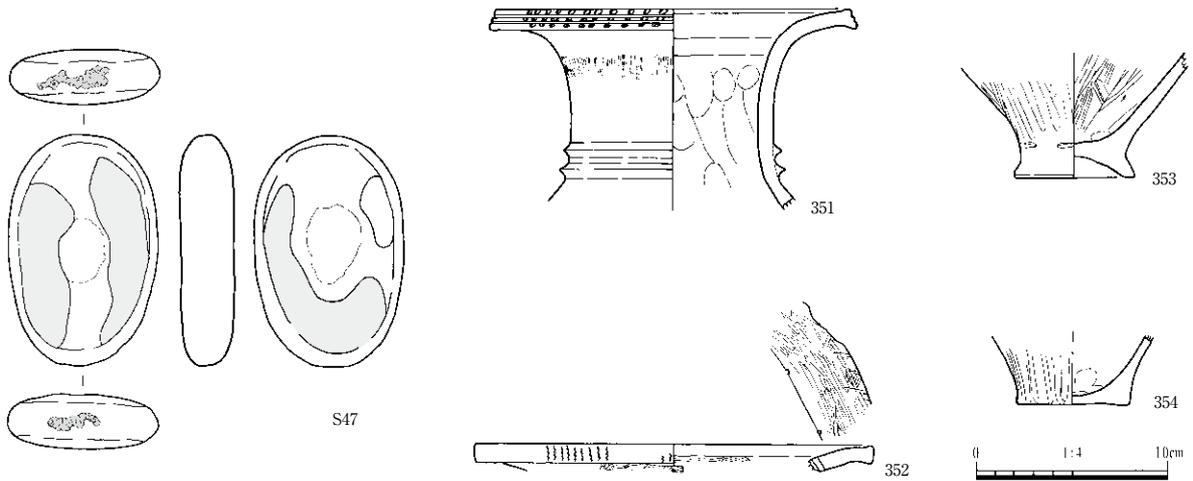
床面には、北側を中心に貼床が施され、周壁溝、柱穴、中央ピットほか、歪な掘り込みが認められる。周壁溝は幅 12 ~ 26cm、最深部で 18cm のものが部分的にめぐる。柱穴は中央ピット (P 1) を挟んで P 2 と 3 が認められることから 2 本柱の建物であったと考えられる。また、この柱穴よりも北西側で



第164図 竪穴住居 3



第165図 竪穴住居3遺物出土状況図

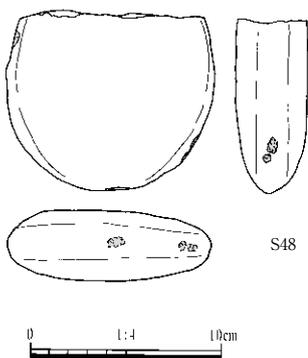


第167図 竪穴住居3出土遺物

は、壁面までの範囲で歪な掘り込みが確認された。調査当初、貼床とも考えられたが、埋土中に炭化物が含まれることから住居焼失時には開いていたと判断される。そして、この掘り込みから住居北側に向かって長さ4.6 mの範囲で、幅約30cmの溝が確認された。この溝が排水等を目的とした溝であった場合、溝底面の比高差から溝はさらに長くないとその用を足さないが、調査区壁面での検出はできなかった。

出土遺物には351～354、S47・48が見られる。352は壺

第166図 竪穴住居3出土遺物



口縁部で、外面に貝殻腹縁による刻み目が入られる。上面には櫛描きで格子文、もしくは鋸歯文が入られるが、その後のミガキ調整により不明瞭である。また、上面から下方に向かう穿孔も2箇所確認される。351も壺口縁から頸部のもので、口縁部には2条の凹線の後、刻みが施される。また頸部には2本の突帯が張付けられる。353、354は甕底部の破片である。

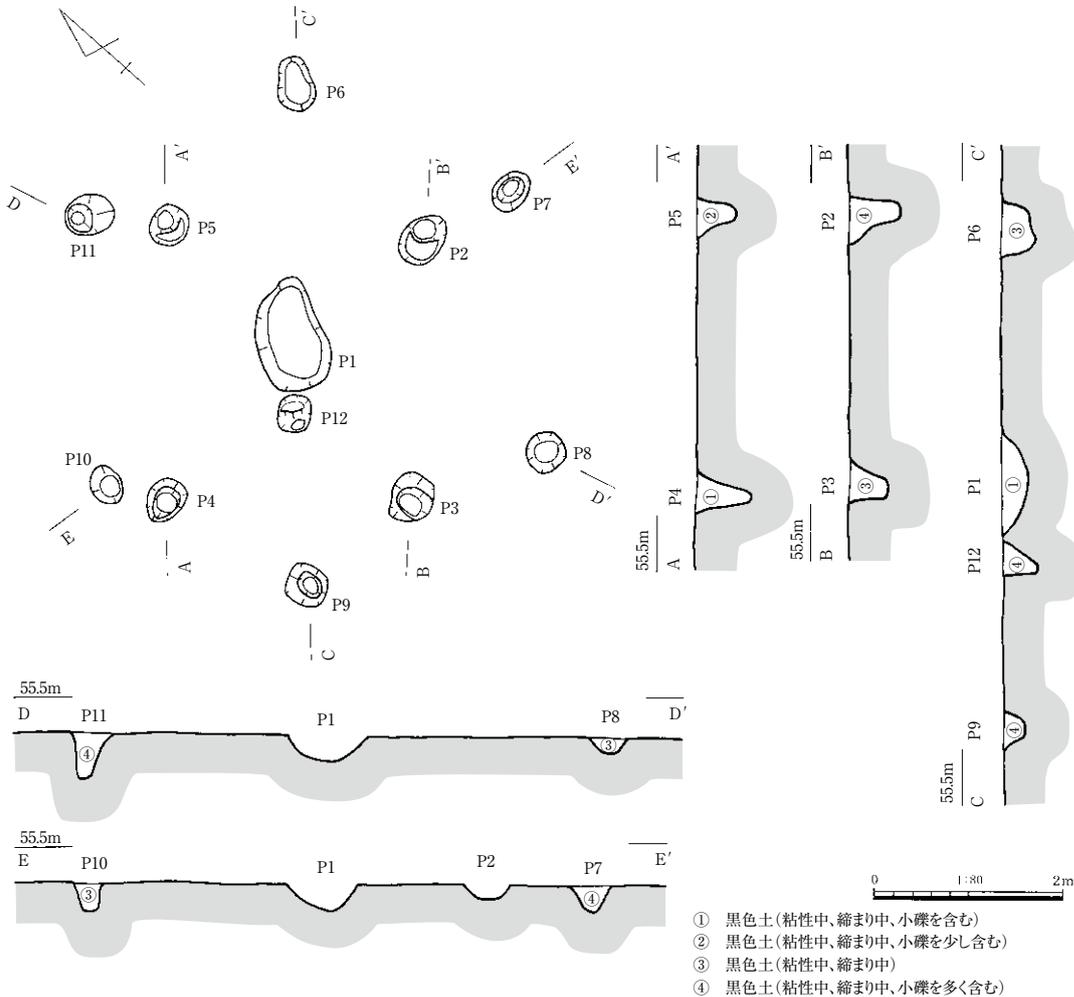
本住居の時期は、出土遺物から弥生時代中期中葉～後葉と考えられる。また、本住居では出土炭化材を放射性炭素年代測定によって分析したが、実年代でおよそ2,200前、紀元前2世紀代の年代が測定される。
(野口)

竪穴住居4 (第167図、図版16)

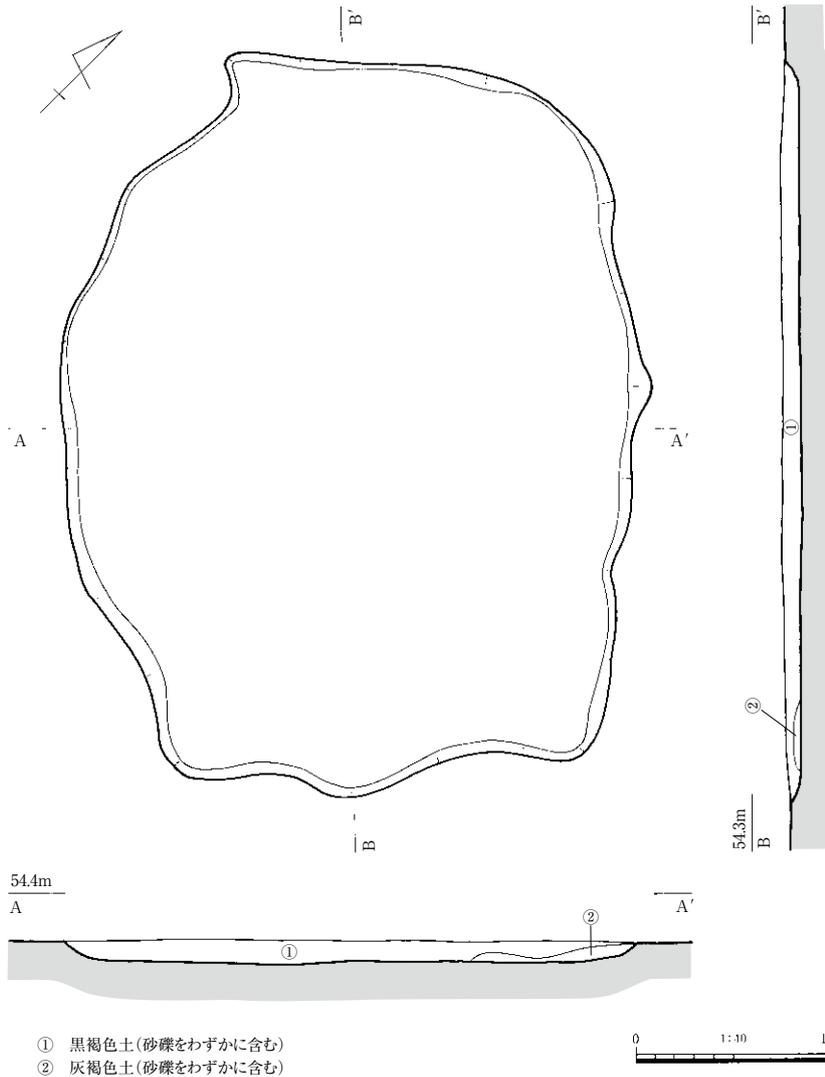
調査区の北東側、D2グリッドに位置する竪穴住居跡である。確認できた段階では、すでに床面よりも低い高さまで掘り下げており、柱穴及び中央ピット、関連する可能性があるピットのみの遺存状況である。

確認された柱穴は、外側を六角形、内側を四角形に配している。中心部には中央ピット、南西側にP11が掘り込まれる。規模は柱間であるが、外側が5.4m、内側が4.6～5.0mを測る。

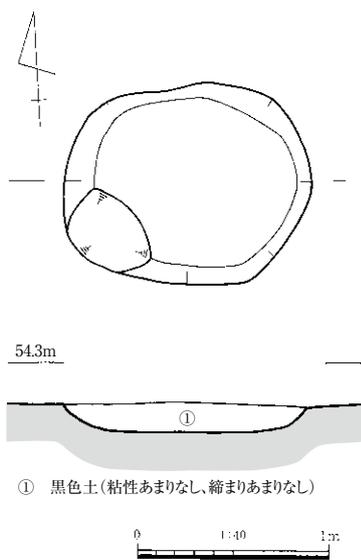
以上のような本住居跡であるが、柱穴内にみられる埋土から、本来はVI層からの掘り込みと考えられる。そのほか検出面に周壁溝等の住居施設が確認されないことから、床面は同調査区で確認される竪穴住居跡と異なり、VI層中に作られていたと判断される。



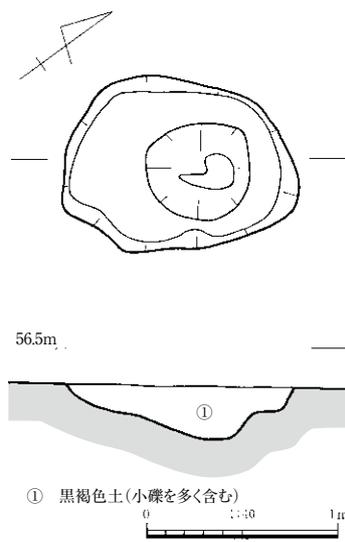
第168図 竪穴住居4



第169図 土坑19



第170図 土坑20



第171図 土坑21

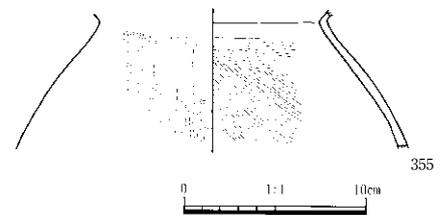
また、拡張もしくは縮小かの判断は付かないが、建替えを行っていると思われる。

本遺構は、前述のとおり床面下まで削平してしまったため出土遺物等は明らかでないが、周辺の遺構から弥生時代中期中葉～後葉のころと思われる。（野口）

土坑19（第168・171図、図版18）

C2グリッドに位置する。平面形は不整で、長軸約3.9m、短軸約3.0m、深さは13cmと浅い。埋土には黒褐色土、灰褐色土が堆積し、いずれも砂礫を含む。Ⅶ層上面で検出したため、検出状況ではたわみ状を呈すが、埋土にⅦ層上層に堆積するⅥ層に由来すると思われる黒褐色土が堆積することから、本来の確認面はⅥ層中、もしくは上面であったと考えられる。

また、同様の遺構は15年度に調査が行われた5区でも3基ほど確認されている（平成15年度報告土坑22・24・25）。うち2基に関しては、埋土に炭化物や焼土などが認められることから、積極的に本遺構との関連を推察することはできない。しかし、土坑24については埋土の色調や砂礫が含まれることなど共通性がみられる。



第172図 土坑19出土遺物

遺物には弥生土器 355 が出土する。肩部の破片で内外面ともハケによる調整を基調とする。

本遺構の時期は、埋土状況等から弥生時代中期中葉～後葉ころと考えられる。(野口)

土坑 20 (第 169 図、図版 18)

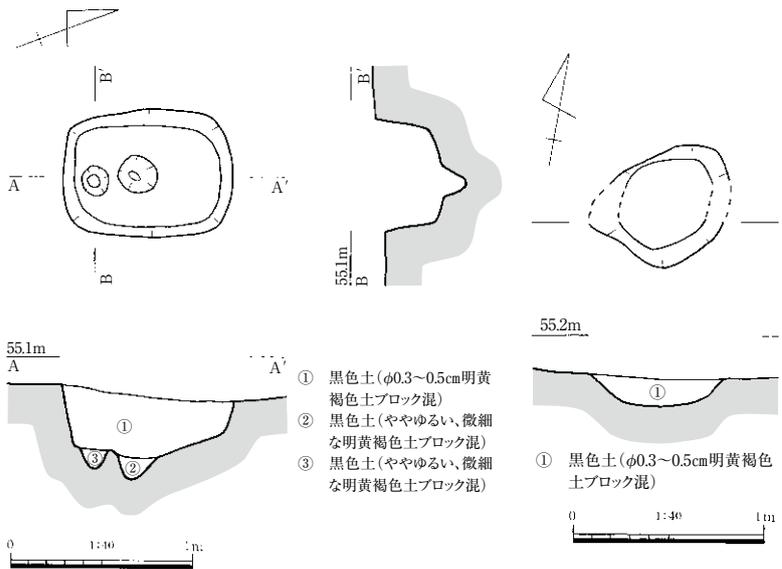
D 2 グリッド北東側に位置する。平面楕円形の土坑で、規模は長軸約 1.3 m、短軸約 1.1 m、深さ 16cm を測る。埋土は小礫を多く含んだ黒色土が堆積する。これは VI 層に由来する土であると考えられることから、本来の遺構確認面は VI 層中、もしくは上面であったと思われる。

本遺構の時期は、埋土の状況から弥生時代中期～古墳時代と考えられる。(野口)

土坑 21 (第 170 図)

G 5 グリッドに位置する、平面やや歪んだ楕円形の土坑である。長軸 1.24 m、短軸 94cm、深さ 28cm を測る。埋土には小礫を含んだ黒褐色土が見られるが、これは確認面直上に堆積する VI 層に由来する土であると考えられることから、本来の遺構確認面は VI 層中もしくは上面であったと思われる。

本遺構の時期は、埋土の状況から弥生時代中期～古墳時代と考えられる。(野口)

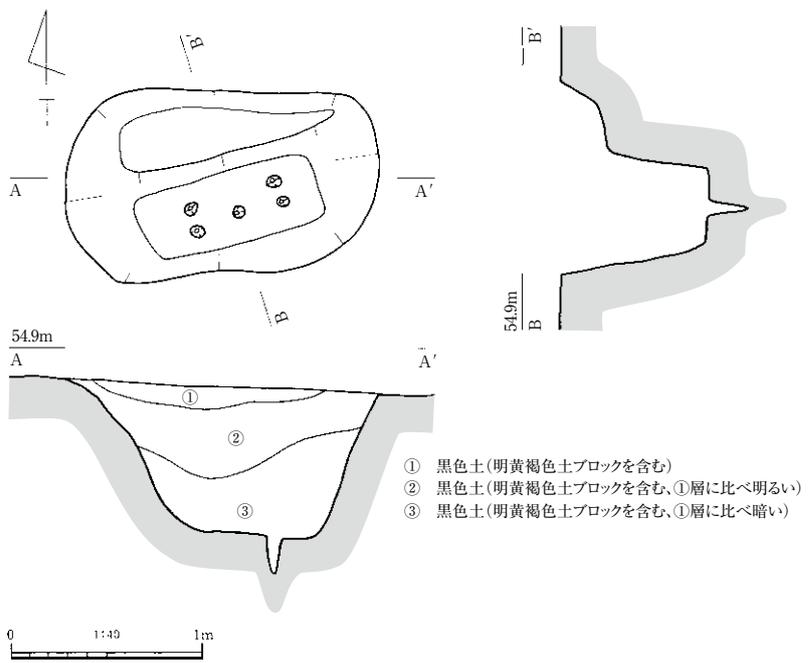


第173図 土坑22

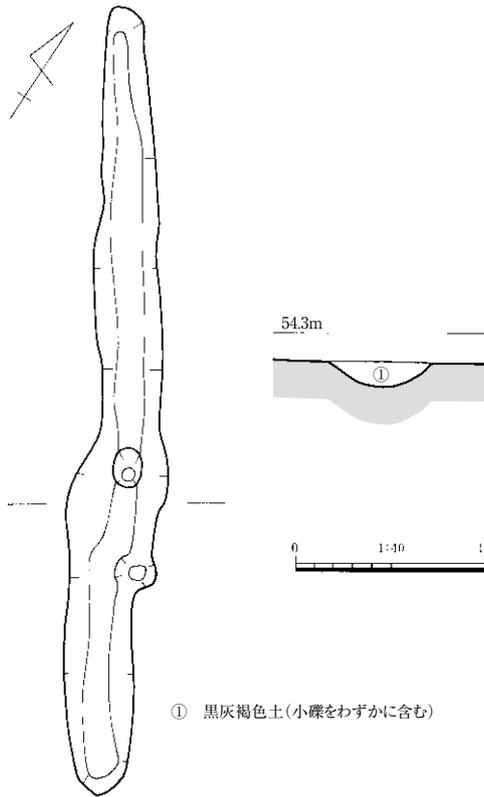
第174図 土坑23

土坑 22 (第 172 図、図版 18)

E 4 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、検出面での規模は長軸 94cm、短軸 70cm、検出面からの深さは 41cm を測る。断面形は逆台形状を呈し、やや中央部が窪む。底面の規模は長軸 81cm、短軸 57cm を測る。埋土は 3 層に分層でき、黒色土を主体となす。底面直上には、小ピットを 2 基検出した。底面中央部に 1 基、南側に 1 基存在する。本遺構の形態から判断し、落とし穴と推察される。遺物は出土していない。(森本)

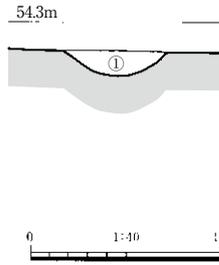


第175図 土坑24



土坑 23 (第 173 図、図版 18)

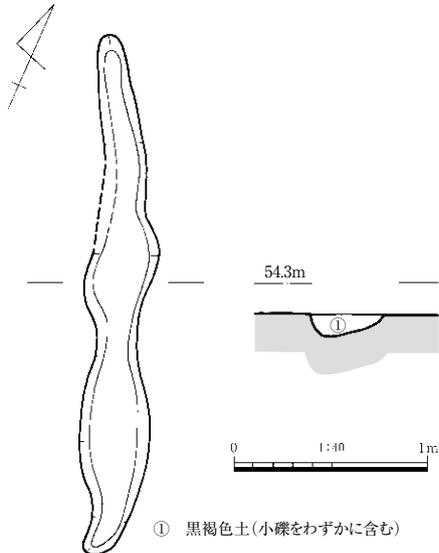
E 4 グリッドに位置する。検出面の平面形は不整な円形を呈す。検出面での規模は長軸 74cm、短軸 58cm、検出面からの深さは 17cm を測る。断面形は皿状を呈し、底面の規模は長軸 46cm、短軸 45cm を測る。埋土は黒色土の単層である。遺物は出土していない。(森本)



土坑 24 (第 174 図、図版 18)

D 4 グリッドに位置する。検出面の平面形は楕円形を呈し、北側には長軸 115cm、最大幅 30cm のテラスをもつ。検出面での規模は長軸 164cm、短軸 99cm、検出面からの深さは 82cm を測る。底面の規模は長軸 93cm、短軸 39cm であり、比較的幅が狭い隅丸長方形を呈す。埋土は 3 層に分層でき、黒色土を主体となす。底面直上には、小ピットを 5 基検出した。直径 8cm、底面からの深さが 9～21cm 程度のもので、底面中央部に 1 基、その中央部の 1 基を中心に東西に 2 基ずつ存在する。本遺構の形態から判断し、落とし穴と推察される。遺物は出土していない。(森本)

第176図 溝41



溝 41 (第 175 図、図版 18)

調査区北側、C 3 グリッドで確認した。N - 30° - W で南東 - 北西方向に走向する。長さ 4.2 m、幅 20～53cm、深さは中央部で 12cm を測る。埋土に黒灰褐色土が堆積することから、本来の遺構確認面は上層の VI 層中、もしくは上面にあったものと思われる。

本遺構の時期は、出土遺物は見られなかったが、埋土等確認される状況から、弥生～古墳時代と考えられる。また、約 1 m 東には後述の溝 42 が存在する。同じ方向に走向し、一連の遺構であった可能性が高い。(野口)

第177図 溝42

溝 42 (第 176 図、図版 18)

C 3 グリッドに位置する、上述の溝 41 の東側に隣接する。南東 - 北西方向に走向し、長さ 2.7 m、幅 20～38cm、深さは中央部で 11cm を測る。遺構底面の標高は両端とも 54.10 m と等しい。前述の溝 41 同様、埋土に黒褐色土が堆積することから、本来の遺構確認面は上層の VI 層中、もしくは上面にあったものと思われ、時期も弥生～古墳時代と考えられる。(野口)

柵4 (第177図)

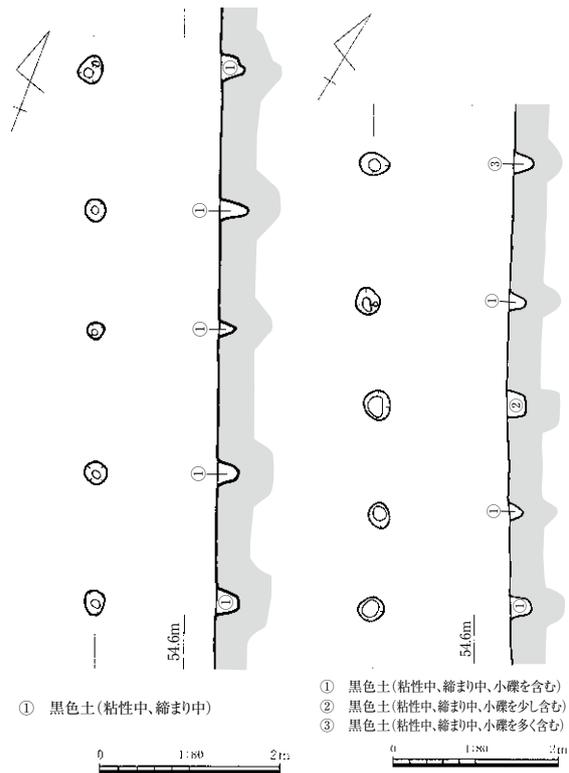
調査区北側、C3グリッドに位置する。北側にさらに展開する可能性があるものの確認された範囲では、N-25°-Wの方向にピット5基が6mほど並ぶ。柱穴間の距離は1.4~1.6mである。

本遺構の時期は、出土遺物は見られなかったが、埋土等確認される状況から、弥生~古墳時代と考えられる。(野口)

柵5 (第178図)

調査区北東側、B2グリッドに位置する。N-30°-Wの方向にピット5基が5.4mほど並ぶ。柱穴間の距離は1.2~1.6mである。

本遺構の時期は、出土遺物は見られなかったが、埋土等確認される状況から、弥生~古墳時代と考えられる。(野口)

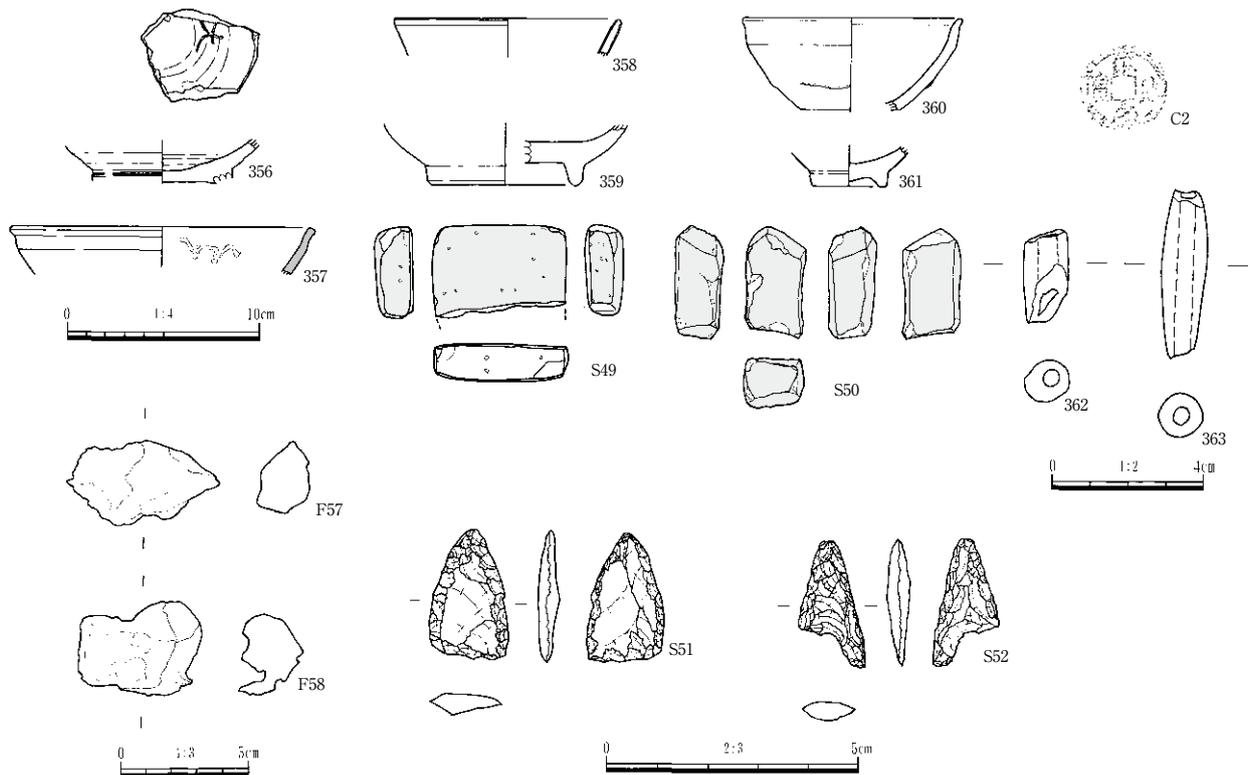


第178図 柵4

第179図 柵5

表土出土遺物 (第179図)

表土中からは弥生時代から近世の遺物が出土するが、356など内面底部に「大」状にヘラ書きされた土師器などもみられる。(野口)



第180図 表土・調査区内出土遺物

表11 第7遺構面ピット一覧表 (計測単位: cm)

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
186	30	24	19	黒色土
187	41	40	18	黒色土
188	34	28	36	黒色土
189	35	34	33	黒色土
190	30	20	13	黒色土
191	32	30	9	黒色土
192	18	16	18	黒色土
193	26	20	10	黒色土
194	30	24	14	黒色土
195	41	33	31	黒色土
196	39	35	28	黒色土
197	31	25	29	黒色土
198	34	23	24	黒色土
199	31	27	31	黒色土
200	33	26	14	黒色土
201	44	41	29	黒色土
202	30	28	26	黒色土
203	27	26	18	黒色土
204	36	34	9	黒色土
205	30	26	29	黒色土
206	34	30	33	黒色土
207	57	41	6	黒色土
208	25	18	16	黒色土
209	32	29	9	黒色土
210	26	22	20	黒色土
211	24	20	9	黒色土
212	28	22	16	黒色土
213	30	24	11	黒色土
214	28	20	9	黒色土
215	26	20	7	黒色土
216	32	30	43	黒色土
217	25	23	18	黒色土
218	30	27	38	黒色土
219	38	30	32	黒色土
220	36	34	21	黒色土
221	30	26	26	黒色土
222	26	22	17	黒色土
223	34	28	26	黒色土
224	34	25	19	黒色土
225	38	27	19	黒色土
226	34	32	27	黒色土
227	30	16	30	黒色土
228	31	23	24	黒色土
229	28	25	23	黒色土
230	42	24	30	黒色土
231	39	24	22	黒色土
232	48	40	38	黒色土
233	19	10	28	黒色土
234	22	17	17	黒色土
235	26	20	16	黒色土
236	23	22	13	黒色土
237	30	20	19	黒色土
238	22	18	15	黒色土
239	16	12	12	黒色土
240	26	20	21	黒色土
241	21	18	24	黒色土
242	26	24	19	黒色土
243	28	17	15	黒色土

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
244	30	11	21	黒色土
245	42	24	25	黒色土
246	37	22	16	黒色土
247	28	26	27	黒色土
248	30	25	22	黒色土
249	32	18	19	黒色土
250	40	33	23	黒色土
251	22	21	19	黒色土
252	42	39	27	黒色土
253	22	18	26	黒色土
254	35	30	26	黒色土
255	38	36	33	黒色土
256	44	29	29	黒色土
257	37	33	31	黒色土
258	25	22	40	黒色土
259	30	27	29	黒色土
260	25	21	16	-
261	27	23	17	-
262	34	24	32	-
263	20	18	16	黒色土
264	20	18	11	黒色土
265	31	15	23	黒色土
266	18	14	13	黒色土
267	34	24	27	黒色土
268	22	20	30	黒色土
269	30	24	21	黒色土
270	16	14	22	黒色土
271	48	25	22	黒色土
272	28	20	17	黒色土
273	30	21	32	黒色土
274	20	17	13	黒色土
275	22	18	22	黒色土
276	30	28	22	黒色土
277	34	28	34	黒色土
278	26	24	21	黒色土
279	34	24	26	黒色土
280	32	26	15	黒色土
281	22	19	17	黒色土
282	20	16	15	黒色土
283	26	20	16	黒色土
284	32	28	13	黒色土
285	45	40	28	黒色土
286	68	60	20	黒色土
287	38	38	21	黒色土
288	46	41	21	黒色土
289	40	33	23	黒色土
290	45	41	19	黒色土
291	35	32	25	黒色土
292	36	30	17	黒色土
293	22	20	18	黒色土
294	25	23	16	黒色土
295	23	22	17	黒色土
296	28	25	19	黒色土
297	29	25	16	黒色土
298	71	43	12	黒色土
299	28	21	16	黒色土
300	34	29	32	黒色土
301	22	19	23	黒色土

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
302	21	19	22	黒色土
303	28	27	33	黒色土
304	26	24	31	黒色土
305	26	24	26	黒色土
306	28	28	27	黒色土
307	25	24	9	黒色土
308	20	18	6	黒色土
309	28	24	20	黒色土
310	30	27	23	黒色土
311	20	17	11	黒色土
312	29	26	17	黒色土
313	21	18	25	黒色土
314	23	20	16	黒色土
315	25	20	18	黒色土
316	25	19	19	黒色土
317	21	19	12	黒色土
318	31	29	18	黒色土
319	30	26	18	黒色土
320	29	26	24	黒色土
321	18	15	15	黒色土
322	20	19	22	黒色土
323	28	20	21	黒色土
324	23	19	15	黒色土
325	20	20	22	黒色土
326	27	25	10	黒色土
327	30	27	11	黒色土
328	35	30	9	黒色土
329	20	18	10	黒色土
330	34	31	25	黒色土
331	40	30	20	黒色土
332	30	26	18	黒色土
333	25	21	13	黒色土
334	24	22	16	黒色土
335	32	27	12	黒色土
336	26	20	14	黒色土
337	29	27	22	黒色土
338	36	23	17	黒色土
339	27	26	18	黒色土
340	41	24	20	黒色土
341	48	21	36	黒色土
342	60	43	26	黒色土
343	60	36	28	黒色土
344	37	30	37	黒色土
345	22	18	19	黒色土
346	18	17	11	黒色土
347	38	30	25	黒色土
348	27	26	16	黒色土
349	36	30	24	黒色土
350	42	34	9	黒色土
351	36	35	23	黒色土
352	26	19	9	黒色土
353	36	25	30	黒色土
355	24	23	21	黒色土
356	24	22	21	黒色土
357	28	24	29	黒色土
358	29	20	19	黒色土
359	28	25	19	黒色土
360	30	24	12	黒色土
361	40	35	28	黒色土

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
362	37	32	15	黒色土
363	32	28	26	黒色土
364	41	33	19	黒色土
365	24	22	15	黒色土
366	33	26	28	黒色土
367	38	33	29	黒色土
368	32	26	20	黒色土
369	34	27	20	黒色土
370	20	18	17	黒色土
371	30	27	25	黒色土
372	28	24	15	黒色土
373	23	28	24	黒色土
374	33	23	21	黒色土
375	31	23	22	黒色土
376	18	17	15	黒色土
377	22	16	14	黒色土
378	30	26	28	黒色土
379	40	20	19	黒色土
380	49	24	19	黒色土
381	24	21	17	黒色土
382	24	20	16	黒色土
383	28	22	17	黒色土
384	27	25	9	黒色土
385	20	19	11	黒色土
386	20	20	13	黒色土
387	30	28	26	黒色土
388	32	30	24	黒色土
389	20	20	16	黒色土
390	37	35	31	黒色土
391	23	22	21	黒色土
392	25	24	22	黒色土
393	25	24	22	黒色土
394	28	22	26	黒色土
395	36	30	22	黒色土
396	27	24	15	黒色土
397	18	15	10	黒色土
398	24	21	23	黒色土
399	21	17	16	黒色土
400	22	20	20	黒色土
401	21	20	19	黒色土
403	26	22	21	黒色土
402	26	24	17	黒色土
404	23	20	19	黒色土
405	57	32	16	黒色土
406	30	27	12	黒色土
407	29	27	28	黒色土
408	26	23	24	黒色土
409	21	19	8	黒色土
410	64	48	13	黒色土
411	27	23	20	黒色土
412	20	19	10	黒色土
413	24	20	12	黒色土
414	26	26	9	黒色土
415	26	23	9	黒色土
416	33	29	18	黒色土
417	18	17	9	黒色土
418	24	21	22	黒色土
419	32	28	26	黒色土
420	26	23	17	黒色土

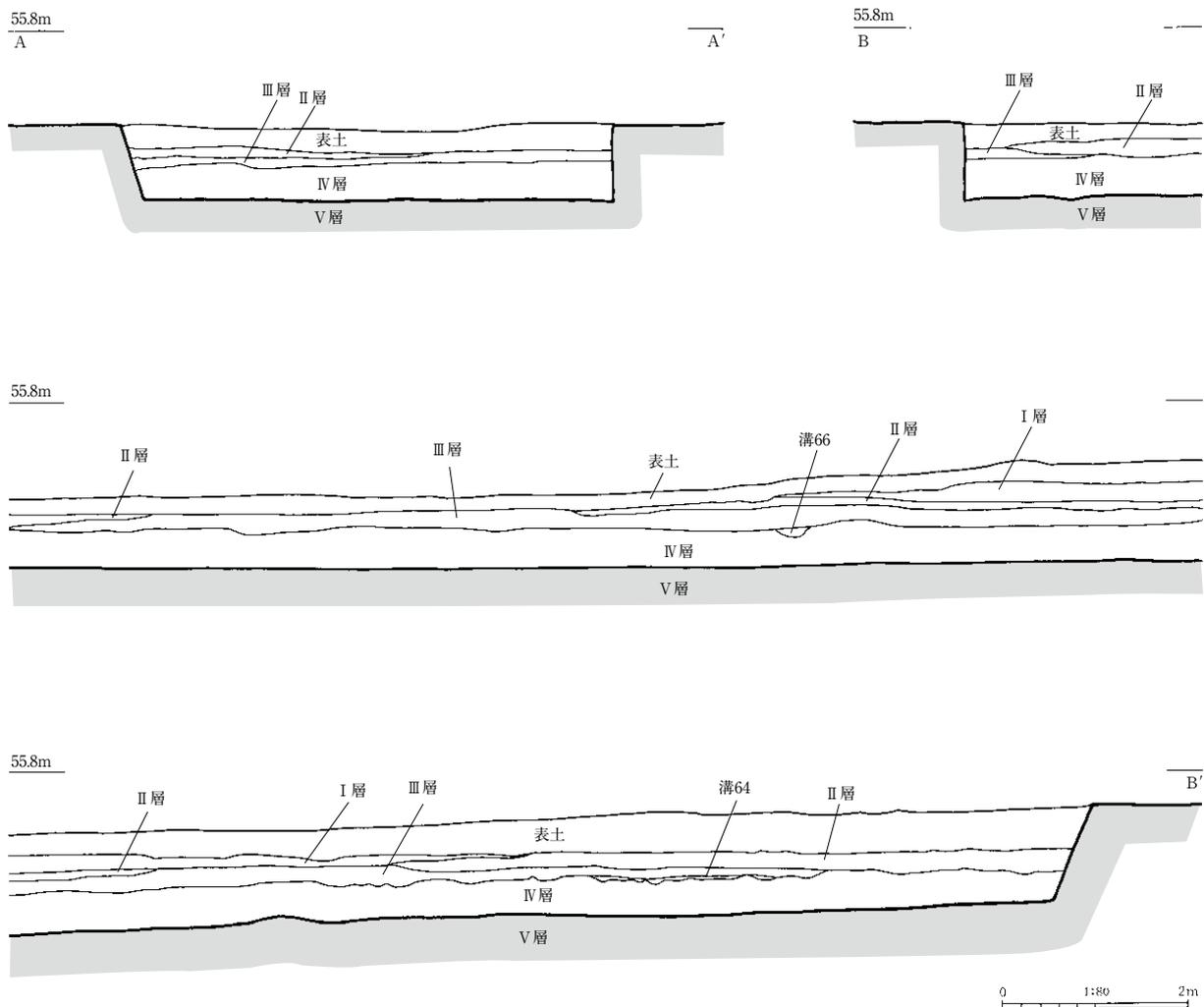
No.	長径	短径	深さ	埋土色調
421	34	28	27	黒色土
422	27	23	19	黒色土
423	19	18	12	黒色土
424	19	18	17	黒色土
425	24	23	14	黒色土
426	26	23	19	黒色土
427	42	33	27	黒色土
428	64	30	25	黒色土
429	21	18	20	黒色土
430	50	36	30	黒色土
431	38	27	26	黒色土
432	34	32	17	黒色土
433	22	21	15	黒色土
434	28	25	25	黒色土
435	36	34	24	黒色土
436	32	30	26	黒色土
437	24	20	16	黒色土
438	31	27	19	黒色土
439	38	33	26	黒色土
440	23	20	13	黒色土
441	39	22	10	黒色土
442	29	22	15	黒色土
443	44	37	16	黒色土
444	26	20	17	黒色土
445	21	18	19	黒色土
446	28	20	21	黒色土
447	42	34	27	黒色土
448	38	20	30	黒色土
449	36	30	23	黒色土
450	40	32	16	黒色土
451	113	50	10	黒色土
452	30	27	23	黒色土
453	36	31	28	黒色土
454	19	15	11	黒色土
455	18	16	15	黒色土
456	18	12	16	黒色土
457	18	16	13	黒色土
458	21	19	16	黒色土
459	59	54	18	黒色土
460	29	23	14	黒色土
461	45	27	28	黒色土
462	20	18	13	黒色土
463	24	18	21	黒色土
464	63	44	18	黒色土
465	28	24	15	黒色土
466	19	21	19	黒色土
467	20	19	13	黒色土
468	24	21	20	黒色土
469	30	25	17	黒色土
470	22	17	12	黒色土
471	25	19	14	黒色土
472	22	18	19	黒色土
473	19	18	17	黒色土
474	26	19	14	黒色土
475	20	19	13	黒色土
476	26	21	12	黒色土
477	20	18	18	黒色土
478	20	17	18	黒色土
479	27	24	10	黒色土

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
480	30	28	19	黒色土
481	27	20	16	黒色土
482	39	30	35	黒色土
483	27	20	22	黒色土
484	27	25	18	黒色土
485	42	30	35	黒色土
486	20	18	11	黒色土
487	38	30	13	黒色土
488	25	22	21	黒色土
489	18	17	14	黒色土
490	30	21	26	黒色土
491	40	36	13	黒色土
492	48	34	13	黒色土
493	22	20	19	黒色土
494	36	34	22	黒色土
495	44	34	16	黒色土
496	45	36	11	黒色土
497	26	26	24	黒色土
498	31	27	18	黒色土
499	23	22	10	黒色土
500	24	22	25	黒色土
501	23	21	9	黒色土
502	103	82	23	黒色土
503	32	23	17	黒色土
504	34	30	19	黒色土
505	29	23	17	黒色土
506	23	21	21	黒色土
507	32	31	32	黒色土
508	20	18	16	黒色土
509	36	32	9	黒色土
510	28	23	35	黒色土
511	46	40	15	黒色土
512	33	30	20	黒色土
513	45	36	21	黒色土
514	31	29	18	黒色土
515	43	35	13	黒色土
516	30	27	29	黒色土
517	71	39	19	黒色土
518	32	29	16	黒色土
519	32	26	25	黒色土
520	30	28	26	黒色土
521	28	26	22	黒色土
522	50	43	22	黒色土
523	38	38	15	黒色土
524	48	41	26	黒色土
525	37	29	22	黒色土

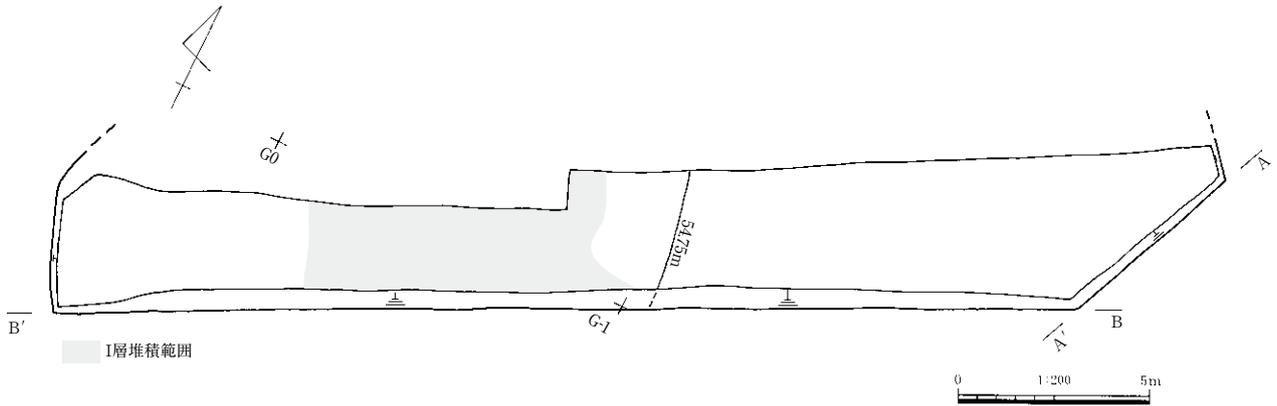
第4章 5区の調査

第1節 調査の概要

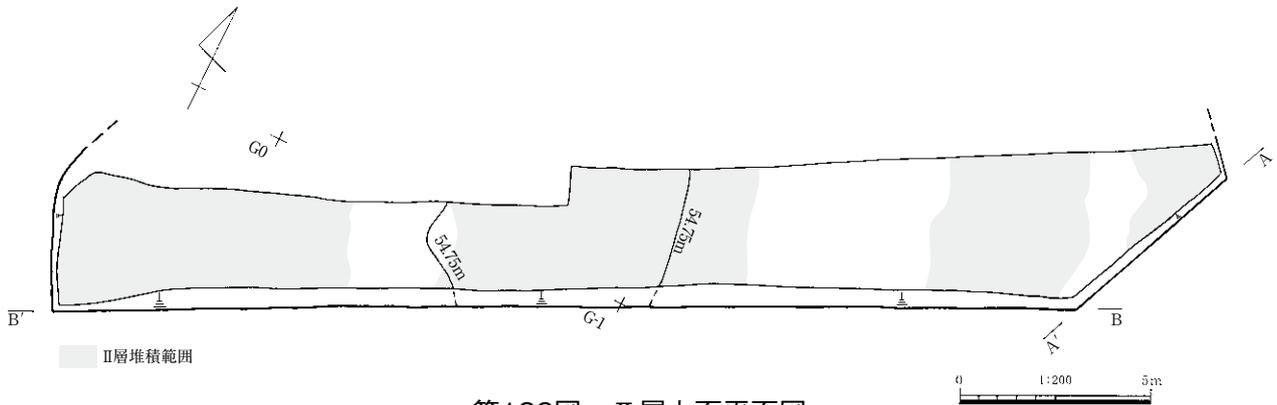
5区は本遺跡内で東側に位置する調査区（第1図）であり、その大半は平成15年度に（財）鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターにより調査が行われている。今回調査の対象とした範囲は、上述の平成15年度調査の際、遺跡周辺に位置する耕地への進入路確保のため、未調査となった5区南側の東西31m、南北4.5mの範囲である。さて本区の調査は前章で既述した4区の調査、ならびに平成15年度の5区調査成果より、複数の遺構確認面が存在することが予想されたことから、平面積139㎡と狭い範囲ではあったが、調査区の南側にトレンチを設定し、土層の堆積状況を確認した（第181図）。これによると確認された土層は5層で、いずれも4区内に堆積する土層と共通する。次節では各土層、検出遺構について詳述するが、あわせて平成15年度調査との対応関係にも触れたい。なお検出された遺構の番号は、平成15年度調査から継続して付した。また、地形は確認される各土層上面の比高差が調査区東西で30cmほどと西から東に向かって緩やかに傾斜した地形である。



第181図 5区土層断面図



第182図 I層上面平面図



第183図 II層上面平面図

第2節 I層の調査

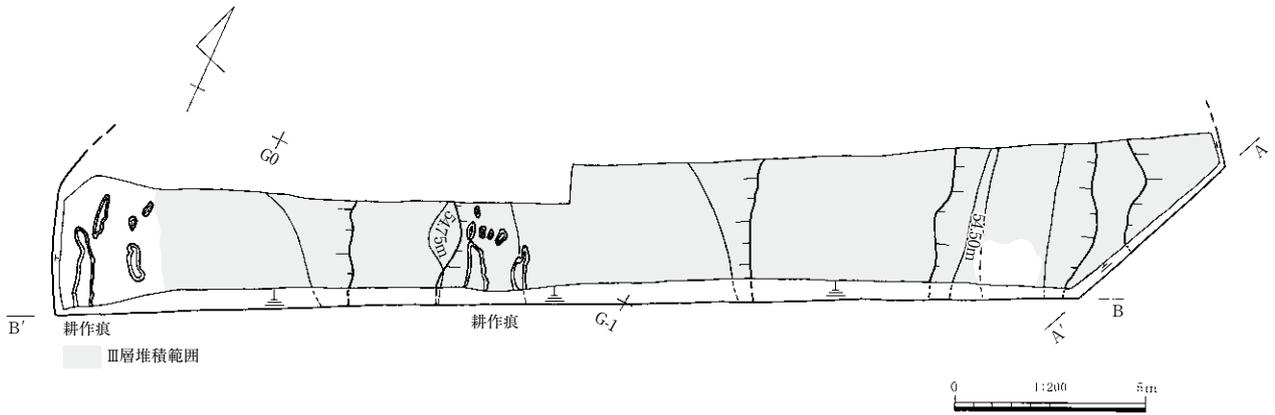
灰赤褐色土。表土除去後、調査区の中央、東西 10.2 m の範囲に厚さ 10 ~ 20cm で薄く堆積する。遺構は検出されなかった。4区調査において第1遺構面としたI層と同一の層であることから、近世耕作土と考えられる。平成15年度調査におけるII層に相当するものと思われる。(野口)

第3節 II層の調査

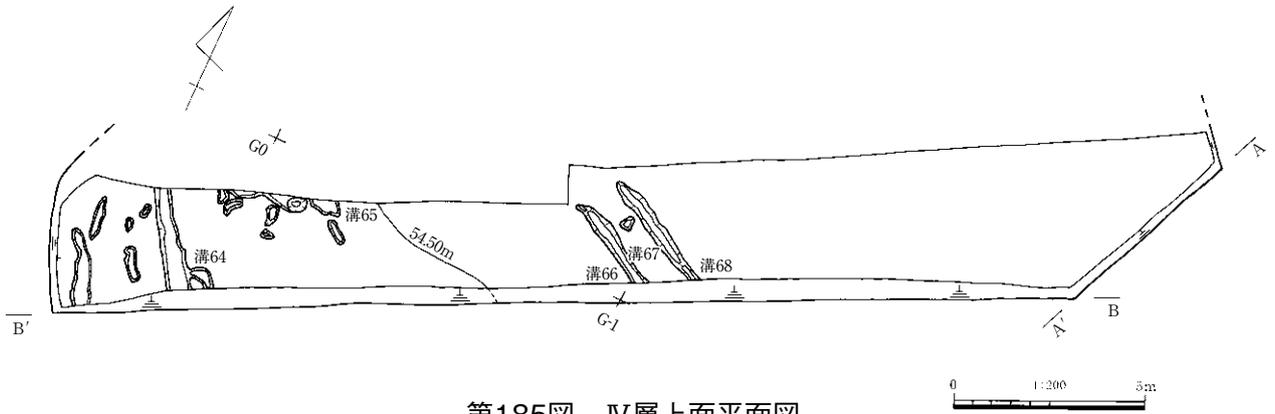
暗褐色土。表土およびI層の直下に位置する土層である。15世紀後半~16世紀ころの364が出土する。4区III層、平成15年度調査III層に対応し、4区においては本土層上面では主に近世耕作痕が、5区においては中世後期から近世の溝や土坑が確認される。本調査においては本土層上面での遺構は確認されなかったが、その堆積は下層に位置するIII層と平面縞状に認められる状況である(第183図)。4区の調査成果によると本土層は中世後半の耕作土と考えられることから、本調査区でのII層の堆積状況は中世後半に耕作が行われた範囲と考えられる。またIII層が縞状に隆起している状況は、調査範囲が限られたことから詳らかにできないが、畦など耕作が及ばなかった範囲の可能性もある。(野口)

第4節 III層の調査

黒色土。第184図は、III層上面の地形測量図ならびに遺構配置図である。調査区西側、及び東側の一部において本土層は堆積せず、下層のIV層が検出される。前述のII層除去後、耕作痕と思われる浅い溝状の遺構が確認された。本土層は4区IV層、平成15年度調査IV層に対応する。(野口)



第184図 III層上面平面図



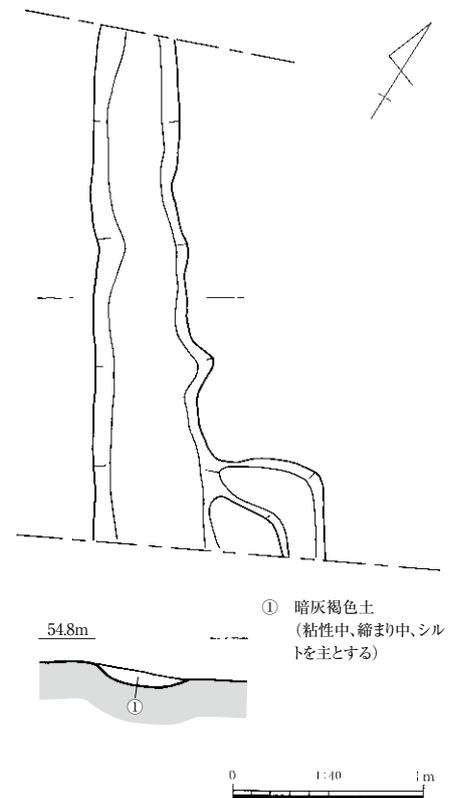
第185図 IV層上面平面図

耕作痕（第184図）

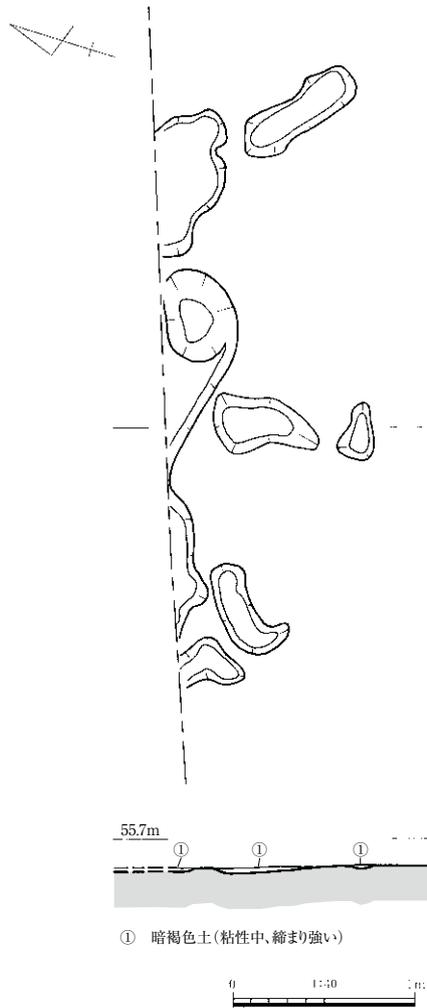
II層除去後、調査区中央と西側で耕作痕が確認された。西側のもはIV層上面を確認面とするが、後述するように調査区中央の耕作痕と埋土や走向など共通することから同時期のものと考えられるため、あわせて報告する。調査区中央と西側で確認された耕作痕は、いずれも検出面からの深さは3～4cmほどで浅い。平面形は溝状、小穴状と一定にしないが、北西から南東方向に伸びる。埋土は耕作痕直上のII層（暗褐色土）が堆積する。

さて、本調査区で確認された耕作痕は、その検出層位や走向、埋土を同じくすることから4区における中世後半の耕作痕と同時期のものと判断されるが、平成15年度調査においては、同種の遺構は確認されていない。しかし、II層除去後に確認され、本地における条里との関係が考えられた溝状遺構が、遺構の深さや走向など本遺構と近く、耕作痕であった可能性が高い。

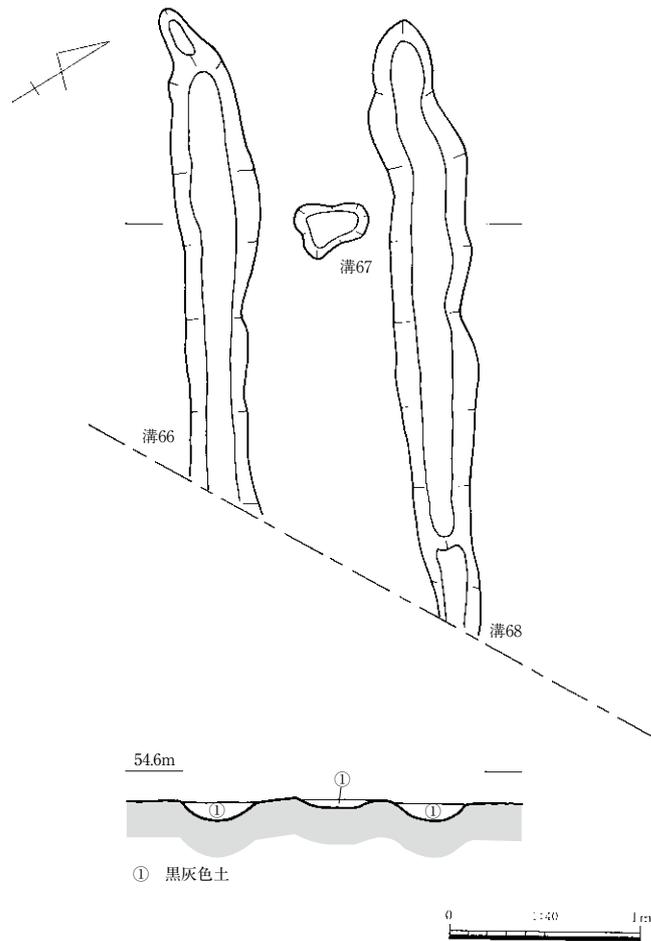
（野口）



第186図 溝64



第187図 溝65



第188図 溝66～68

第5節 IV層の調査

黒色土。4区VI層、平成15年度調査VI層にほぼ対応すると思われる。4区の調査においては本層上面から弥生から古墳時代の遺構が確認される。本地層に伴う遺構には溝状遺構が確認された。

(野口)

溝64 (第186図)

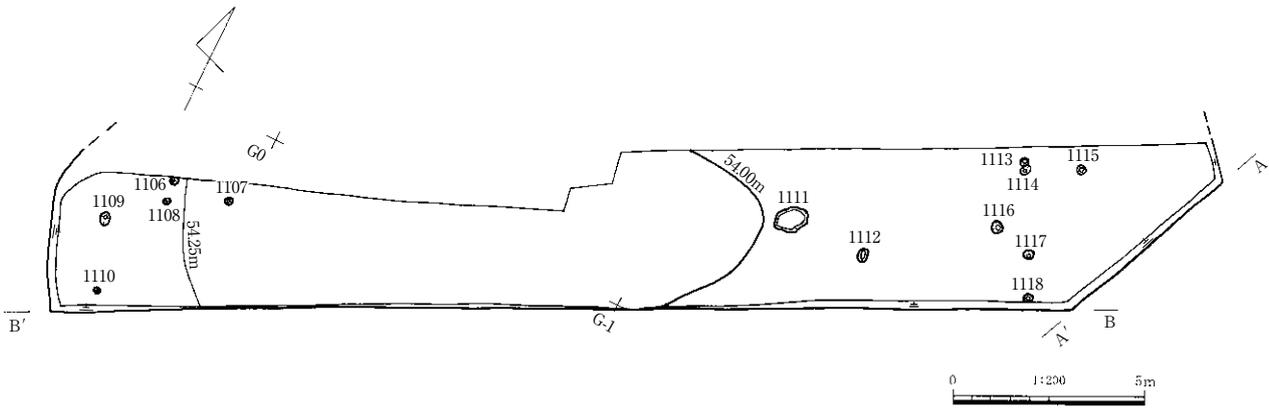
G0グリッドの北西側に位置する。検出された範囲では長さは約2.8m、幅40～66cmを測る。北西から南東方向にほぼ直線的に伸び、南側で「h」字状を呈する。検出面からの深さは北側が6cm、南側は4cmと北側に向かい深くなり、南側で「h」字状に接続する東側部分は検出面からの深さが3cmと非常に浅い。南北ともに調査区外へ伸びるが、溝64に続く溝は平成16年度の調査では検出されていない。

(小川)

溝65 (第187図)

溝64の東側に位置し、平面形は歪つである。いずれの埋土にも砂礫、シルトが混じることから溝の残骸と判断した。これらは一部10cmを測るところもあるが、大半が深さ約2cmと浅い。

(小川)

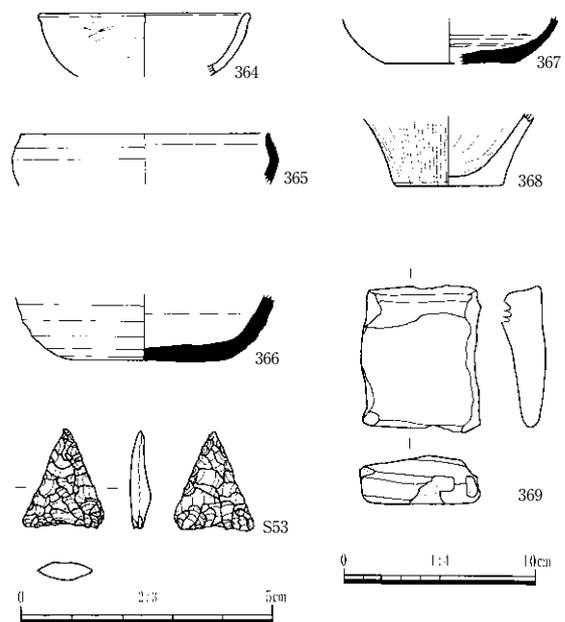


第189図 V層上面平面図

溝 66～68 (第 188 図)

F-2グリッド南東部に位置する。溝 67 の平面形は溝状を呈さないが、溝 66、溝 68 に挟まれ、埋土を同じくすることから、明確な関連性は不明であるがあわせて報告する。溝 66、溝 68 の 2 条はほぼ平行に並び北西から南東方向に伸びる。溝 66 は長さ 2.7 m、溝 68 は長さ 3.3m を測り、南側は調査区外へ伸びる。共に幅 40cm、深さ約 10cm とほぼ同じである。埋土はいずれも黒灰褐色土が堆積する。溝 67 は長さ 20cm、幅 38cm、深さ 4 cm を測る。出土遺物には溝 66 から奈良時代の須恵器坏 367 が出土している。

(小川)



第190図 5区出土遺物

第6節 V層の調査

明褐色土。漸移層である。本遺構面では調査区西側と東側でピットを 13 基検出した。(第 189 図、表 12) 多くは F-1 グリッドより東側に点在する。これらのピットは埋土が黒色土であることから、本来の確認面は IV 層中、もしくは IV 層上面であったと考えられる。

(小川)

表12 5区ピット一覧表 (計測単位: cm)

No.	長径	短径	深さ	埋土色調
1106	20	19	11	黒色土
1107	20	19	17	黒色土
1108	20	20	11	黒色土
1109	36	27	20	黒色土
1110	20	20	9	黒色土
1111	33	23	8	黒色土
1112	87	60	10	黒色土
1113	24	18	6	黒色土
1114	30	18	29	黒色土
1115	23	21	27	黒色土
1116	30	28	23	黒色土
1117	28	22	23	黒色土
1118	22	18	14	黒色土

第5章 自然科学分析の成果

第1節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

鳥取県大山町・茶畑六反田遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。目的は同遺跡4区において確認された竪穴住居2棟（竪穴住居2・3）および土坑3基（SK12・13・14）の年代を明らかにすることである。

試料の調整は山形、瀬谷、Lomtadze、Jorjoliani が、測定は小林、丹生、伊藤が行い、報告文は伊藤、中村が作成した。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表13のとおりである。試料No1～5（PLD-6785～6789）は全て住居址または土坑から出土した炭化材である。炭化材の部位は全て最外年輪以外の部位であるが、それ以上細かい部位は特定できていない。

試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表13 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6785	位置：4区 遺構：竪穴住居3 試料No.1	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-6786	位置：4区 遺構：竪穴住居2 試料No.2	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-6787	位置：4区 遺構：SK12 試料No.3	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-6788	位置：4区 遺構：SK13 試料No.4	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-6789	位置：4区 遺構：SK14 試料No.5	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo : NEC製コンパクトAMS・1.5SDH

3. 結果

表14に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図191に暦年較正結果

をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表14 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
PLD-6785	-25.62 \pm 0.23	2130 \pm 20	200BC (46.0%) 150BC 140BC (22.2%) 110BC	350BC (4.9%) 320BC 210BC (90.5%) 50BC	2128 \pm 22
PLD-6786	-26.32 \pm 0.24	2175 \pm 25	350BC (45.7%) 290BC 230BC (2.7%) 220BC 210BC (19.7%) 180BC	360BC (54.7%) 270BC 260BC (40.7%) 160BC	2173 \pm 23
PLD-6787	-26.24 \pm 0.25	2140 \pm 20	340BC (2.9%) 330BC 210BC (51.8%) 150BC 140BC (13.5%) 110BC	350BC (13.4%) 300BC 210BC (82.0%) 90BC	2138 \pm 22
PLD-6788	-28.11 \pm 0.24	2180 \pm 20	360BC (51.4%) 290BC 230BC (16.8%) 190BC	360BC (58.1%) 270BC 260BC (37.3%) 170BC	2181 \pm 22
PLD-6789	-26.72 \pm 0.23	2110 \pm 25	175BC (68.2%) 90BC	200BC (95.4%) 50BC	2108 \pm 23

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

2σ 暦年代範囲 (95.4%の確率で年代がこの範囲に収まることを意味する) に注目して暦年代範囲を整理すると、次のとおりである。竪穴住居3から検出された試料No.1 (PLD-6785、炭化材) の年

代範囲は、350calBC-320calBC (4.9%) および 210calBC-50calBC (90.5%) であり、弥生時代に相当する。竪穴住居2から検出された試料 No.2 (PLD-6786、炭化材) の年代範囲は、360calBC-270calBC (54.7%) および 260calBC-160calBC (40.7%) であり、弥生時代に相当する。SK12 (土坑) から検出された試料 No.3 (PLD-6787、炭化材) の年代範囲は、350calBC-300calBC (13.4%) および 210calBC-90calBC (82.0%) であり、弥生時代に相当する。SK13 (土坑) から検出された試料 No.4 (PLD-6788、炭化材) の年代範囲は、360calBC-270calBC (58.1%) および 260calBC-170calBC (37.3%) であり、弥生時代に相当する。SK14 (土坑) から検出された試料 No.5 (PLD-6789、炭化材) の年代範囲は、200calBC-50calBC (95.4%) であり、弥生時代に相当する。¹⁴C年代の 2150 ~ 2250yrBP に相当する範囲において暦年較正曲線が比較的平坦になっているため、試料 No.1 ~ 4 (PLD-6785 ~ 6788) は暦年較正を行うと年代範囲が幅広くなった。

なお、これらの試料は全て木材の最外年輪以外の部位であるため、木材の枯死・伐採年よりも古い年を示していることを考慮する必要がある。

参考文献

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, *Radiocarbon*, 37, 425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43, 355-363.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代, 3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

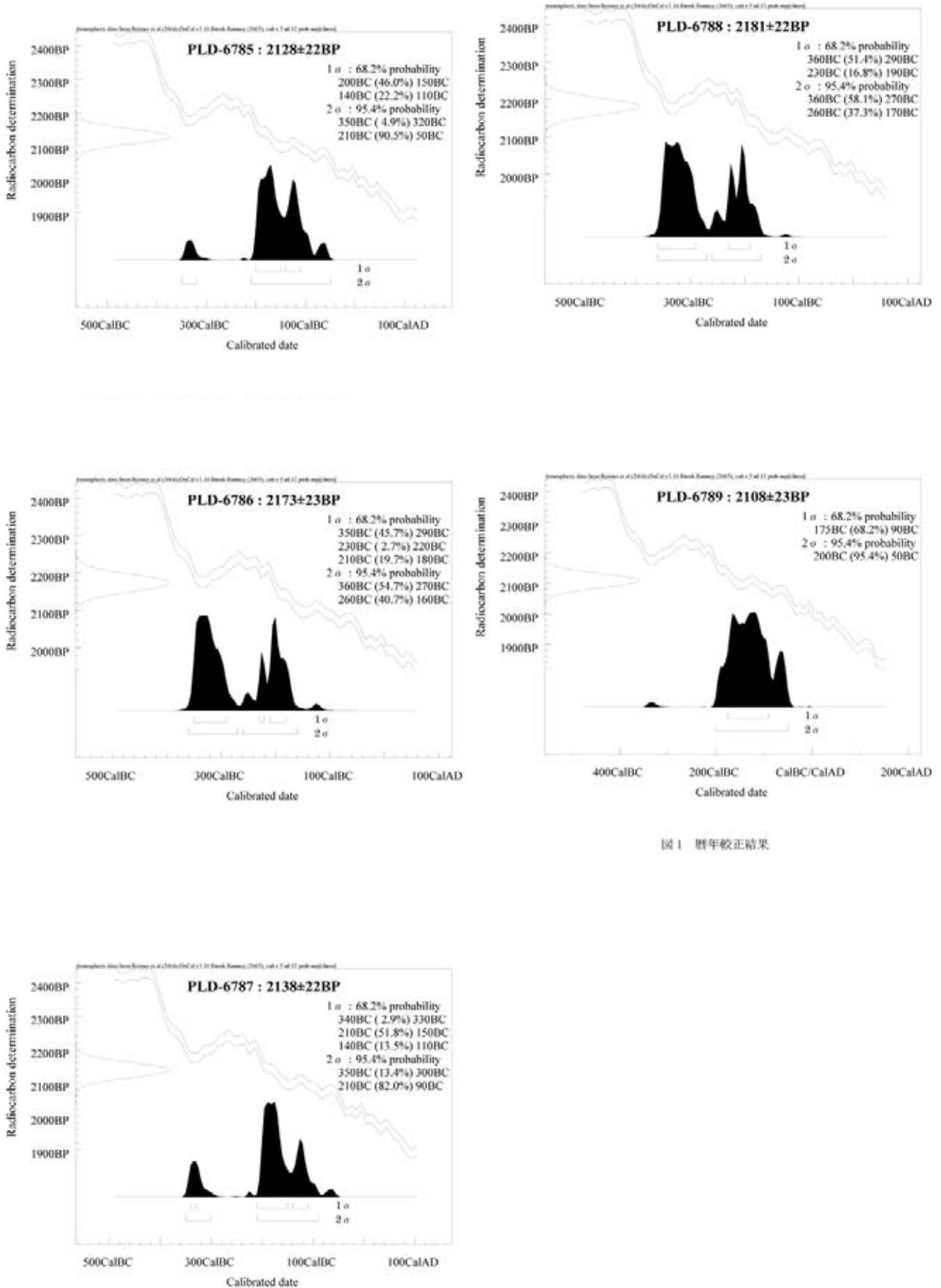


図 1 暦年校正結果

第191図 暦年校正の結果

第2節 茶畑六反田遺跡4区竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1. はじめに

ここでは4区から出土した弥生時代の竪穴住居2・3から出土した建築材8試料の樹種同定結果を報告する。なお、竪穴住居3の樹種試料4（年代測定試料1と対応）と、竪穴住居2の樹種試料8（年代測定試料2と対応）は、放射性炭素年代測定が実施されている（別報参照）。

2. 試料と方法

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-5900LV型）で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定結果を表15に示した。

竪穴住居3の5試料からは、クリ(3試料)・クヌギ節(2試料)・トネリコ属(1試料)が検出された。試料3は、丸木破片のトネリコ属の材にクヌギ節が重なっていた。垂木と推定された炭化材からは、クヌギ節・トネリコ属・クリが検出された。クヌギ節の炭化材の年輪幅は1.5mm前後と狭いが、クリの年輪幅は2～10mmで5mm前後と広がった。

竪穴住居2の3試料からは、アカガシ亜属(2試料)とサクラ属(1試料)が検出された。垂木と推定された炭化材からはアカガシ亜属とサクラ属が検出され、梁もしくは小舞と推定される炭化材はアカガシ亜属であった。

表15 茶畑六反田遺跡4区樹種同定結果一覧

樹種試料	地区	遺構	樹種	備考
試料1	4区	竪穴住居3	クリ	
試料2	4区	竪穴住居3	クヌギ節	垂木?
試料3	4区	竪穴住居3	トネリコ属 クヌギ節	垂木? 丸木破片のトネリコ属にクヌギ節が重なっていた。
試料4	4区	竪穴住居3	クリ	
試料5	4区	竪穴住居3	クリ	垂木?
試料6	4区	竪穴住居2	サクラ属	垂木?
試料7	4区	竪穴住居2	アカガシ亜属	垂木?
試料8	4区	竪穴住居2	アカガシ亜属	梁もしくは小舞か?

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版1 1a-1c (試料7)

細胞幅の広い集合放射組織を挟み小型～中型の単独管孔が放射方向に配列する放射孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、単列と集合放射組織があり、道管との壁孔は孔口が大きな柵状や交互状である。

アカガシ亜属は常緑性のカシ類で、おもに暖温帯に分布する。山野に普通なアラカシ・アカガシ・シラカシ、イチイガシなどが属する。

(2) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版1 2a-2c (試料2)

年輪の始めに大型の管孔が1～3層配列し、その後は小型で厚壁の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材である。接線断面と放射断面は、アカガシ亜属と同様である。

クヌギ節は落葉性のナラ類で、クヌギとアベマキが属する。

(3) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版1 3a-3c (試料1)

年輪の始めに大型の管孔が配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きな柵状や交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

(4) サクラ属 *Prunus* バラ科 図版2 4a-4c (試料6)

小型の管孔が放射状・接線状・斜状に複合し、多数が分布する散孔材である。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単穿孔、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、主に5細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の山地に生育し、ヤマザクラ・マメザクラなど多くの種がある。

(5) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版2 5a-5c (試料3)

中型の管孔が2～3層配列し、孔圏外は単独または2個複合した小型で厚壁の管孔が分布する環孔材である。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、1～2細胞幅である。

トネリコ属はおもに温帯に生育する落葉高木で、シオジ・ヤチダモ・トネリコ・アオダモなど約9種ある。

4. 考察

弥生時代の竪穴住居2・3から出土した炭化材8試料からは、アカガシ亜属・クヌギ節・クリ・サクラ属・トネリコ属の広葉樹5分類群が検出された。複数種類の広葉樹材を建築材に利用していた事が判った。検出された分類群は、丈夫で硬く耐久性もある材で、建築材として有用な樹種が選択されていたといえる。

竪穴住居3の5試料からはクヌギ節・クリ・トネリコ属が、竪穴住居2の3試料からはアカガシ亜属とサクラ属が検出され、2件に共通して検出された樹種は無かった。調査試料数が少ないので断定はできないが、住居跡により使用樹種の構成が異なり、建築材の樹種選択性は広がった可能性が推測される。

第6章 まとめ

前章までに触れたとおり、茶畑六反田遺跡4区における調査では、7面に及ぶ遺構検出面が確認され、縄文時代から近世までの幅広い時期の遺構を確認するに至った。なお茶畑六反田遺跡では、平成12・13年度、15年度に調査された0～3・5区でも同様の時期の遺構が確認されている。本章では、4区での成果、これまでの0～3・5区の成果を合わせ検討し、改めて茶畑六反田遺跡のまとめを行いたい。(野口)

<縄文時代>

4区調査では、縄文時代と考えられる遺構に、土坑22、24などの落とし穴が確認された。落とし穴が確認された最終遺構面では、ピットを多数確認したが、縄文時代の遺物はⅥ層中出土の縁帯文土器349、1点のみであり、当該期に帰属するものは少ないと思われる。遺跡全体でみた場合、西端にあたる0区で前期、後晩期の土坑やピット200基以上が確認されたほか、遺跡中央の3区で落とし穴が見ついているが、住居跡などの遺構は確認されていない。このことから縄文時代の本遺跡は狩猟場として利用されていたと考えられる。(野口)

<弥生時代>

今回の4区調査では、中期中葉～後葉ころと思われる竪穴住居2棟、廃棄土坑4基などの遺構群が検出された。これまでの調査でも中期中葉～後葉ころは本遺跡の中心的な時期であったことは確認されており、5区を中心に竪穴住居、掘立柱建物、土坑などが多く認められている(註1)。また、本遺跡周辺に目を向けた場合も、本遺跡北側に位置する茶畑山道遺跡や蛇の川を隔てた東側に位置する茶畑第1遺跡など、弥生時代中期、本遺跡周辺は広い範囲で集落が営まれたようである。また、本遺跡西側に隣接する押平弘法堂遺跡では当該期の土坑墓が確認されていることなど、集落域と墓域といった関係が想定されていることも注目される。

さて、4区調査で確認された当期の竪穴住居2棟は焼失住居であった。出土炭化材を樹種同定分析したところ、竪穴住居2でサクラ属、アカガシ亜属、竪穴住居3でクリ、クヌギ節、トネリコ属の材が住居建築部材として利用されていたことが明らかとなった。5区調査においても当期の竪穴住居出土の炭化材樹種同定分析が行われており、アカガシ亜属、ツバキ属、モミ属、ヤマグワなどの材の利用が確認されており、建築部材として利用される材は広い範囲で選択がされていたようである。大山周辺地域では、東麓地域で弥生～古墳時代、クリやスダジイが多く利用されていたことは指摘されているが、残念ながら本遺跡が立地する北麓地域での調査例は少ない。茶畑六反田遺跡でみた建築部材への広範な材の利用が、時期的なもの起因するか、地域的なものに起因するかは明らかでないが、今後の当地域での調査例の増加が期待される。

また、上述の竪穴住居2棟のほか、廃棄土坑3基からも炭化材が出土しており、5点の試料で年代測定分析を行った。近年、弥生時代の実年代比定は見直されており、弥生時代中期の年代比定もこれに漏れない。本遺跡で分析を行った遺構は中期中葉～後葉ころ、土器型式でⅣ-1前後のものであり、いずれの試料においても紀元前2～3世紀代の狭い範囲に集中する結果を得た。今後の年代比定に重

要な資料となると思われる。

(野口)

<古墳時代>

これまでの茶畑六反田遺跡の調査では、当該期の遺構は5区で確認された溝1条のみであった。4区調査においても検出された遺構は竪穴住居1棟のみと確認される遺構は希薄であるが、竪穴住居が確認されたことにより、これまで検出層位から弥生時代と判断されていた遺構の中には当期に帰属する可能性もでてきた。また、当期の集落跡は蛇の川東岸を中心に確認されているが、今回竪穴住居が確認されたことにより、西岸にも広がっていた可能性もでてきた。

(野口)

<平安時代>

・本地における条里制の施工について

これまでの調査では、1～3・5区で東西、南北方向の溝が確認され、条里制との関係が考えられている。ただし1～3区で確認された溝は、およそ55mごとに南北方向の溝が東西に検出されるなど、109～110mの坪を東西に二分した半折型がみられるのに対し、5区で確認された溝は、それぞれの間隔が約5.5mや11mなど小区画の溝である。さらに5区条里溝は東西・南北方向は向かず、それぞれ北と西に振るため、1～3区の溝と連続するものではない。

以上のことから、平安時代遺構面の調査では条里制に係る遺構の存在が予想されたが、本調査では条里制との関連を推察する遺構は確認されなかった。

半折型の条里溝においては、3区から4区間に現在も耕作に伴う段差がみられるなど、両区界で地形がやや急に下る地形であるため、条里制の施工が4区側まで及んだかは明らかでない。このため4区調査成果では、半折型条里溝についてその是非を判断できないが、1～3区の西側に位置する0区の調査では、大きなもので東西6m、南北4m程度の小区画水田が等高線に沿って棚田状に作られており、条里制を窺わせる痕跡は認められない。

確認された半折型条里溝については、出土遺物から10世紀前半代の埋没が考えられているようだが、出土遺物には11世紀代に下るとと思われる土師器坏がみられる。半折型や長地型は10世紀以降に形成が進んだ可能性の指摘もあることから、半折型条里溝が存在した場合、11世紀代まで下る可能性が高い。

また5区条里制の溝については、確認される遺構面は4区第4遺構面に相当するが当期の溝は確認されたが、5区条里制溝と連続するものではなかった。

このように4区調査では、積極的に条里制との関連を推し量る遺構は確認できない状況であったが、改めて5区条里溝とされるものを検討すると、東西・南北方向からそれぞれ北と西に振るなど、4区中世耕作痕とその主軸を一致させる。また遺構の大きさ、深さも、4区耕作痕と5区条里溝で同規模であることや、溝埋土類似するなど、中世耕作痕であった可能性が高い。そして、このことは今回調査した5区南側の調査区においてもⅢ層下で耕作痕が確認されたことからその蓋然性を高める。

なお、上記の本地における条里制との関連では、0区において平安時代の小区画の水田跡が確認されているが、小区画の不整形であり、条里制との関連を窺うことはできない。

(野口)



第192図 4区IV層除去後検出ピット平面図

・古代の耕作痕

4区D4～E5グリッド周辺では、9世紀後半の耕作痕34条がみつまっている。これらの耕作痕は概ねEグリッドラインを境に、主軸の違いにより大きくA、Bの2つのグループに分類できる。AはD4・5グリッドを中心に位置する一群で、東西方向を主軸とする。BはE4グリッドを中心とし、北東-南西方向を主軸とする。A・Bは同一時期の遺構群と考えられることから、主軸の違いは耕作区画に起因している可能性もあり、その場合概ね10.0×8.5mの区画が想定できる。遺跡西端0区において検出した平安期の水田跡は概ね6.0×5.0mであり、耕作痕の区画の方がやや広い。従来の調査成果により遺跡の西側に水田域が広がることが指摘されていたが、今年度調査の結果、平安期の耕作域は東側にも広がることを確認できた。(森本)

・平安期の掘立柱建物群の検討

9世紀後半以降には4区D4～E5グリッドの畠地が廃絶し、掘立柱建物群が造営される。掘立柱建物群は遺構検出面が異なるものの、いずれも4区C4～E5グリッド周辺に集中する。従来の調査では、当該期の掘立柱建物は検出されておらず、居住域が確認できたことは大きな成果となった。

建物群は検出した遺構面の違いにより変遷がおえ、掘立柱建物5(V層上面検出)→掘立柱建物3・4(整地層上面検出)→掘立柱建物2(IV層上面検出)の順に造営される。掘立柱建物5は古代耕作痕を破壊していることから、9世紀後半以降に造営されたと考えられ、出土遺物とも矛盾しない。掘立柱建物5と同一遺構面において検出した柵2の廃絶時期が10世紀後半であることから、V層上面検出建物の時期は、9世紀後半から10世紀後半までにおさまると推定している。整地層上面検出の建物は出土遺物より、10世紀後半以降の造営と考えられる。IV層上面において検出した掘立柱建物2は整地層上面検出の建物群の年代から、11世紀以降の造営と考えたい。

掘立柱建物5はV層上面において検出した桁行4間以上、梁行2間の東西棟である。柱間寸法はややばらつきがあり、7～9尺を測る。平面積は推定ながら45.6㎡である。建物中央部に検出したP11は側柱の柱掘りかたと平面規模が近似し、梁側の筋が通ることから本遺構に伴う可能性が高いと思われる。間仕切りなどの可能性が考えられるが、土層断面に柱痕跡は認められず、機能については限定できない。

掘立柱建物4は建物北東側では整地層上面において検出したものの、南東側には整地層は堆積しない。桁行4間以上、梁行は1間以上の東西棟であり、桁行の柱間寸法が約8尺と広い。平面積は推定56.0㎡である。南側桁筋から南に約2.2mには、V層上面検出の柵3が位置する。両遺構は柱掘りかたの規模・柱間寸法が異なるが、ほぼ並行する。このことから柵3は掘立柱建物4に伴う廂あるいは柵となり、建物の格式が高められていた可能性も考えられる。

掘立柱建物3は桁行1間以上、梁行2間の南北棟である。遺構は調査区外に伸びるため平面プランは不明だが、柱掘りかたの規模が約1mであることから、大型建物であることが想定される。主軸がほぼ真北をとることから、計画的な建物配置のもと造営された可能性が高い。

掘立柱建物3・4は同一遺構面(整地層上面)において検出し、近接した位置関係にあることから、同時併存はありえない。両建物が重複しないこと、出土遺物がほぼ同時期のものと考えられることから、遺構の新旧関係を明らかにするのは困難である。しかしながら、整地層があたかも掘立柱建物3を中心に堆積するような様相を示し、掘立柱建物4は一部が整地層にかかるのみであることを積極的

にとらえるならば、掘立柱建物3造営時に整地され、掘立柱建物4が後出する可能性も考えられよう。

掘立柱建物2は柱掘り方2基を検出するのみで詳細は不明であるが、掘立柱建物3同様、柱掘り方の規模が約1mであることから、大型の建物であることが想定される。遺構の大部分は、現在の町道下に現存するものと思われる。

今回みつかった大型建物群は時期差が認められるものの、ほぼ同じ場所に集中して造営されることから、敷地が踏襲されていた可能性も考えられる。古代の一般的な集落、豪族居宅、郡衙の建物を比較すると、一般的な集落では平面積が50㎡を超える建物は2.1%ときわめて少なく、桁行3間以下の建物が86%を占め、4間が10%、5間が4%である(註2)。このことから、建物群は一般的な集落の建物ではなく特別な機能を担っていたと考えられ、建物群が検出されたエリアに灰釉陶器の出土が集中することもその可能性を示唆しているものと思われる。また、遺跡内からは前述した灰釉陶器のほか緑釉陶器、褐釉陶器といった当該期の施釉陶器、及び文字資料である墨書土器が出土しており、これらの出土遺物からも有力者の存在をうかがわせる。

本遺跡周辺では長者原遺跡、名和衣装谷遺跡などで古代の大型建物が確認されている。長者原遺跡は本遺跡より北東に約2.5kmに位置し、礎石の抜き取り痕跡とともに多量の炭化米が出土している。炭化米の放射性炭素測定では平安時代中期の年代が示されている。名和衣装谷遺跡は、北東約2.8kmに位置する。1号掘立柱建物は9世紀後半、2号掘立柱建物は10世紀前後に比定され、いずれも桁行5間、梁行2間の東西棟である。平面積は45㎡弱と本遺跡例と類似する。建物は調査者により郡司層の居宅又は郡衙下部の鉄生産に関わる遺構と推定されており、出土遺物には緑釉陶器・転用硯がみられる。両遺跡とも古代汗入郡内の主要な遺跡と考えられ、郡衙との関連を検討されている。

本遺跡は同時期の大型建物群及び文字資料の存在により、両遺跡との関連性が注目される。建物群は遺跡北側に伸びる可能性があり、全容が解明されたとはいえない。現状では本遺跡が官衙であるかどうかも含め機能を特定するのは困難であるが、両遺跡と有機的なつながりを持ち、豪族居宅、官衙補完施設(註3)など特別な機能を有していた可能性は考えられよう。(森本)

<中世前期>

茶畑六反田遺跡において中心的な時期の1つである。2区では1×1、2間の小規模な掘立柱建物が密集し、0・1区では床面積20㎡を超えるやや大型の掘立柱建物が散在する。しかし、遺跡の東側にあたる4・5区においては当期の遺構は希薄であり、今回の調査においても当期あたりの可能性がある建物は掘立柱建物1のみである。このことは先述したように3区から4区の間にも現在も耕作に伴う段差がみられるなど、両区界で地形がやや急に下る地形であることによると思われる。(野口)

<中世後期～近世>

これまでの調査で0・1区で中世段階の耕作痕が確認されている。鳥取県下では畠跡や耕作痕が確認された遺跡として、湯梨浜町長瀬高浜遺跡、北栄町中浜遺跡、琴浦町上伊勢第1遺跡、大山町門前上屋敷遺跡、大山町門前第2遺跡、大山町文珠領屋敷遺跡、大山町茶畑六反田遺跡、米子市錦町遺跡などが知られるが、依然調査例は少ない。今回の4区調査では中世後期の耕作痕に加え、近世耕作痕も確認されたが、これらは幅10～50cm、長さ0.1～12.4m、深さ1～19cmの溝状で確認され、走向は等高線に平行した南東-北西方向を向くものを中心に認められる。これらは第3章で詳述したよ

うに畝間痕であったと思われるが、畝を作る場合、降雨による土壌浸食を防ぐため、その方向を等高線と平行させて作られたことによると思われる、中世後期から近世を通して、耕作の方法は踏襲されていたことが明らかとなった。(野口)

(註1) ただし本遺跡の場合、4区で確認された竪穴住居、土坑が中期中葉後半～後葉前半ころを中心とする時期であったと思われるのに対し、5区では中期中葉は掘立柱建物、土坑を中心に展開し、竪穴住居は後葉中ころというように、確認された地区により、遺構の展開に差が認められる。

(註2) 山中敏史 2006「地方豪族居宅の空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

(註3) 官衙機能の一翼も担った民間施設

(参考文献)

金田章裕 1993「条里地割はいつできたか」『新視点日本の歴史3』新人物往来社

辻信広 2000「第4章まとめ」『長者原遺跡』名和町教育委員会

中森祥 2004『茶畑六反田遺跡(0・5区)』財団法人 鳥取県教育文化財団

八峠興 2002『茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡・富岡播磨洞遺跡・安原溝尻遺跡』財団法人 鳥取県教育文化財団

山中敏史 2004「X-1 官衙関連遺跡と末端官衙」『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所

湯川善一 2003「第3章第6節まとめ1. 遺構と遺物」『名和衣装谷遺跡 古御堂金蔵ヶ平遺跡』財団法人 鳥取県教育文化財団

表16 土器・土製品観察表

No	遺構・地区・層位名	挿図 図版	種類・ 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	土坑1 埋土中	第8図 図版20	陶器	器高3.0△	外面ロクロナデ。施釉。 内面ロクロナデ。施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗オリーブ色 露胎部灰色	
2	溝1 埋土中	第9図 図版20	陶器 皿	口径10.0※ 器高1.9△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰オリーブ色露胎部 にぶい赤褐色	
3	F1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高3.0△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
4	E1 I層	第13図 図版19	陶器 碗	器高3.3△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄褐色 露胎部橙色	
5	E3 I層	第13図 図版19	磁器 鉢	口径22.0※ 器高2.9△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面灰白色 露胎部灰色	
6	G5 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高2.6△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面灰オリーブ色露胎部 灰色	
7	F1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高3.3△	外面施釉。連弁文陰刻。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
8	E1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	口径13.0※ 器高3.1△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
9	D1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高2.2△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
10	G2 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高2.0△	外面施釉。陰刻による花卉。 内面施釉。	密	良	内外面緑灰色 露胎部灰色	
11	F1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	口径13.0※ 器高2.8△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
12	F1 I層	第13図 図版19	青磁 碗	口径14.0※ 器高2.1△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
13	C3 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高2.4△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ黄色 露胎部灰色	割口部分に漆接 ぎの痕跡か
14	C4 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高4.1△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
15	C3 I層	第13図 図版19	青磁 碗	底径6.4※ 器高3.8△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
16	G2 I層	第13図 図版19	青磁 碗	口径13.0※ 器高2.8△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明オリーブ色 露胎部灰色	
17	G5 I層	第13図 図版19	青磁 碗	器高2.6△	外面施釉。陰刻。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰オリーブ色 露胎部灰色	
18	E3 I層	第13図 図版19	白磁 皿	口径12.0※ 器高2.0△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面露胎部白色	
19	C3 I層	第13図 図版19	磁器 碗	口径10.0※ 器高3.8△	外面施釉。牡丹？ 内面施釉。	密	良	内外面露胎部灰白色	
20	I4 I層	第13図 図版19	磁器 盒	口径11.9※ 器高2.0△	外面施釉。唐草文？ 内面施釉。	密	良	内外面灰白色	
21	D1 I層	第13図 図版19	磁器 碗	口径8.8※ 器高5.0△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面明緑灰色	
22	D3 I層	第13図 図版19	磁器 皿	口径11.8※ 器高2.2△	外面施釉。 内面施釉。格子文。	密	良	内外面露胎部灰白色	
23	D2 I層	第13図 図版22	陶器 天目茶碗	底径4.9※ 器高5.3△	外面施釉。回転ナデ。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒色 露胎部明褐色	
24	F4 I層	第13図 図版19	陶器 天目茶碗	器高4.0△	外面施釉。露胎。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ褐色 露胎部にぶい黄色	
25	E3 I層	第13図 図版19	陶器 天目茶碗	器高3.7△	外面施釉。露胎。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒色 露胎部灰黄色	
26	C4 I層	第13図 図版19	陶器 鉢	器高3.0△	外面施釉。櫛描文。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰オリーブ色 露胎部にぶい赤褐色	
27	G0 I層	第13図 図版19	土師器 皿	口径12.4※ 器高2.1△	外面回転ナデ後体部ナデ・オサ エ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄橙色	
28	G5 I層	第13図 図版47	土師器 台付坏	底径6.6※ 器高1.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄色 外面にぶい黄褐色	内面文字？線刻
29	G5 I層	第13図 図版19-47	土師器 坏	底径5.2※ 器高1.7△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(9mm以下の 砂粒を含む)	良	内面明褐色 外面明赤褐色	内面「大」線刻
30	G2 I層	第13図 図版19	土師器 羽釜	器高6.7△	外面ナデ。内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐色	外面スス付着
31	B2・C2 I層	第13図 図版19	土師器 羽釜	口径27.4※ 器高4.8△	外面ナデ。内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
32	G1 I層	第13図 図版19	陶器 播鉢	口径28.0※ 器高6.1△	外面回転ナデ。掻き目。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗オリーブ色	
33	G1 I層	第13図 図版19	陶器 播鉢	口径30.0※ 器高6.7△	外面回転ナデ。掻き目。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	
34	G4 I層	第13図 図版19	陶器 播鉢	底径13.6※ 器高5.4△	外面ケズリ後ナデ。 内面おろし目。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	
35	C3 I層	第14図 図版46	土錘	最大長46△ 最大幅1.3 重さ5.6	ナデ	密	良		
36	溝4 埋土中	第19図 図版20	須恵器 高台杯	器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	
37	溝4 埋土中	第19図 図版20	陶器 甕	器高4.6△	外面自然釉。 内面ナデ。	密(5mm以下の 砂粒を含む)	良	内面褐色 外面オリーブ黄色	
38	溝4 埋土中	第19図 図版20	青磁 碗	器高2.3△	外面縦方向に印刻後施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
39	溝5 埋土中	第21図 図版20	須恵器 坏	口径12.4※ 器高3.5△	外面口縁部回転ナデ。 内面口縁部回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
40	溝5 埋土中	第21図 図版20	陶器 碗	器高3.0△	外面施釉。回転ナデ。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ黄色 露胎部黄灰色	
41	E4 II層	第24図 図版20	土師器 皿	底径7.2※ 器高1.7	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面浅黄色	

42	G5 Ⅱ層	第24図 図版20	土師器 坏	底径6.8※ 器高3.2△	外面回転ナデ。凹線状の窪み。底 部回転糸切り。内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
43	G3 Ⅱ層	第24図 図版20	陶器 甕	器高6.8△	外面自然袖。 内面ナデ。	密 (3mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄色 外面暗オリーブ色	
44	D4 Ⅱ層	第24図 図版20	土師器 鍋	器高3.5△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗灰黄色	内外面スス付着
45	G5 Ⅱ層	第24図 図版20	土師器 鍋	器高3.9△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面淡黄色	外面スス付着
46	H4 Ⅱ層	第24図 図版20	土師器 羽釜	器高5.9△	外面ナデ・ケズリ。 内面ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒色	
47	G5 Ⅱ層	第24図 図版20	陶器 搗鉢	器高4.1△	外面ナデ。 内面ナデ・おろし目。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
48	G5 Ⅱ層	第24図 図版20	須恵器 甕	口径13.7※ 器高6.9△	外面格子タタキ。 内面ハケ・ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
49	D1 灰褐色土層	第25図 図版20・48	褐釉陶器 壺	口径10.9※ 器高3.3△	外面施釉。 内面施釉。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗オリーブ色 露胎部灰色	
50	土坑4 埋土中	第27図 図版21	土師器 皿	口径9.4※ 器高1.2	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	
51	土坑4 埋土中	第27図 図版21	土師器 坏	底径6.3※ 器高1.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	
52	土坑4 埋土中	第27図 図版21	磁器 碗	器高2.5△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面明緑灰色	
53	土坑4 埋土中	第27図 図版21	土師器 鍋	口径28.6※ 器高2.4△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄橙色	
54	溝7 埋土中	第31図 図版21	土師器 坏	器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙色	
55	溝7 埋土中	第31図 図版21	須恵器 坏	口径14.0※ 器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
56	溝7 埋土中	第31図 図版21	土師器 坏	底径6.2※ 器高2.0△	外面回転ナデ。底部静止糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
57	溝7 埋土中	第31図 図版21	須恵器 坏蓋	口径14.1※ 器高2.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄灰色	
58	溝7 埋土中	第31図 図版21	須恵器 高坏	器高3.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	
59	溝8 埋土中	第30図 図版21	須恵器 台付坏	器高1.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい褐色	風化のため調整 不明瞭
60	溝8 埋土中	第30図 図版21	土師器 甕	口径13.8※ 器高7.7△	外面ナデ・ハケ。内面口縁部ナデ。 胴部ケズリ後ナデ・ミガキ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内面褐色 外面黒褐色	外面スス付着
61	溝8 埋土中	第30図 図版21	弥生土器 直口壺	口径11.8※ 器高4.9△	外面ナデ・ミガキ。 内面ナデ・ミガキ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	頸部穿孔
62	溝11 埋土中	第36図 図版22	土師器 坏	口径10.5 底径5.3 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面褐色 外面にぶい橙色	
63	溝11 埋土中	第36図 図版21	土師器 坏	口径18.6※ 器高1.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面褐灰色 外面にぶい橙色	内面黒色処理の 可能性あり
64	溝12 埋土中	第38図	弥生土器 壺	器高5.0△	内外面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄橙色	
65	溝13 埋土中	第39図 図版21	土師器 皿	器高1.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
66	近世耕作痕 埋土中	第42図 図版21	土師器 皿か坏	底径7.4※ 器高1.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	底部の切離は不明瞭。 土師質土器
67	近世耕作痕 埋土中	第42図 図版21	須恵器 坏蓋	底径9.0※ 器高3.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	
68	C4 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 皿	口径9.0※ 器高1.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙色	
69	B3 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 皿	底径8.0※ 器高1.6△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面浅黄色 外面褐色	外面赤色塗彩
70	E2 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 坏	底径6.5※ 器高2.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
71	B2 Ⅲ層	第45図 図版20	土師器 坏	底径7.0※ 器高2.6△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (3mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	
72	F1 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 台付坏	底径8.0※ 器高1.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
73	G1 Ⅲ層	第45図 図版47	須恵器 長頸壺	器高5.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	「レ」状のヘラ記号
74	C3 Ⅲ層	第45図 図版23・48	灰釉陶器 坏	口径15.4※ 器高4.1△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
75	C3 Ⅲ層	第45図 図版23・49	灰釉陶器 台付坏	底径7.4※ 器高1.2△	外面回転ナデ。施釉。底部内面回転ハ ケズリ後ナデ。内面回転ナデ・施釉。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面オリーブ黄色	
76	F1 Ⅲ層	第45図 図版23・48	褐釉陶器 壺	口径10.9※ 器高3.3△	外面施釉。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	外面暗オリーブ色 露胎部灰色	
77	D4 Ⅲ層	第45図 図版22	土師器 耳皿	底径4.1※ 器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	口径(折り曲げ 部分) 4.4
78	F4 Ⅲ層	第45図 図版23	白磁 碗	器高2.7△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面灰白色	
79	D2 Ⅲ層	第45図 図版23	須恵器 甕	器高3.4△	外面格子タタキ。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
80	G4 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 羽釜	口径33.8※ 器高6.4△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰色 外面黄灰色	外面スス付着
81	D3 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 羽釜	器高7.2△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (3mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	外面スス付着
82	F4 Ⅲ層	第45図 図版22	土師器 鍋	口径27.8※ 器高11.9△	外面ナデ・ハケ。 内面ナデ・ハケ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	外面スス付着
83	D4 Ⅲ層	第45図 図版23	土師器 鍋	口径30.4※ 器高2.0△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
84	F3・4 Ⅲ層	第45図 図版24	弥生土器 高坏	口径24.0※ 器高3.8△	外面口縁部ハケ工具?による刻目。体 部ナデ・ミガキ。内面ナデ・ミガキ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	

遺物観察表

85	Ⅲ層	第45図 図版23	羽口	最大長2.4※ 最大幅2.6※ 最大厚1.9△		密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面浅橙色 外面黒褐色	
86	掘立柱建物 2P2①層	第50図 図版26	須恵器 坏	口径14.6※ 器高2.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰白色 外面灰色	
87	掘立柱建物2 P1埋土中	第51図 図版26	土師器 坏	底径7.4※ 器高2.0△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄褐色	
88	溝15 埋土中	第53図 図版26	青磁 碗	底径9.4※ 器高1.7△	外面施釉。 内面施釉。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄色 露胎部灰色	
89	溝17 埋土中	第54図 図版26	須恵器 坏	底径7.6※ 器高0.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
90	溝20 埋土中	第58図 図版26	土師器 甕	口径28.3※ 器高4.0△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒褐色	内外面スス付着
91	溝21 埋土中	第55図 図版26	土師器 坏	底径3.4※ 器高6.0△	外面体部回転ナデ。 内面体部回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	底部切り離しは 摩滅して不明
92	溝21 埋土中	第55図 図版26	土師器 甕	器高4.0△	外面口縁部ナデ。 内面口縁部ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面赤褐色 外面灰黄褐色	
93	溝21 埋土中	第55図 図版26	弥生土器 脚部	底径13.0※ 器高5.0△	外面ナデ。1条の凹線。透し2孔。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
94	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	口径13.0※ 器高3.3△	外面ナデ。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄褐色	底部押圧になる 可能性あり
95	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	口径12.4※ 器高3.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙色	内外面赤色塗彩
96	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	口径13.4※ 器高3.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	内面赤彩
97	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	口径10.8※ 底径7.0※ 器高3.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面浅黄色 外面灰黄色	
98	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 甕	口径20.0※ 器高3.3△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面黒褐色	外面スス付着
99	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 甕	器高1.8△	外面ハケ・ナデ。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	
100	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径7.8※ 器高1.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩
101	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径6.0※ 器高1.7△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	内面赤彩
102	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径7.0※ 器高0.8△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	
103	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径6.1※ 器高1.2△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面淡黄色	内外面黒色処理 の可能性あり
104	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径7.1※ 器高1.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	外面黄褐色	内外面赤彩
105	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径7.4※ 器高1.5△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	内面黒色処理の 可能性あり
106	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 台付坏	底径7.0※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	外面黒色処理
107	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	土師器 坏	底径7.4※ 器高1.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面明褐色 外面橙色	内外面赤色塗彩
108	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
109	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	口径13.6※ 底径10.0※ 器高3.6	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
110	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	口径12.4※ 器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
111	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 高台坏	底径8.8※ 器高2.2△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
112	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	底径6.4※ 器高1.2△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
113	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	底径6.0※ 器高1.5△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
114	中世耕作痕 埋土中	第62図 図版25	須恵器 坏	底径6.7※ 器高1.7△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
115	P3 埋土中	第63図 図版26	土師器 甕	口径20.2※ 器高2.1△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰褐色	内外面スス付着
116	D4 IV層	第64図 図版19	土師器 坏	器高2.2△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
117	D5・E5 IV層	第64図 図版23	土師器 坏	口径14.6※ 器高10.5△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
118	F1 IV層	第64図 図版22	土師器 坏	底径7.4※ 器高1.5△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	内外面スス付着
119	D4 IV層	第64図 図版48	土師器 坏	底径7.6※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黒色 外面橙色	内面漆付着
120	F1 IV層	第64図 図版22	土師器 坏	口径8.9 器高4.1	外面回転ナデ。底部イタナデ(ハ ケ)後ナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
121	C4 IV層	第64図 図版24	土師器 坏	底径8.0※ 器高3.3△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
122	E4 IV層	第64図 図版24	土師器 台付坏	底径6.6※ 器高2.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
123	F3 IV層	第64図 図版24	須恵器 坏	口径12.4※ 底径7.2※ 器高4.3△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗緑灰色	
124	C4 IV層	第64図 図版24	土師器 坏	口径12.4※ 底径8.3※ 器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	外面黒色処理
125	D4 IV層	第64図 図版24	須恵器 坏	口径13.7※ 器高6.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	

126	D3・4 IV層	第64図 図版27・48	灰釉陶器 杯	口径136※ 器高3.6△	外面回転ナデ。施釉。 内面回転ナデ。施釉	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰オリーブ色	
127	D4 IV層	第64図 図版27・48	灰釉陶器 台付杯	底径9.2※ 器高2.2△	外面回転ナデ。施釉。底部内面回 転ヘラケズリ後ナデ。内面回転 ナデ・施釉。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
128	D4 IV層	第64図 図版22	灰釉陶器 器壺	器高8.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	釉のかかりは半 分
129	E 1・F 1 IV層	第64図 図版22	土師器 甕	口径9.6※ 器高9.9△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナ デ。内面口縁部ナデ。胴部ケズリ ナデ。	密 (3mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄橙色	外面スス付着
130	F3 IV層	第64図 図版33	弥生土器 壺	器高7.0△	外面斜格子文。横方向の沈線。内 面ハケ後ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内面におい黄橙色 外面におい褐色	
131	E3 IV層	第64図 図版24	弥生 紡錘車	最大長3.3 最大幅3.6 器厚0.6	外面ハケ。 内面ナデ後ミガキ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰色 外面におい黄橙色	土器片転用
132	D2 IV・V層	第66図 図版28	土師器 杯	口径13.0※ 底径8.2※ 器高2.7	外面回転ナデ・ミガキ。底部ケズ リ後ナデ・ミガキ。内面回転 ナデ。螺旋・放射状暗文。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	内外面赤色塗彩
133	IV・V層	第66図 図版27	土師器 杯	底径16.2※ 器高2.2△	外面回転ナデ・ミガキ。底部ケズ リ後ナデ・ミガキ。内面回転ナデ。 螺旋暗文。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	内外面赤色塗 彩。風化により 調整不明瞭
134	D3 IV・V層	第66図 図版28	土師器 杯	口径11.8※ 底径9.6※ 器高2.7	外面回転ナデ・ミガキ。底部ケズ リ後ナデ・ミガキ。内面回転ナデ・ ミガキ。螺旋暗文。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	内外面赤色塗彩
135	D3 IV・V層	第66図 図版27	土師器 杯	底径8.8※ 器高1.7△	外面回転ナデ・ミガキ。底部ケズ リ後ナデ・ミガキ。内面回転ナデ・ ミガキ。螺旋暗文。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	内外面赤色塗彩
136	C4 IV・V層	第66図 図版28	土師器 杯	口径12.2※ 底径7.8※ 器高3.7△	外面ナデ。底部板目痕。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	底部外面板目 痕。押圧
137	C4 IV・V層	第66図 図版28	土師器 杯	口径11.7※ 底径7.7※ 器高3.8△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部ヘラ切り。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄褐色	
138	C4 IV・V層	第66図 図版24	土師器 杯	底径5.0※ 器高1.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
139	C3 IV・V層	第66図 図版27	土師器 杯	口径13.7※ 底径9.3※ 器高3.3△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄橙色	
140	C4 IV・V層	第66図 図版28	土師器 杯	口径12.8※ 底径7.0 器高3.9	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	内外面赤色塗彩
141	C3 IV・V層	第66図 図版24	土師器 杯	口径12.4※ 底径7.6※ 器高3.4△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面赤褐色	
142	D4 IV・V層	第66図 図版24	土師器 皿	口径12.7※ 底径8.3※ 器高2.2△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	外面黒色処理の 可能性あり
143	C4 IV・V層	第66図 図版27	土師器 杯	口径14.2※ 底径8.4※ 器高3.3△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黒褐色 外面におい黄褐色	内面黒色処理の 可能性あり
144	C4 IV・V層	第66図 図版26	土師器 杯	口径11.8※ 底径7.0※ 器高3.7	外面回転ナデ・オサエ。 内面回転ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	内外面スス付着。割 れ口にもススの付着 が見られる。底部押 圧になる可能性あり
145	D4 IV・V層	第66図 図版26	土師器 皿	口径8.4※ 底径5.6※ 器高1.7	外面回転ナデ後ナデ・オサエ。底 部ヘラ切り。 内面回転ナデ後オサエ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面橙色 外面黒褐色	
146	C4 IV・V層	第66図 図版26	土師器 台付杯	口径12.2※ 底径7.6※ 器高5.6	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (4mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
147	C3 IV・V層	第66図 図版26	土師器 台付杯	口径15.0※ 底径10.0※ 器高6.2	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
148	C4 IV・V層	第66図 図版23	土師器 高台杯	底径9.8※ 器高2.0△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	内外面赤色塗彩
149	C4 IV・V層	第66図 図版24	土師器 高台杯	底径10.0※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	足高高台
150	B2 IV・V層	第66図 図版24	土師器 柱状高 台杯	底径5.0※ 器高1.2△	外面回転ナデ。底部糸切り。内面 回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
151	C2・3 IV・V層	第66図 図版29	土師器 甕	口径26.4※ 器高6.0△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄橙色	内面口縁部スス 付着
152	C3 IV・V層	第66図 図版27	土師器 甕	口径24.2※ 器高12.3△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黄褐色 外面黒色	外面スス付着
153	C2 IV・V層	第66図 図版29	須恵器 杯	口径13.6※ 底径8.0※ 器高4.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
154	D3 IV・V層	第66図 図版27	須恵器 杯	口径13.1※ 底径8.4※ 器高3.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐灰色	
155	D3 IV・V層	第66図 図版27	須恵器 杯	口径13.4※ 器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
156	C3 IV・V層	第66図 図版27	須恵器 杯蓋	器高1.4△	外面回転ナデ。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	輪軸摘み
157	B3 IV・V層	第66図 図版24	須恵器 高台杯	口径13.9※ 底径7.4※ 器高4.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	

遺物観察表

158	C3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版28	須恵器 高台杯	口径13.9※ 底径9.0※ 器高3.7△	外面回転ナデ。底部ヘラ切り後ナ デ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
159	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版24	須恵器 高台杯	底径7.2※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(3mm以下の 砂粒を含む)	やや 不良	内外面灰白色	
160	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版24	須恵器 高台杯	底径6.2※ 器高2.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内黒色 外面灰色	内面漆付着。パ レット
161	C3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27	須恵器 高台杯	底径8.2※ 器高2.5△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(5mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
162	C3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27	須恵器 高台杯	底径9.2※ 器高2.1△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
163	D・E3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版29	須恵器 高台杯	口径14.8※ 器高7.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
164	C4 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版24	須恵器 高台杯	底径8.7※ 器高2.5△	外面回転ナデ。底部静止糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
165	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27	須恵器 高台杯	底径9.1※ 器高3.6△	外面回転ナデ。底部糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	静止か回転か不 明瞭
166	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27	須恵器 高台杯	底径8.5※ 器高2.0△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
167	C4 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版24	須恵器 高台杯	底径9.5※ 器高2.0△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後 雑なナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
168	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版24・48	緑釉陶 器	器高1.5△	外面施釉。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅灰色	
169	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27・48	灰釉陶器 長頸壺	器高8.3△	外面回転ナデ。施釉。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
170	C2 Ⅳ・Ⅴ層	第66図 図版27・48	灰釉陶器 壺	器高6.5△	外面回転ナデ。施釉。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
171	D2 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版43	弥生土器 壺	口径35.4※ 器高5.4△	外面口縁部上面斜格子文。口縁部 刻み。頸部貼付突帯・ハケ。内面 ケズリ後ナデ。	密(4mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄色	
172	E3 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生土器 壺	器高1.8△	外面口縁部4条の凹線後キザミ。 2条の棒状浮文。内面口縁 部ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	外面にぶい黄褐色 内面橙色	
173	D2・3 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生土器 高杯	口径19.0※ 器高5.3△	外面口縁部2条の凹線後キザミ。 穿孔。体部ナハケ。内面口縁部 ナデ・ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
174	C2 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生土器 高杯か鉢	器高4.0△	外面口縁部キザミ。坏部3条の 凹線後キザミ。内面口縁部ナデ。 坏部ミガキ。	密(3mm以下の 砂粒を含む)	良	外面黄灰色 内面にぶい黄褐色	キザミは金属製 工具による施工 の可能性あり
175	D2 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生土器 脚部	口径9.0※ 器高6.0△	外面ハケ後ナデ。2条の貼付突 帯。4孔の透し。脚部端部1条の 凹線。内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	外面灰黄色 内面にぶい黄褐色	
176	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生 紡錘車 未製品	最大長2.6 最大幅3 器厚0.6	外面ハケ。 内面ハケ・ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面淡黄色	甕の破片転用。 内外面穿孔は貫 通せず
177	C3 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生 紡錘車 未製品	最大長5.1 最大幅5.0 器厚0.7	外面ナデ・ミガキ。 内面ナデ・ケズリ後ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰白色 外面灰黄色	甕の破片転用。 内面穿孔は貫通 せず
178	E3 Ⅳ・Ⅴ層	第67図 図版27	弥生 紡錘車 未製品	最大長4.5 最大幅5.2 器厚0.8	外面ミガキ。 内面ケズリ後ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰色 外面にぶい黄褐色	甕の破片転用。 内面穿孔は貫通 せず
179	D3 Ⅳ・Ⅴ層	第68図 図版46	土錘	最大長3.6△ 最大幅1.3 重さ4.6	ナデ	密	良		
180	掘立柱建物 3P1①層	第71図 図版31	土師器 高台杯	口径11.8※ 底径8.0※ 器高4.2△	外面ナデ。底部押圧。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	内外面部分的に 黒斑。黒色処理 の可能性あり
181	掘立柱建物 3P4③層	第71図 図版30	須恵器 高台杯	口径14.0※ 器高2.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐灰色	
182	掘立柱建物 3P2埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	底径8.0※ 器高1.7△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面橙色 外面にぶい黄褐色	
183	掘立柱建物 3P4埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	底径6.4※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面橙色	
184	掘立柱建物 3P4埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	口径11.6※ 底径6.6※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部ヘラ切り後ナ デ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
185	掘立柱建物 3P3埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	口径12.4※ 底径8.2※ 器高4.0△	外面回転ナデ。底部ナデ。内面 回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
186	掘立柱建物 3P1埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	器高2.5△	外面回転ナデ・ミガキ。底部ケズリ後 ナデ・ミガキ。内面回転ナデ・ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	内外面赤色塗彩
187	掘立柱建物 3P2埋土中	第72図 図版30	土師器 高台杯	底径8.0※ 器高3.0△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面明赤褐色 外面にぶい黄褐色	内外面雑な赤彩
188	掘立柱建物 3P1埋土中	第72図 図版30	土師器 高台付杯	底径6.2※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	
189	掘立柱建物 3P4埋土中	第72図 図版30	須恵器 高台杯	口径14.0※ 器高2.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐灰色	
190	掘立柱建物3 P2・D4Ⅲ層	第72図 図版30・48	灰釉陶器 台付杯	底径7.6※ 器高1.6△	外面回転ナデ。施釉。底部内面ナ デ。内面回転ナデ・施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
191	掘立柱建物 3P2埋土中	第72図 図版30	土師器 甕	口径25.0※ 器高6.1△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(4mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面黒褐色	外面スス付着
192	掘立柱建物 3P3埋土中	第72図 図版30	土師器 甕	口径11.6※ 底径6.6※ 器高3.2△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面黒褐色	
193	掘立柱建物 4P7埋土中	第74図 図版30	土師器 高台杯	口径12.2※ 器高3.1△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐色	

194	掘立柱建物 4P6埋土中	第74図 図版30	土師器 台付坏	底径7.8※器 高2.9△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黄橙色	
195	掘立柱建物 4P6埋土中	第74図 図版30	土師器 坏	口径14.8※ 器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
196	掘立柱建物 4P2埋土中	第74図 図版30	土師器 坏	口径15.0※ 器高4.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄橙色	
197	土坑6 埋土中	第75図 図版29・48	土師器 坏	口径13.6※ 器高2.6△	外面回転ナデ。 内面ミガキ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黒色 外面橙色	内面黒色処理 外面赤彩
198	土坑6 埋土中	第75図 図版29	土師器 坏	器高4.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄橙色	
199	土坑6 埋土中	第75図 図版29	土師器 高台坏	底径8.8※ 器高1.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黒色 外面橙色	
200	土坑6 埋土中	第75図 図版29	須恵器 坏	底径8.0※ 器高3.3△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
201	P20 埋土中	第79図 図版29	土師器 坏	口径13.6※ 器高2.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
202	P13 埋土中	第79図 図版29	土師器 坏	口径15.6※ 器高3.9△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面橙色 外面灰褐色	外面黒色処理の 可能性あり
203	P24 埋土中	第79図 図版29	土師器 坏	口径13.9※ 器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄橙色	
204	P18 埋土中	第79図 図版29	土師器 坏	底径9.0※ 器高1.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面橙色 外面灰褐色	
205	P13・19 埋土中	第79図 図版29	須恵器 坏	口径14.2※ 底径8.4※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
206	P22 埋土中	第79図 図版29	須恵器 坏	底径6.8※ 器高1.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
207	D4 整地層	第80図 図版29	土師器 坏	口径14.0※ 底径9.0※ 器高3.5△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	内外面赤色塗彩
208	D4・5トレン チ整地層	第80図 図版24	土師器 坏	口径11.0※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	内外面赤色塗彩
209	C5 整地層	第80図 図版29	土師器 台付坏	底径7.8※ 器高2.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄褐色	外面赤彩。内面黒色 処理の可能性あり
210	C4・5トレン チ整地層	第80図 図版24	須恵器 坏	底径9.0※ 器高3.5△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	内面「×」他へ ラ記号
211	掘立柱建物 5P10埋土中	第82図 図版31	須恵器 坏	底径1.0※ 器高6.2△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
212	掘立柱建物 5P11埋土中	第83図 図版31	須恵器 台付坏	底径8.8※ 器高3.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面暗灰色 外面灰黄色	
213	柵2 P1①層	第84図 図版31・48	土師器 坏	口径13.0※ 器高3.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい橙色	外面黒色処理
214	柵2P1 埋土中	第84図 図版31	土師器 坏	底径7.6※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部糸切り後ナ デ。内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	回転か静止か不明瞭
215	柵3P4 埋土中	第88図 図版31	土師器 坏	口径11.4※ 器高3.2△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
216	土坑7 埋土中	第89図 図版31	土師器 坏	器高2.5△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	やや 良	外面暗灰黄色 内面浅黄色	
217	土坑7 埋土中	第89図 図版31	弥生土器 壺	器高1.4△	外面口縁部4条の凹線後キザミ。 内面口縁部ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄色	キザミは金属製工 具による施文の可 能性あり
218	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 坏	口径14.0※ 器高2.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄褐色	
219	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 坏	口径13.3※ 器高3.1△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄橙色	外面赤色塗彩
220	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 坏	口径12.4※ 器高3.8△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい橙色	内外面赤色塗彩
221	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 坏	底径8.0※ 器高2.3△	外面回転ナデ。底部ケズリ後ナ デ。内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい橙色	
222	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 台付坏	底径6.6※ 器高2.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄褐色	
223	溝24 埋土中	第91図 図版32	土師器 台付坏	底径6.4※ 器高1.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面におい黄褐色 外面橙色	外面赤色塗彩
224	溝25 埋土中	第92図 図版32	土師器 坏	口径14.8※ 器高3.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
225	溝27 埋土中	第93図 図版32	土師器 坏	底径7.4※ 器高1.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明赤褐色	
226	溝28 埋土中	第97図 図版32	土師器 坏	口径12.6※ 底径7.0※ 器高4.3△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面明黄褐色 外面におい褐色	内面スス付着
227	溝33 埋土中	第98図 図版32	弥生土器 甕	器高1.4△	外面口縁部3条の凹線後キザミ。 頸部貼付突帯施文後キザミ。内面 口縁部ナデ。	密 (2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面におい黄褐色	キザミは金属製工 具による施文の可 能性あり
228	溝34 埋土中	第105図 図版23	土師器 坏	底径7.4※ 器高2.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面明赤褐色 外面橙色	
229	溝34 埋土中	第105図 図版32	須恵器 坏	底径8.0※ 器高3.3△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
230	溝34 埋土中	第105図 図版32	土師器 甕	口径27.4※ 器高4.3△	外面ナデ・ハケ。 内面ナデ・ケズリ。	密 (5mm以下の 砂粒を含む)	良	内面におい黄褐色 外面黒褐色	内口縁部外面ス ス付着
231	波板状凹凸 遺構埋土中	第107図 図版31	須恵器 坏	口径14.0※ 器高3.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗青灰色	
232	波板状凹凸 遺構埋土中	第107図 図版31	須恵器 坏	底径8.5※ 器高1.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密 (5mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黄灰色 外面灰黄色	
233	波板状凹凸 遺構埋土中	第107図 図版31	須恵器 坏蓋	口径12.9※ 器高1.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
234	波板状凹凸 遺構埋土中	第107図 図版31	須恵器 坏蓋	口径13.0※ 器高1.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 (1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黄灰色 外面暗灰黄色	

遺物観察表

235	波板状凹凸遺構埋土中	第107図 図版31	須恵器 坏	器高1.5△	外面回転ヘラケズリ・ナデ。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰オリーブ色	
236	古代耕作痕埋土中	第110図 図版31	土師器 坏	底径7.2 器高2.2△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。底部押圧。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
237	古代耕作痕埋土中	第110図 図版23	土師器 坏	底径6.0※ 器高2.3△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面褐灰色 外面褐色	内面黒色処理の 可能性あり
238	古代耕作痕埋土中	第110図 図版23	土師器 甕	口径26.4※ 器高5.6△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい褐色 外面暗褐色	外面スス付着
239	古代耕作痕埋土中	第110図 図版32	須恵器 坏	口径11.4※ 底径5.6※ 器高3.7△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
240	古代耕作痕埋土中	第110図 図版23	須恵器 台付坏	底径8.4※ 器高2.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	
241	古代耕作痕埋土中	第110図 図版23	須恵器 坏	底径8.4※ 器高1.7△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(5mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰色 外面暗褐色	
242	古代耕作痕埋土中	第110図 図版23	須恵器 坏	底径8.6※ 器高2.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(5mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面暗褐色	
243	E1 V層	第113図 図版33	土師器 坏	口径14.0※ 底径6.7※ 器高3.4△	外面回転ナデ。底部ヘラ切り後ナ デ。内面回転ナデ。底部押圧。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面橙色	
244	C4・D3・E3 V層	第113図 図版26	須恵器 坏	口径12.8※ 器高3.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
245	C4 V層	第113図 図版33	須恵器 坏	口径12.5※ 器高3.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面青灰色	
246	C3 V層	第113図 図版31	須恵器 高台坏	底径13.4※ 器高2.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
247	C4 V層	第113図 図版26	須恵器 坏	底径6.8※ 器高2.6△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
248	E2 V層	第113図 図版33	弥生土器 壺	器高5.0△	外面ミガキ。胴部屈曲部2条の凹 線。内面ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	外面黄灰色 内面浅黄色	
249	D4 V層	第113図 図版31	弥生土器 壺	口径21.2※ 器高13.6△	外面口縁部ナデ。肩部ハケ。内面 口縁部ナデ。胴部上半ハケ。胴部 下半ハケ後ミガキ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙色	
250	D5 V層	第113図 図版43	弥生土器 壺	口径21.2※ 器高8.8△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ。内面 口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	外面スス付着
251	竪穴住居 1埋土中	第118図 図版33	土師器 高坏	口径13.0※ 器高10.3△	外面口縁～体部ハケ後ナデ。脚部 ナデ。内面口縁～体部ハケ後ナ デ。脚部ナデ・ハケ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
252	竪穴住居 1埋土中	第118図 図版33	土師器 甕	口径13.0※ 器高10.3△	外面口縁～肩部ナデ。胴部ハケ後 ナデ。内面口縁～頸部ナデ。肩～ 胴部ケズリ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
253	竪穴住居 2埋土中	第122図 図版34	弥生土器 甕	底径8.0※ 器高2.5△	外面ミガキ。 内面ナデ・オサエ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面黒褐色	外面スス付着
254	土坑8 埋土中	第124図 図版21	土師器 坏	底径7.0※ 器高1.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄色	
255	土坑11 埋土中	第129図 図版34	弥生土器 壺	口径10.0※ 器高6.9△	外面口縁部3条の凹線。頸～胴部ハ ケ後ナデ。内面口縁～胴部ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
256	土坑11 埋土中	第129図 図版35	弥生土器 壺	口径8.0※ 器高7.0△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ。内 面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	密(3mm以下の 砂粒を含む)	良	外面灰褐色 内面褐灰色	
257	土坑11 埋土中	第129図 図版34	弥生土器 甕	口径18.6※ 最大径23.8※ 器高18.1△	外面ナデ・ハケ・ミガキ。胴部刺 突文。内面ナデ・ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
258	土坑11 埋土中	第129図 図版35	弥生土器 甕	口径17.5※ 器高6.3△	外面口縁部1条の凹線。肩部ハケ後ミ ガキ。内面口縁部ナデ。肩部ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	
259	土坑11 埋土中	第129図 図版35	弥生土器 壺	口径16.9※ 器高8.7△	外面口縁部2条凹線。胴部ハケ。 内面ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙黄色	
260	土坑11 埋土中	第129図	弥生土器 甕	口径23.8※ 器高7.2△	外面口縁部4条の凹線。頸部貼付 突帯。胴部ハケ後ミガキ。内面口 縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
261	土坑12 埋土中	第131図 図版36	弥生土器 甕	口径18.8※ 器高28.9△	外面口縁部1条凹線。胴部上半ハ ケ後ナデ。胴部下半ミガキ。最大 胴部刺突文。内面口縁部ナデ。胴 部上半ハケ後ナデ後ミガキ。胴部 下半ケズリ後ミガキ。	密(3mm以下の 砂粒を含む)	良	外面にぶい橙 内面橙色	
262	土坑12 埋土中	第131図 図版35	弥生土器 甕	口径14.1※ 器高4.7△	外面口縁部1条凹線。胴部ハケ。 内面口縁部ナデ。胴部ハケ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい橙色	
263	土坑12 埋土中	第131図 図版35	弥生土器 甕	口径15.2※ 器高7.6△	外面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。 胴部下半ミガキ。内面口縁部ナ デ。胴部上半ハケ。胴部下半ケズ リ後ミガキ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒褐色	
264	土坑12 埋土中	第131図 図版36	弥生土器 甕	口径21.0※ 底径8.3 器高23.0	外面口縁部2条の凹線。胴部上半 ハケ後ナデ。胴部下半ハケ後ミガ キ。底部ナデ。内面口縁部ヨコ ナデ。胴部上半ハケ後ミガキ。胴 部下半ケズリ後ミガキ。底部ケズ リ後ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
265	土坑12 埋土中	第131図 図版36	弥生土器 甕	口径18.6※ 最大径20.0※ 底径7.8※ 器高18.8△	外面2条の凹線。ナデ・ハケ・ミ ガキ。胴部刺突文。内面ナデ・ハ ケ・ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
266	土坑12 埋土中	第131図 図版36	弥生土器 甕	口径17.6※ 器高21.4△	外面口縁部2条の凹線。頸部ナデ。 胴部上半ハケ。胴部下半ハケ後ナ デ後ミガキ。最大胴部刺突文。内面 口縁部ナデ。胴部上半ハケ後ナ デ。胴部下半ケズリ後ナデ後ミガキ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	外面にぶい黄褐色 内面浅黄褐色	
267	土坑12 埋土中	第132図 図版36	弥生土器 壺	口径18.7※ 器高21.5△	外面口縁部3条の凹線。頸部貼付 突帯。肩部ハケ・刺突文。胴部ハ ケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴 部上半ハケ後ナデ・ミガキ。下半 ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黄褐色 外面褐灰色	

268	土坑12埋土中	第132図 図版37	弥生土器 底部	底径7.0※ 器高6.7△	外面胴部ミガキ。底部ナデ。内面胴部ケズリ後ナデ後ナデ。底部ナデ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
269	土坑12埋土中	第132図 図版37	弥生土器 底部	底径7.6※ 器高8.2△	外面ミガキ。底部ナデ。内面胴部ケズリ後ミガキ。底部ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面橙色	
270	土坑12埋土中	第132図 図版37	弥生土器 底部	底径6.3※ 器高11.1△	外面胴部ミガキ。底部ナデ。内面胴部ケズリ後ナデ後ミガキ。底部ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい褐色 内面灰褐色	
271	土坑12埋土中	第132図 図版36	弥生土器 無頸壺	口径9.4※ 器高16.1△	外面本来の口縁部欠損後欠損部を研磨。無頸壺として転用。口縁・胴部刺突文。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。内面口縁部指押え。胴部ハケ。最大胴部指押え。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面褐灰色	転用土器
272	土坑12埋土中	第132図 図版36	弥生土器 底部	底径6.4※ 器高15.3△	外面胴部ハケ後ミガキ。底部ナデ。内面胴部ケズリ後ナデ後ミガキ。底部ナデ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面暗灰色	
273	土坑12埋土中	第132図 図版36	弥生土器 甕	底径8.2※ 器高30.6△	外面胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。最大胴部刺突文2列。内面胴部上半ナデ。胴部下半ケズリ後ミガキ。最大胴部指押え。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面褐色 内面橙色	
274	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 壺	口径13.6※ 器高5.7△	外面口縁部2条の凹線後刻み。頸部ナデ・ハケ。貼付突帯。内面ナデ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
275	土坑13埋土中	第135図 図版37	弥生土器 壺	口径15.4※ 器高6.5△	外面口縁部端部キザミ。頸部ハケ。4条の凹線。内面口縁部～頸部ナデ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
276	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 壺	口径26.8※ 器高2.5△	外面口縁部4条の凹線後キザミ。頸部ハケ後ナデ。内面口縁部ナデ。櫛状工具による鋸歯文及び波状文。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面橙色	
277	土坑13埋土中	第135図 図版37	弥生土器 甕	口径17.2※ 器高17.4△	外面口縁部ナデ。頸部ハケ後ナデ。胴部上半ハケ。胴部下半ハケ後ミガキ。刺突文。内面口縁部ナデ。胴部上半ハケ後ナデ。胴部下半ケズリ後ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい橙色	
278	土坑13埋土中	第135図 図版37	弥生土器 甕	口径17.0※ 器高16.4△	外面口縁部2条の凹線。胴部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。頸部屈曲部ミガキ。胴部上半ハケ後ミガキ。胴部下半ケズリ後ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面灰黄褐色 内面にい黄褐色	
279	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径14.8※ 器高7.8△	外面口縁部ナデ。肩部ハケ。内面口縁部ナデ。肩部ハケ後ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
280	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径17.0※ 器高6.0△	外面口縁部1条の凹線。肩部タタキ後ハケ。内面口縁部ナデ。肩部ナデ後ミガキ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
281	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径14.0※ 器高8.2△	外面口縁部1条の凹線。肩部ハケ。内面口縁部ナデ。肩部ハケ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面にい黄褐色	
282	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径16.6※ 器高10.5△	外面口縁部2条の凹線。胴部タタキ後ハケ。内面口縁部ナデ。頸部ミガキ。胴部ハケ後ナデ後ミガキ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
283	土坑13・ 古代耕作痕 埋土中	第135図 図版37	弥生土器 甕	口径13.2※ 高11.8△	外面口縁部2条の凹線後刻み。胴部ハケ・ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ・ナデ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内面にい黄褐色 外面浅黄色	外面スス付着
284	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径15.4※ 器高8.2△	外面口縁部2条の凹線。肩部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。肩部荒いナデ後ミガキ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面灰白色～黄灰色	
285	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径19.5※ 器高7.9△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい褐色 内面にい橙色	
286	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径16.4※ 器高6.4△	外面口縁部2条の凹線。肩部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。肩部ハケ後ナデ後ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面黒褐色～にい黄褐色 内面黒褐色	
287	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径12.9※ 器高8.4△	外面口縁部2条の凹線後キザミ。胴部ハケ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色～灰黄褐色 内面灰黄褐色	
288	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径14.6※ 器高4.5△	外面ナデ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面橙色～にい黄褐色 内面にい黄褐色～橙色	
289	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径17.7※ 器高6.5△	外面口縁部1条の凹線。胴部ハケ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
290	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径15.3※ 最大径18.7※ 器高12.0△	外面ナデ・ハケ・ミガキ。内面ナデ・ハケ・ミガキ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
291	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 甕	口径16.8※ 器高3.0△	外面口縁部3条の凹線。頸部貼付突帯後キザミ。内面口縁部ナデ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面黒褐色	
292	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 底部	底径5.2※ 器高10.8△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面胴部下半ケズリ後ナデ。底部ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	外面橙色～灰黄褐色 内面黒褐色	
293	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 底部	底径8.2※ 器高6.0△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面ケズリ後ミガキ。底部ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にい黄褐色	
294	土坑13埋土中	第135図 図版37	弥生土器 底部	底径5.0※ 器高7.9△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面胴部下半ケズリ後ナデ後ミガキ。底部ナデ。	密 (2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	
295	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 底部	底径6.2※ 器高6.2△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面胴部下半ケズリ後ミガキ。底部ナデ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい黄褐色 内面にい黄褐色	
296	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 底部	底径5.2※ 器高5.3△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面ケズリ後ミガキ。底部ナデ。	密 (3mm以下の砂粒を含む)	良	外面黒褐色 内面褐灰色	
297	土坑13埋土中	第135図 図版38	弥生土器 底部	底径5.5※ 器高2.8△	外面ナデ後ミガキ。内面ケズリ後ナデ。	密 (1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にい橙色 内面にい黄褐色	

遺物観察表

298	土坑14埋土中	第137図 図版39	弥生土器 壺	口径23.4* 器高25.0△	外面口縁部2条の凹線後キザミ。頸部ハケ後6条の凹線。胴部上半ハケ後ミガキ。胴部下半ハケ。最大胴部刺突文2列。内面口縁・頸部ナデ。胴部ハケ。風化著しい。	密(3mm以下の砂礫を含む)	良	外面にぶい黄褐色 内面にぶい橙色	299と同一個体か?
299	土坑14埋土中	第137図 図版39	弥生土器 底部	底径9.3* 器高30.1△	外面胴部上半ハケ。最大胴部ハケ後ミガキ。板状工具?による刺突文2列。胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面胴部上半ハケ。胴部下半調整不明。	密(3mm以下の砂礫を含む)	良	外面にぶい黄褐色 内面にぶい橙色	298と同一個体か?
300	土坑14埋土中	第137図 図版39	弥生土器 底部	底径10.2* 器高20.6△	外面胴部ハケ後ミガキ。内面胴部ケズリ後ミガキ。底部ケズリ後強いナデ。	密(3mm以下の砂礫を含む)	良	内外面浅黄褐色	
301	土坑16検出面	第140図 図版39	弥生土器 甕	口径22.6* 底径6.4 器高32.9△	外面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。胴部下半ケズリ後ミガキ。底部ナデ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
302	土坑17埋土中	第142図 図版39	弥生土器 甕	口径16.0* 器高21.0△	外面口縁部2条の凹線。頸~胴部ナデ・ハケ・ミガキ。内面口縁~胴部ナデ・ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面浅黄色	外面スス付着
303	土坑17埋土中	第142図 図版34	弥生土器 甕	口径13.2* 器高5.7△	外面口縁~頸部ナデ。胴部ハケ・ミガキ。内面口縁~頸部ナデ。胴部ハケ・ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
304	溝40埋土中	第149図 図版35	土師器 坏	口径13.4* 器高2.0△	外面ナデ(回転?)。内面ナデ(回転?)。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面黄褐色	
305	P82埋土中	第151図 図版35	土師器 甕	口径27.2* 器高4.1△	外面ナデ。内面ナデ・ケズリ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	外面スス付着
306	P82埋土中	第151図 図版35	土師器 坏	口径13.8* 器高2.9△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内面浅黄褐色 外面にぶい橙色	内外面黒色処理の可能性あり
307	P84埋土中	第151図 図版35	須恵器 坏	底径7.0* 器高0.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面灰色	
308	P114検出面	第155図 図版39	土師器 坏	口径12.3* 底径5.7* 器高3.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面橙色	内外面赤色塗彩
309	P162埋土中	第156図 図版35	須恵器 坏	口径10.5* 器高2.4△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
310	D4 VI層	第157図 図版43	弥生土器 壺	口径18.2* 器高5.0△	外面口縁部上面櫛描文・円形浮文。ミガキ。口縁部刻み後1条の凹線。頸部ハケ後ナデ・貼付突帯。内面ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面浅黄色	
311	D1 VI層	第157図 図版43	弥生土器 壺	口径23.6* 器高7.6△	外面口縁部ナデ。4条の貼付突帯。口縁部・貼付突帯端部キザミ。頸部ハケ。内面ナデ。	密(5mm以下の砂礫を含む)	良	外面明赤褐色 内面橙色	
312	C1 VI層	第157図	弥生土器 壺	口径26.7* 器高7.2△	外面口縁部3条凹線・ナデ。頸部ハケ後ナデ。内面口縁部ナデ。頸部ハケ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
313	E2 VI層	第157図 図版39	弥生土器 甕	口径23.1* 器高15.1△	外面口縁部刺突文後ナデ。頸部ハケ。頸部貼付突帯後刺突文。内面口縁部ナデ。頸部ハケ後ナデ。頸部屈曲部ハケ。胴部ハケ後ナデ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	外面浅黄褐色 内面橙色	
314	D2 VI層	第157図 図版39	弥生土器 壺	口径25.2* 器高7.1△	外面口縁部4条の凹線後キザミ。頸部ハケ。内面口縁部ナデ。頸部ナデ後ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面褐灰色	
315	E2 VI層	第157図 図版40	弥生土器 壺	器高11.4△	外面頸部ハケ。2条の貼付突帯。胴部ハケ。波状の刺突文。風化が著しい。内面頸部ナデ。胴部ハケ後ナデ。風化が著しい。	密(5mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
316	D2 VI層	第157図 図版43	弥生土器 壺	口径9.5* 器高4.3△	外面口縁部2条の凹線後キザミ。頸部2条の貼付突帯。内面ナデ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	
317	E2 VI層上面	第157図 図版43	弥生土器 甕	口径12.6* 器高7.5△	外面口縁部3条凹線。胴部ハケ。内面口縁ナデ。胴部ハケ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい橙色	
318	C3 VI層	第157図 図版27	弥生土器 高坏	口径22.8* 器高5.5△	外面口縁部ナデ後刻目・格子文。体部ミガキ・凹線後縦方向の粘土紐。内面ナデ・ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内面黒色 外面褐灰色	
319	D2 VI層	第157図 図版43	弥生土器 高坏	口径37.4* 器高3.1△	外面口縁部ナデ。口縁部穿孔2孔。口縁部1条の凹線。坏部ハケ後ミガキ。内面ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面灰黄褐色 内面にぶい黄褐色	
320	C3 VI層	第157図 図版43	弥生土器 高坏が鉢	口径21.4* 器高2.7△	外面口縁部ナデ。口縁部端部キザミ。坏部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。坏部ナデ後ミガキ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	外面灰黄褐色 内面黒褐色	
321	E2 VI層上面	第157図 図版40	弥生土器 水差し形土器	口径7.4* 底径5.8 器高13.6△	外面口縁部5条凹線。胴部上半ハケ。把手欠損。胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面口縁・胴部上半ナデ。把手の接合痕あり。胴部下半ハケ。	密(3mm以下の砂礫を含む)	良	内外面にぶい褐色	
322	E2 VI層	第157図 図版43	弥生土器 無頸壺	口径7.2* 器高4.0△	外面口唇部斜格子文。肩部沈線・波状文。内面ナデ・ハケ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
323	E2 VI層上面	第157図 図版43	弥生土器 無頸壺	口径14.6* 器高5.4△	外面口縁部ナデ。胴部上半5条の凹線。胴部上半刺突文。最大胴部2条の凹線。赤色塗彩。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	外面にぶい褐色 内面灰褐色	
324	E1 VI層	第157図 図版43	弥生土器 脚部	底径13.2* 器高5.3△	外面脚部ハケ。直線及び格子目状の沈線文。透し1孔。脚部端面1条の凹線。内面脚部ハケ後ナデ。脚部端部ナデ。	密(3mm以下の砂礫を含む)	良	外面にぶい橙色 内面橙色	
325	D2 VI層	第157図 図版27	弥生土器 脚部	器高8.0△	外面ナデ・ミガキ。凹線。透かし(三角)。内面ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内面浅黄色 外面黄褐色	
326	G1 VI層	第158図 図版42	弥生土器 甕	口径21.8* 器高12.2△	外面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。胴部下半ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ。	密(2mm以下の砂礫を含む)	良	外面にぶい橙色 内面にぶい橙色	

327	G2 VI層上面	第158図 図版41	弥生土器 甕	器高14△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ミガキ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり橙色	
328	C1 VI層	第158図 図版43	弥生土器 甕	口径16.5※ 器高16.6△	外面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。最大胴部刺突文。胴部下半ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部上半ハケ後ミガキ。最大胴部ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にいり黄橙色 内面黒褐色	
329	C1 VI層	第158図 図版40	弥生土器 甕	口径14.8※ 器高18.0△	外面口縁部ナデ。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄橙色	
330	C3 VI層	第158図 図版43	弥生土器 甕	口径16.8※ 器高7.6△	外面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内面明黄褐色 外面にいり黄褐色	外面スス附着
331	D3 VI層	第158図 図版41	弥生土器 甕	口径14.2※ 器高14.0△	外面口縁部1条の凹線。肩部ハケ。最大胴部刺突文。胴部下半ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ミガキ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄橙色	
332	C3 VI層	第158図 図版41	弥生土器 甕	口径17.3※ 器高12.1△	外面口縁部1条の凹線。胴部上半ハケ。胴部下半ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ、一部ミガキ。胴部ハケ後ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄褐色	
333	E3 VI層	第158図 図版42	弥生土器 甕	口径13.4※ 器高5.1△	外面口縁部1条の凹線。肩部ハケ後ナデ。内面口縁部ナデ。肩部ハケ後ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり褐色	
334	E2 VI層	第158図 図版40	弥生土器 甕	口径16.0※ 底径5.8 器高10.7△	外面口縁部1条の凹線。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。底部穿孔の可能性あり。内面口縁部ナデ。胴部ハケ。最大胴部・底部指押え後ハケ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面明黄褐色	
335	E3 VI層	第158図 図版40	弥生土器 甕	口径17.4※ 器高31.6△	外面口縁部1条、頸部1条の凹線。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。最大胴部貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ナデ。胴部上半ミガキ。胴部下半ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄褐色	
336	C2 VI層	第158図 図版41	弥生土器 甕	口径19.3※ 器高8.8△	外面口縁部1条の凹線。胴部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ後ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄褐色	
337	E2 VI層上面	第158図 図版42	弥生土器 底部	底径6.8※ 器高9.6△	外面胴部下半ミガキ。底部ナデ。内面胴部下半ケズリ後ナデ。底部ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良	外面灰褐色 内面にいり赤褐色	
338	E2 VI層	第158図 図版42	弥生土器 底部	底径5.6※ 器高6.3△	外面ミガキ。内面ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面黒褐色	底部外面より穿孔
339	E2 VI層	第158図 図版42	弥生土器 底部	底径5.8※ 器高14.5△	外面胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。内面最大胴部ハケ後ミガキ。胴部下半ケズリ後ミガキ。底部ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面明赤褐色 内面黒色	340と同一個体の可能性あり
340	E2 VI層	第158図 図版40	弥生土器 甕	口径16.8※ 器高23.0△	外面口縁部2条の凹線。胴部上半ハケ。胴部下半ミガキ。内面口縁部ナデ。肩部ハケ後ナデ。最大胴部ハケ後ミガキ。胴部下半ケズリ後ミガキ。底部ケズリ後ナデ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面明赤褐色 内面黒色	339と同一個体の可能性あり
341	E2 VI層	第159図 図版42	弥生土器 甕	口径18.9※ 器高16.8△	外面口縁部2条の凹線。胴部ハケ。最大胴部刺突文。風化が著しい。内面頸部ナデ。胴部ハケ後ナデ。風化が著しい。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	外面橙色 内面明黄褐色～橙色	
342	E2 VI層上面	第159図 図版41	弥生土器 甕	口径16.0※ 器高10.7△	外面口縁部2条の凹線。胴部ハケ。内面口縁部ナデ。頸部指押え後ハケ。胴部ハケ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面浅黄色 内面浅黄色～暗灰黄色	
343	E2 VI層	第159図 図版40	弥生土器 甕	口径13.2※ 底径8.2※ 最大径21.0※ 器高26.3	外面口縁部3条の凹線。肩胴部ハケ・ミガキ。内面ナデ・ハケ・ミガキ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄褐色	内外面スス附着
344	E2 VI層	第159図 図版42	弥生土器 甕	口径23.6※ 器高12.7△	外面口縁部2条の凹線。頸部貼付突帯。胴部ハケ。内面口縁部ナデ。胴部ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	内外面淡黄色	内外面スス附着
345	C3 VI層	第159図 図版41	弥生土器 甕	口径20.8※ 器高12.9△	外面口縁部3条の凹線。頸部貼付突帯後刺突文。胴部上半ハケ。最大胴部刺突文。内面口縁部ナデ。胴部上半ハケ後ミガキ。最大胴部ミガキ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり黄褐色	
346	D3 VI層	第159図 図版41	弥生土器 甕	口径28.0※ 器高16.0△	外面口縁部3条の凹線。頸部貼付突帯後刺突文。胴部上半ハケ。最大胴部刺突文。内面口縁部ナデ。胴部上半ナデ後ミガキ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面にいり黄褐色 内面にいり黄褐色～黒褐色	
347	D3・E2 VI層上面	第160図 図版40	弥生土器 甕	口径25.6※ 器高33.9△	外面口縁部3条の凹線。頸部貼付突帯。胴部上半ハケ。胴部下半ハケ後ミガキ。最大胴部貝殻腹縁による刺突文。内面口縁部ナデ。胴部上半ハケ後ミガキ。胴部下半ケズリ後ミガキ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良	内外面橙色	
348	E2 VI層	第160図 図版41	弥生土器 甕	口径29.2※ 胴部最大径38.0※ 器高33.6△	外面口縁部ナデ。頸部貼付突帯。肩部ハケ・刺突文。胴部ハケ後ミガキ。内面口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ・ミガキ。	密(3mm以下の砂粒を含む)	良	内外面にいり橙色	
349	E2 VI層	第161図 図版43	縄文土器 深鉢	器高8.2△	外面波頂部に隆帯で鍵手状入組文・渦巻沈線文。口唇部と口縁部下位にRLの縄文。口縁部下位ケズリ後ミガキ。胴部ナデ。内面口縁部～胴部ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む)	良	外面にいり黄褐色 内面にいり黄褐色	縁部文土器。波状口縁の深鉢

遺物観察表

350	C1 VI層	第161図 図版43	須恵器 高台杯	底径7.4※ 器高1.7△	外面回転ナデ。回転糸切り。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
351	竪穴住居3 埋土中	第167図 図版33	弥生土器 壺	口径18.6※ 器高10.5△	外面口縁部2条の凹線後縦方向の 刻目。頸～胴部ハケ後ナデ。頸部 2本の貼付突帯。 内面口縁～胴部ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内面にぶい黄褐色 外面暗褐色	
352	竪穴住居3 埋土中	第167図 図版34	弥生土器 壺	口径21.0※ 器高1.4△	外面口縁部貝縁による刺突・ミガ キ。内面口縁部格子文・ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐色	
353	竪穴住居3 埋土中	第167図 図版34	弥生土器 底部	底径6.2※ 器高6.5△	外面ミガキ。 内面ケスリ後ミガキ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰黄褐色	外面スス附着
354	竪穴住居3 埋土中	第167図 図版34	弥生土器 底部	底径5.9※ 器高3.8△	外面ミガキ。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面灰褐色 外面にぶい褐色	内外面スス附着
355	土坑19 埋土中	第172図 図版34	弥生土器 壺	器高7.9△	外面ハケ。 内面ナデ・ハケ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面浅黄褐	内外面スス附着
356	G5 表土中	第180図 図版47	土師器 杯	器高2.3△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後 ナデ。内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面褐色	内面「大」線刻
357	D4 表土中	第180図 図版47・48	灰釉陶器 杯	口径15.2※ 器高2.4△	外面回転ナデ。施釉。 内面回転ナデ。施釉	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰白色	
358	G5 表土中	第180図 図版47	青磁 碗	口径11.4※ 器高1.9△	外面施釉。口縁部横方向の陰刻 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰色	
359	D・E2 表土中	第180図 図版47	青磁 碗	底径7.8※ 器高3.2△	外面施釉。 内面施釉。	密	良	内外面オリーブ灰色 露胎部灰褐～灰色	
360	トレンチ	第180図 図版47	陶器 天目茶碗	口径11.3※ 器高5.0△	外面施釉。回転ナデ。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面黒褐色 露胎部褐色	
361	C4 表土中	第180図 図版47	陶器 天目茶碗	底径3.8※ 器高2.0△	外面露胎。 内面施釉。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内面黒色 露胎部褐色	
362	C4 表土中	第180図 図版46	土錘	最大長2.4△ 最大幅1.2 重さ2.9	ナデ	密	良		
363	C4 表土中	第180図 図版46	土錘	最大長4.4△ 最大幅1.2 重さ5.1	ナデ	密	良		
364	5区F-1 II層	第190図 図版23	青磁 碗	口径10.9※ 器高3.3△	外面施釉。陰刻文。 内面施釉。	密	良	内外面灰白色 露胎部灰色	
365	5区F-2 III層	第190図 図版24	須恵器 杯	口径13.0※ 器高2.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
366	5区F-1 III層	第190図 図版24	須恵器 杯	底径9.0※ 器高3.5△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後 ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
367	溝66 埋土中	第190図 図版35	須恵器 杯	底径7.0※ 器高2.4△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後 ナデ。 内面回転ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面灰色	
368	5区G-1 IV層	第190図 図版33	弥生土器 底部	底径5.6※ 器高3.6△	外面ミガキ。 内面ケスリ後ナデ。	密(2mm以下の 砂粒を含む)	良	内外面にぶい黄褐色	外面スス附着
369	5区F-1 IV層	第190図 図版43	土師器 甕	最大長7.7※ 最大幅6.2※ 最大厚2.2△	外面ナデ。 内面ナデ。	密(1mm以下の 砂粒を含む)	良	内外にぶい黄褐色	

表17 石器観察表

No	遺構・地区・層位名	挿図・図版	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S1	D4	第14図・図版45	石鎌	サヌカイト	2.5	1.4	0.3	1.5	凹基無茎鎌
S2	E4 I 層	第14図・図版45	石鎌	安山岩	2.5	1.55	0.3	1.4	
S3	D1 I 層	第14図・図版45	石鎌	安山岩	2.55	2.15	0.5	1.98	
S4	F2 I 層	第14図・図版45	石鎌	安山岩	2.25	1.3	0.4	1.1	
S5	F3 I 層	第14図・図版45	石鎌	黒曜石	2.15	1.0	0.35	0.7	
S6	F2 I 層	第14図・図版44	スクレイパー	黒曜石	2.9	1.8	0.7	3.1	
S7	H5 I 層	第14図・図版44	石錘	安山岩	6.3	5	1.4	63	
S8	G2 I 層	第14図・図版44	砥石	安山岩	6.0	2.7	2.0	53	
S9	溝5埋土中	第22図・図版44	石錘	安山岩	8.7	5.3	4.4	324	石斧の基部を転用した可能性あり
S10	溝5埋土中	第22図・図版44	磨・敲石	角閃石安山岩	15.2	7.1	3.9	580	
S11	溝5埋土中	第22図・図版45	石鎌	安山岩	1.85	1.3	0.2	0.6	
S12	E4 II 層	第24図・図版45	石鎌	サヌカイト	3.6	2.1	0.63	4.0	
S13	E4 II 層	第24図・図版45	スクレイパー	黒曜石	2.25	1.95	0.55	1.8	
S14	E4 II 層	第24図・図版44	石鎌未成品	安山岩	1.8	1.4	0.15	0.86	
S15	近世耕作痕埋土中	第43図・図版45	石鎌	黒曜石	1.7	1.35	0.3	0.6	
S16	E2 III 層	第46図・図版44	磨・敲石	安山岩	10.9	6.5	2.4	280	
S17	F4 III 層	第46図・図版44	砥石	安山岩	8.7	2.4	2.2	68.7	
S18	D5 III 層	第46図・図版44	砥石	片岩	6.2	2.7	1.5	31	
S19	F3 III 層	第46図・図版45	石鎌	安山岩	1.8	1.35	0.25		
S20	F3 III 層	第46図・図版45	石鎌	黒曜石	1.45	1.3	0.15	0.3	
S21	F3 III 層	第46図・図版45	石鎌	黒曜石	1.0	1.1	0.15	0.1	
S22	B3 III 層	第46図・図版44	尖頭器	黒曜石	3.7	1.4	0.4	2.4	
S23	溝20埋土中	第58図・図版22	台石	安山岩	26.9	15.0	8.7	6230	
S24	E5 IV 層	第65図・図版44	楔型石器	黒曜石	3.2	2.8	1	9.5	
S25	D1 IV 層	第65図・図版44	磨・敲石	安山岩	8.3	8.8	2.1	242	
S26	F3 V 層	第114図・図版44	磨製石斧	片岩	8.5	5.1	3.2	213	刃部片
S27	D4 V 層	第114図・図版45	石鎌	安山岩	2.05	1.5	0.35	0.8	
S28	竪穴住居1埋土中	第118図・図版33	台石	安山岩	28.5	36.9	9.6	15800	
S29	竪穴住居2埋土中	第122図・図版44	磨石	安山岩	12.5	10.4	4.9	710	表裏に敲打痕あり
S30	土坑11埋土中	第129図・図版44	磨石	角閃石安山岩	13.5	10.5	5.5	1103	
S31	土坑11埋土中	第129図・図版44	磨石	安山岩	9.3	7.6	5.3	490	
S32	土坑11埋土中	第129図・図版34	台石	安山岩	20.0	34.0	11.0	9900	
S33	土坑12埋土中	第132図・図版44	スクレイパー	安山岩	4.1	2.6	0.4	5.6	
S34	土坑13埋土中	第134図・図版45	石鎌	安山岩	2.8	1.8	0.35	1.6	
S35	土坑13埋土中	第134図・図版44	磨石	角閃石安山岩	8.2	6.2	2.2	163	全面磨面
S36	土坑13埋土中	第134図・図版44	磨石	安山岩	11.6	4.8	3	228	
S37	土坑14埋土中	第137図・図版44	石包丁	雲母片岩	2.6	4.4	0.8	10	
S38	土坑17埋土中	第143図・図版44	砥石	安山岩	18	5.9	5	835	
S39	土坑17埋土中	第143図・図版44	磨石	安山岩	14.0	9.1	4.6	850	表裏に砥面、裏面・上下面敲打痕あり
S40	F4 VI 層上面	第162図・図版44	楔型石器	黒曜石	2.0	2.3	0.75	4.1	
S41	E1 VI 層上面	第162図・図版44	砥石	砂岩	3.6	3.2	3.2	27	
S42	E3 VI 層	第162図・図版44	砥石	砂岩	4.9	7.0	2.3	52	
S43	C3 VI 層	第162図・図版44	石斧	安山岩	8.6	5.2	5.5	344	破損後磨石に転用
S44	VI 層	第162図・図版44	石斧	安山岩	12.3	6.4	4.2	515	
S45	D3 VI 層	第162図・図版44	磨製石斧	安山岩	12.2	5.5	4.7	490	基部片。装着痕あり。表裏面敲打痕あり
S46	C3 VI 層	第162図・図版44	磨製石斧	安山岩	13.3	5.9	4.6	475	敲打による基部調整
S47	竪穴住居3埋土中	第166図・図版44	磨・敲石	安山岩	12.2	8	3	430	
S48	竪穴住居3埋土中	第166図・図版44	敲石	安山岩	9.3	10.9	3.8	595	
S49	F3表土中	第180図・図版44	砥石	安山岩	4.7	7.0	19.5	110	
S50	D4表土中	第180図・図版44	砥石	角閃石安山岩	5.8	3	2.5	60	
S51	I5表土中	第180図・図版45	石鎌	サヌカイト	2.5	1.6	0.4	1.5	
S52	表土中	第180図・図版45	石鎌	安山岩	2.5	1.3	0.35	1.1	
S53	5区F-2IV層	第190図・図版45	石鎌	黒曜石	2.0	1.5	0.45	0.9	

表18 金属器観察表

No.	遺構・地区・層位名	挿図・図版	種類	器種	法量(cm)	形態・手法上の特徴	備考
F1	E4 I層	第14図	鍛造鉄製品	環状不明品	最大長11.1 最大幅8.2 最大厚0.6 重さ62.5 g	径8 cm前後の環に、凸状に提げ手が接続する。環の断面は楕円形。環内側下部に瘤状の突起あり。飾り金具の一種か。	
F2	C3 I層	第14図	鍛造鉄製品	板状不明品	最大長5.0△ 最大幅3.9△ 最大厚0.6 重さ44.8g	やや厚手の板状不明品。端部は平坦面をもつ。	
F3	D3 I層	第14図	鍛造鉄製品	板状不明品	最大長4.6△ 最大幅2.4△ 最大厚0.4 重さ14.2 g	やや湾曲する板状不明品。端部は平坦面をもつ。	
F4	D3 I層	第14図	鍛冶滓		最大長2.7 最大幅1.9 最大厚1.2 重さ10.6 g	小型の鍛冶滓。	
F5	D2 I層	第14図	椀形鍛冶滓		最大長6.9 最大幅7.5 最大厚2.3 重さ125.0 g	大型の椀形鍛冶滓。側面は破面をなし、下面は湾曲する。	
F6	D3 I層	第14図	椀形鍛冶滓		最大長3.9 最大幅6.8 最大厚2.7 重さ73.5 g	中型の椀形鍛冶滓の破片。上手側に破面を残す。下面は椀形を呈す。	
F7	G2 I層	第14図	椀形鍛冶滓		最大長3.7 最大幅5.2 最大厚2.7 重さ62.5 g	2個体の滓が接着したもの。上方のものは側面を工具で切り落としたように端面をもつ。下方のものは薄手の椀形鍛冶滓。	
F8	D1 I層	第14図	鍛冶滓		最大長3.2 最大幅5.6 最大厚2.3 重さ32.8 g	小型の鍛冶滓。	
F9	H5 II層	第24図	鍛造鉄製品	刀子	最大長5.3△ 最大幅1.6 最大厚0.4 重さ10.4 g △	刃部先端、茎部先端部を欠く。片閃。	
F10	G5 II層	第24図	鍛造鉄製品	板状不明品	最大長4.2△ 最大幅1.7 最大厚0.4 重さ21.2 g △	一方端を欠き、もう一方端は丸くなる。刀子又は小刀茎部か。	
F11	G5 II層	第24図	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長5.0△ 最大幅1.7 最大厚0.5 重さ21.2 g △	長紡錘状を呈す。刀子になるか。	
F12	溝7 埋土中	第31図 図版46	椀形鍛冶滓		最大長5.8 最大幅5.8 最大厚4.1 重さ120.0 g	中型の椀形鍛冶滓破片。側面から下面はきれいな椀形を呈す。上面は緩やか窪む。	
F13	近世耕作痕 埋土中	第43図 図版46	椀形鍛冶滓		最大長11.9 最大幅7.4 最大厚7.2 重さ800.0 g	大型の椀形鍛冶滓。側面は破面をなし、下面は湾曲する。	
F14	F2 III層	第46図	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長12.2△ 最大幅0.6 最大厚0.5 重さ24.8 g △	断面方形を呈す棒状不明品。	F14・15・16同一個体か
F15	F2 III層	第46図	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長10.4△ 最大幅0.7 最大厚0.5 重さ21.4 g △	断面略方形を呈す棒状不明品。一方端が曲がり、先端部に続くものと思われる。	F14・15・16同一個体か
F16	F2 III層	第46図	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長8.2△ 最大幅0.8 最大厚0.4 重さ8.5 g △	断面方形を呈す棒状不明品。一方端は幅が広がりがつある。もう一方端は緩やかに屈曲する。	F14・15・16同一個体か
F17	C3 III層	第46図	鍛造鉄製品	釘	最大長3.4△ 最大幅0.7 最大厚0.4 重さ6.0 g △	断面長方形を呈す鉄釘先端部。頭部を欠く。	
F18	D2 III層	第46図	鍛造鉄製品	刀子	最大長5.5△ 最大幅1.2 最大厚0.3 重さ13.8 g △	刀子刃部から茎部にかけての破片。無閃。	
F19	I4 III層	第46図	鍛造鉄製品	鈍	最大長4.5△ 最大幅1.9 最大厚0.2 重さ7.7 g △	柳刃の鈍刃部破片。先端部は鋭く尖り、両側に刃がつく。	
F20	C4 III層	第46図	鍛造鉄製品	環状不明品	最大長3.4 最大幅0.7 最大厚0.3 重さ9.7 g	断面方形の棒状鉄器を環状に曲げたもの。	

F21	F4Ⅲ層	第46図	鑄造鉄製品	鍋	最大長5.3△ 最大幅6.7△ 最大厚0.4 重さ48.0 g △	ほぼ直立する鑄鉄製鍋口縁部破片。器壁は薄くやや湾曲する。	
F22	C3Ⅲ層	第46図	鑄造鉄製品	鍋	最大長5.9△ 最大幅3.5△ 最大厚0.4 重さ35.4 g △	やや湾曲しながら直立する鑄鉄製鍋口縁部破片。端部は平坦面をもつ。	
F23	C4Ⅲ層	第46図	鑄造鉄製品	鍋	最大長5.5△ 最大幅3.3△ 最大厚0.32 重さ36.8 g △	鑄鉄製鍋の底部破片か。器壁は薄手で緩やかに湾曲する。	
F24	F3Ⅲ層	第46図	鍛冶滓		最大長3.8 最大幅4.0 最大厚3.2 重さ54.5 g	含鉄の鍛冶滓。	
F25	F3Ⅲ層	第46図	鍛冶滓		最大長3.9 最大幅4.7 最大厚2.1 重さ36.2 g	含鉄の鍛冶滓。	
F26	D4Ⅲ層	第46図	椀形鍛冶滓		最大長5.3 最大幅3.8 最大厚1.5 重さ34.4 g	中型の椀形鍛冶滓破片。下面はきれいな椀形を呈す。上面は膨らむ。	
F27	D2Ⅲ層	第46図	鍛冶滓		最大長3.2 最大幅2.5 最大厚1.0 重さ16.2 g		
F28	掘立柱建物2P2埋土中	第51図 図版46	鍛造鉄製品	環状不明品	最大長2.9△ 最大幅1.3 最大厚0.3 重さ6.9 g △	断面楕円形の棒状品を折り曲げたもの。	
F29	溝20埋土中	第58図 図版46	鍛造鉄製品	刀	最大長3.4△ 最大幅2.0 最大厚0.4 重さ18.2 g △	直刀刃部破片。茎部に向かって細くなる。	
F30	D4Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	刀子	最大長4.6△ 最大幅1.1 最大厚0.4 重さ16.0 g △	細身の刀子刃部破片。切先、茎部を欠く。	
F31	E1Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	小刀	最大長5.1△ 最大幅1.4 最大厚0.3 重さ8.6 g △	小刀茎部破片か。断面長方形。	
F32	D4Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	袋状鑿	最大長3.7△ 最大幅1.8△ 最大厚0.6 重さ6.4 g △	袋状鑿の装着部破片と思われる。鉄板を折り曲げ装着部にする。先端部を欠く。	
F33	C・D4Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	袋状鉄斧	最大長6.7 最大幅4.1 最大厚1.5 重さ101.0g	装着部はソケット状になる断面長方形の袋状鉄斧。刃部は尖り気味。	
F34	D4Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	釘	最大長2.7△ 最大幅0.4 最大厚0.3 重さ2.0 g △	断面方形の釘先端部破片。	
F35	E5Ⅳ層	第65図	鍛造鉄製品	釘	最大長9.8△ 最大幅0.9 最大厚0.7 重さ27.6 g △	ほぼ完形の釘。断面方形を呈し、頭部は折れ曲がる。全体的に湾曲する。	
F36	D4Ⅳ層	第65図	粘土質溶解物		最大長4.2 最大幅6.6 最大厚2.8 重さ43.4 g	不規則な粘土質溶解物。	
F37	D4Ⅳ層	第65図	鍛冶滓		最大長4.7 最大幅4.4 最大厚3.5 重さ110.0 g	断面長方形の厚手の鍛冶滓。	
F38	D4Ⅳ層	第65図	粘土質溶解物		最大長2.9 最大幅3.6 最大厚1.4 重さ11.4 g		
F39	D4Ⅳ層	第65図	鍛冶滓		最大長3.0 最大幅4.3 最大厚1.9 重さ37.0 g		
F40	D4Ⅳ層	第65図	流動滓		最大長6.3 最大幅4.9 最大厚1.5 重さ88.5 g	緻密な流動滓破片。滓表面は平滑。	
F41	C3Ⅳ・V層	第68図	鍛造鉄製品	袋状鉄斧	最大長7.4 最大幅3.5 最大厚1.6 重さ84.5 g	装着部はソケット状になる細身の袋状鉄斧。刃部は尖り気味。	

遺物観察表

F42	D3IV・V層	第68図	鑄造鉄製品	鍋	最大長6.9△ 最大幅5.0△ 最大厚0.26 重さ92.5 g △	鑄鉄製鍋体部破片。器壁は薄く、やや湾曲する。	
F43	C4IV・V層	第68図	鍛造鉄製品	鉈か	最大長4.9△ 最大幅1.6 最大厚0.4 重さ40.8 g △	平面薄い長方形を呈す鉈茎部か。断面長方形。	
F44	C4IV・V層	第68図	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長10.6△ 最大幅0.9 最大厚0.3 重さ20.2 g	先端部に向かって幅が広がる、断面長方形を呈す棒状不明品。	
F45	D4IV・V層	第68図		鉸具状鉄製品	最大長3.5△ 最大幅3.1△ 最大厚0.6 重さ17.6 g	方形鉄板に、断面方形の棒状品を環状に折り曲げたものを帯状の細い鉄板で固定する。帯状の細い鉄板は方形鉄板に鉸留めされる。方形鉄板は挟りが設けられる。馬具か。	
F46	C4IV・V層	第68図	鍛造鉄製品	刀子	最大長6.6△ 最大幅1.1 最大厚0.2 重さ16.2 g △	薄造りの刀子刃部破片。切先に向かって細くなる。撫闕。茎部は断面長方形で長い。鋏刃部の可能性もあり。	
F47	C4IV・V層	第68図	鑄造鉄製品	鍋	最大長2.4△ 最大幅3.5△ 最大厚0.9 重さ18.8 g △	厚手の鑄鉄製鍋口縁部破片か。	
F48	掘立柱建物3P3埋土中	第72図 図版46	鍛造鉄製品	雁又鎌	最大長12.7△ 最大幅3.0△ 最大厚0.7 重さ22.8 g △	鎌身先端は二股に分かれ、内側に刃がつく。両闕。茎部は断面方形で長い。	
F49	掘立柱建物3P3埋土中	第72図 図版46		鍛冶滓	最大長3.1 最大幅3.6 最大厚1.1 重さ10.2 g		
F50	掘立柱建物4P113埋土中	第74図 図版46	鍛造鉄製品	刀子	最大長7.4△ 最大幅0.9 最大厚0.4 重さ8.2 g	細身の刀子刃部破片。茎部に向かって細くなる。	
F51	土坑6埋土中	第75図 図版46	鍛造鉄製品	鎌	最大長7.3△ 最大幅2.1 最大厚0.4 重さ30.4 g △	刃部破片。木質付着。	
F52	C4整地層	第80図 図版46	鑄造鉄製品	鍋	最大長9.9△ 最大幅6.9△ 最大厚0.9 重さ120.0 g △	鑄鉄製鍋体部から底部にかけての破片。器壁は厚く、やや湾曲する。	
F53	C4整地層	第80図 図版46	鍛造鉄製品	刀子	最大長2.0△ 最大幅1.8 最大厚0.25 重さ12.6 g △	刀子刃部破片。背がやや湾曲する。	
F54	D4整地層	第80図 図版46		桃形鍛冶滓	最大長7.0 最大幅6.3 最大厚2.1 重さ80.0 g	中型の桃形鍛冶滓。側面から下面はきれいな桃形を呈す。上面は緩やか窪む。	
F55	柵2P埋土中	第84図 図版46	鍛造鉄製品	棒状不明品	最大長3.4△ 最大幅0.7 最大厚0.6 重さ6.2 g △	断面方形の棒状不明品。端部は闕をもつ。	
F56	E4VI層	第162図	鍛造鉄製品	刀	最大長6.8△ 最大幅3.6 最大厚0.9 重さ110.0 g △	幅広の直刀刃部破片。	
F57	4区表土中	第180図		鍛冶滓	最大長3.3 最大幅6.0 最大厚2.0 重さ34.4 g		
F58	4区D4表土中	第180図		鍛冶滓	最大長4.7 最大幅3.7 最大厚2.2 重さ42.4	含鉄の鍛冶滓。	
C1	F3 I層	第14図	古銭	寛永通寶			
C2	E4表土中	第180図	古銭	淳化元寶			